

第 134 回  
火山噴火予知連絡会資料

( その 8 )

その他の火山 ( 気象庁 )

平成 28 年 2 月 17 日

# 火山噴火予知連絡会資料（その8）

## 目次

### 気象庁

その他の火山（要約）…………… 3

北海道地方の火山…………… 4

知床硫黄山 4-6、羅臼岳 7-8、天頂山 9-10、摩周 11、雄阿寒岳 12-14、  
丸山 15-18、利尻山 19-21、恵庭岳 22-24、羊蹄山 25-27、ニセコ 28-29、  
渡島大島 30、茂世路岳 31、散布山 32、指臼岳 33、小田萌山 34、  
択捉焼山 35、択捉阿登佐岳 36、ペルタルベ山 37、ルルレイ岳 38、  
爺爺岳 39、羅臼山 40、泊山 41

東北地方の火山…………… 42

恐山 42-43、十和田 44-48、八幡平 49-50、鳴子 51-52、燧ヶ岳 53-54  
肘折 55-57、沼沢 58-59、

関東・中部地方、伊豆・小笠原諸島の火山…………… 60

赤城山 60-61、榛名山 62-63、妙高山 64-66、高原山 67-68、横岳 69-70、  
アカンダナ山 71-72、利島 73-74、御蔵島 75-76、ペヨネース列岩 77、  
須美寿島 78、伊豆鳥島 79、孀婦岩 80、海徳海山 81、噴火浅根 82、  
北福德堆 83、海形海山 84、南日吉海山 85、日光海山 86、

中国・九州地方及び南西諸島の火山…………… 77

三瓶山 87-88、開聞岳 89-90、中之島 91-92、阿武火山群 93-94、由布岳 95-99、  
福江火山群 100-101、米丸・住吉池 102-103、若尊 104-105、池田・山川 106-107、  
口之島 108-109、硫黄鳥島 110-112、西表島北北東海底火山 113

## その他の火山（要約）（2015 年 12 月 31 日現在）

### その他の火山の評価（2015 年 2 月～2015 年 12 月 31 日）

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

### 火山名

#### 1．北海道地方

知床硫黄山、羅臼岳、天頂山、摩周、雄阿寒岳、丸山、利尻山、恵庭岳、羊蹄山、ニセコ、渡島大島、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山

#### 2．東北地方

恐山、十和田、八幡平、鳴子、肘折、沼沢、燧ヶ岳

#### 3．関東・中部地方、伊豆・小笠原諸島

高原山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、アカンダナ山、利島、御蔵島、ベヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、嬬婦岩、海形海山、海徳海山、噴火浅根、北福德堆、南日吉海山、日光海山

#### 4．中国・九州地方及び南西諸島

三瓶山、阿武火山群、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島、硫黄鳥島、西表島北北東海底火山

# 知床硫黄山

(2015年12月31日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

## 概況（2015年2月～2015年12月31日）

### ・表面活動（第1図～第4図）

2015年5月18日に実施した上空からの観測（国土交通省北海道開発局の協力による）では、北西側中腹の爆裂火口では噴気は認められなかった。赤外熱映像装置による観測では、北西側中腹の爆裂火口で弱い地熱域が認められたが、2012年6月と比較して特段の変化はみられなかった。なお、山頂部は雲により確認できなかった。

また、カムイワッカ川や硫黄川の河口付近の海岸には、北西側中腹の爆裂火口から流出した温泉水による変色域が確認された。

### ・地震活動（第5図）

山体及び周辺で発生する地震は少ない状態で経過した。



第1図 知床硫黄山 周辺図（矢印は赤外熱映像及び写真の撮影方向）

この地図の作成には、国土地理院発行の『電子地形図（タイル）』の複製を使用した

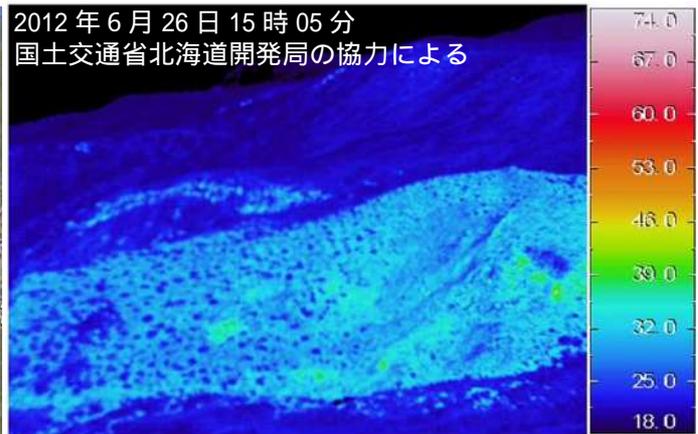
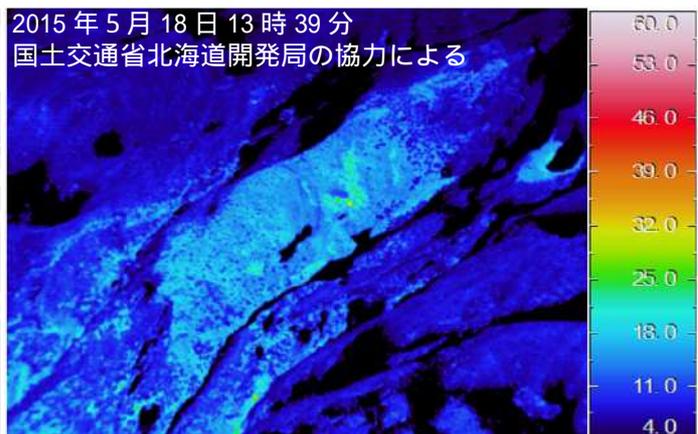
この資料は気象庁のほか、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成した。



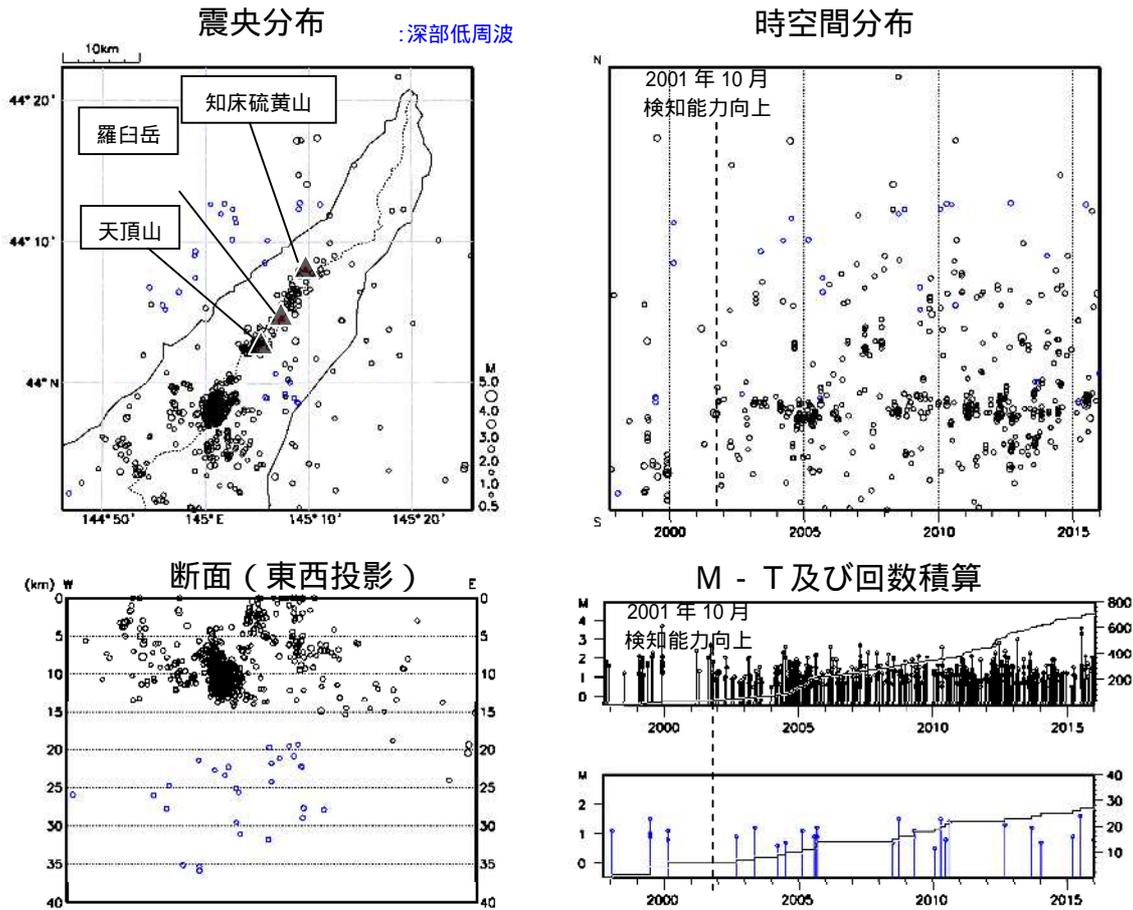
第2図 知床硫黄山 北西側上空からの状況  
第1図- から撮影



第3図 知床硫黄山 カムイワッカ川から  
流出した温泉水による変色域の状況  
第1図- から撮影



第4図 知床硫黄山 北西側中腹の爆裂火口の地表面温度分布  
上：第1図- から撮影 下：第1図- から撮影



第 5 図 知床硫黄山 一元化震源による周辺の地震及び深部低周波地震活動 (1997 年 10 月 ~ 2015 年 12 月 31 日、M 0.5、深さ 40km 以浅)  
 青色のシンボルは深部低周波地震  
 2001 年 10 月以降、Hi-net の追加に伴い、検知力が向上している。  
 この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50m メッシュ (標高)』を使用した。

# 羅 白 岳

( 2015 年 12 月 31 日現在 )

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。  
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

## 概況（2015年2月～2015年12月31日）

### ・表面活動（第1図～第3図）

2015年5月18日に実施した上空からの観測(国土交通省北海道開発局の協力による)では、噴気は見られず、赤外熱映像装置による観測では地熱域は認められなかった。なお、山頂部は雲により確認できなかった。

### ・地震活動（第4図）

山体及び周辺で発生する地震は少ない状態で経過した。

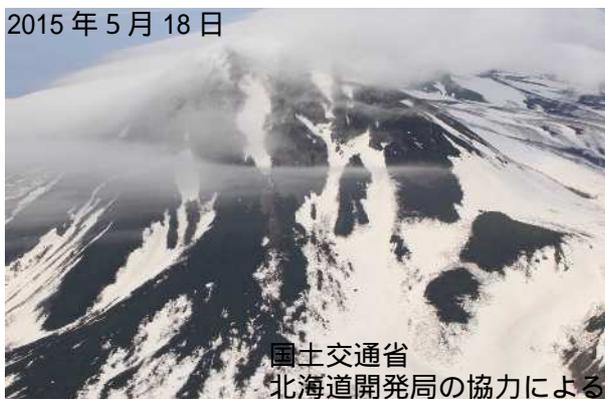


第1図 羅白岳 周辺図と赤外熱映像及び写真の撮影方向（矢印）  
この地図の作成には、国土地理院発行の『電子地形図（タイル）』の複製を使用した



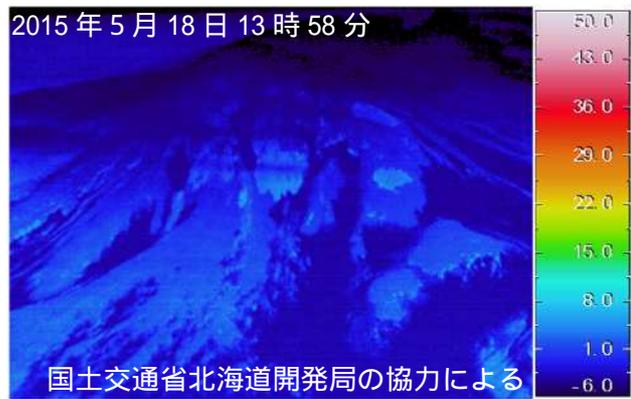
2015年5月18日  
国土交通省北海道開発局の協力による

第2図 羅白岳 全景写真  
第1図- から撮影



2015年5月18日

国土交通省  
北海道開発局の協力による

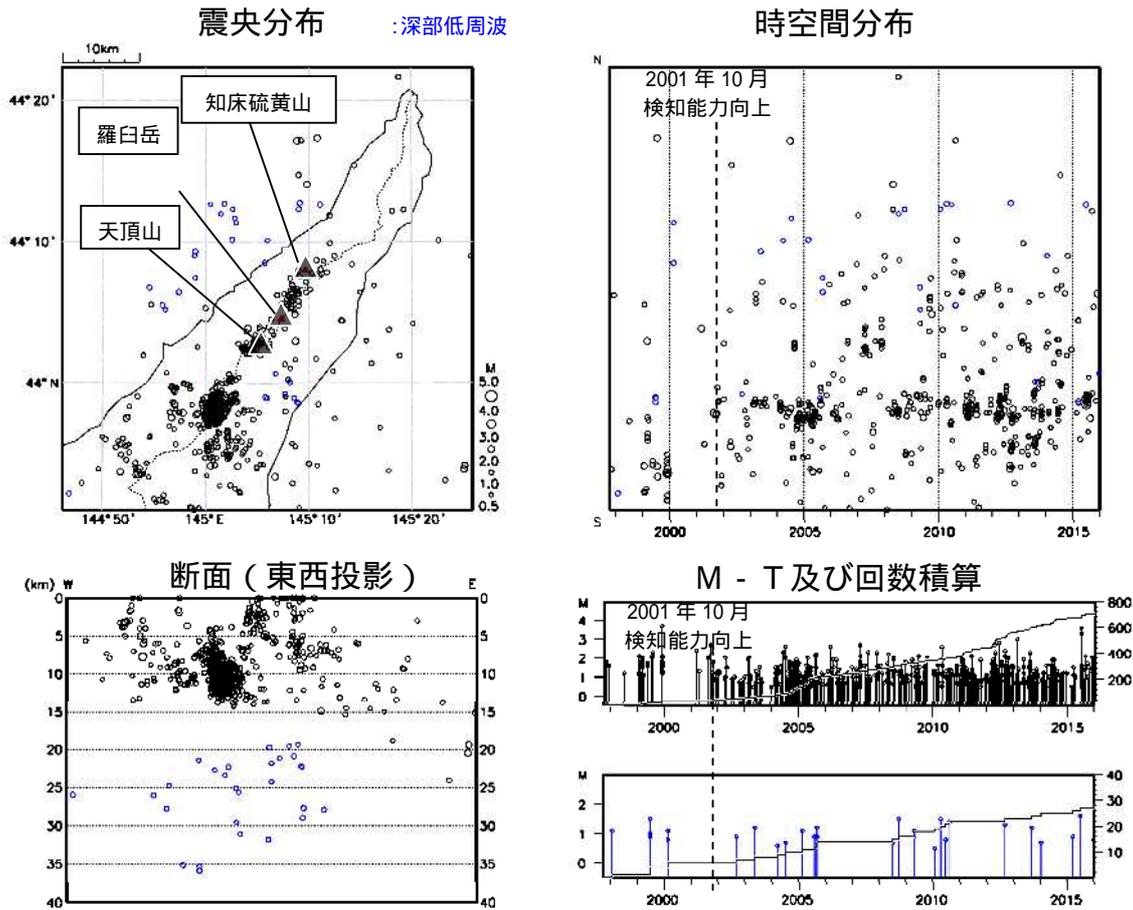


2015年5月18日 13時58分

国土交通省北海道開発局の協力による

第3図 羅白岳 赤外熱映像装置による山頂付近の地表面温度分布  
左：第1図- から撮影 右：第1図- から撮影

この資料は気象庁のほか、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成した。



第 4 図 羅臼岳 一元化震源による周辺の地震及び深部低周波地震活動  
 (1997年10月～2015年12月31日、M 0.5、深さ40km以浅)  
 青色のシンボルは深部低周波地震  
 2001年10月以降、Hi-netの追加に伴い、検知力が向上している。  
 この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』を使用した。

# 天頂山

(2015年12月31日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。  
 噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

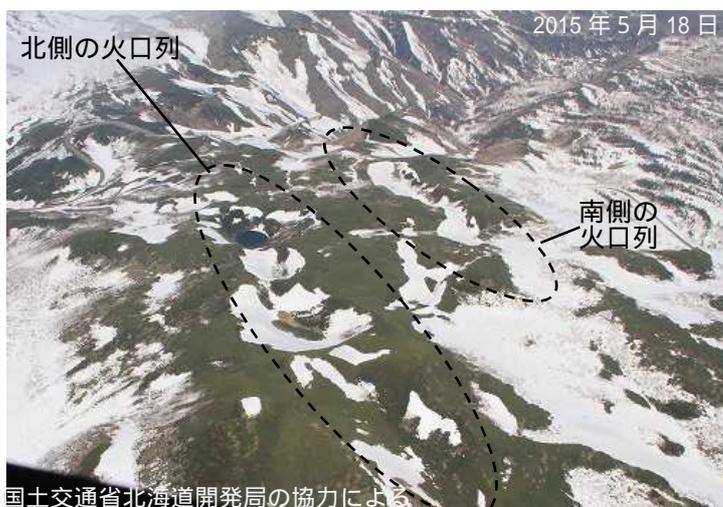
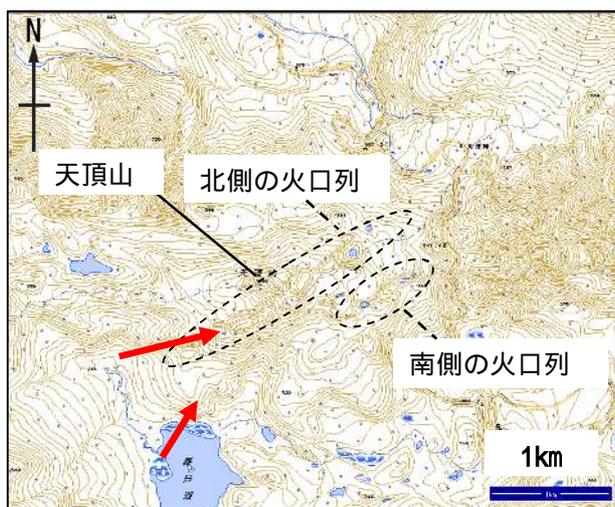
## 概況（2015年2月～2015年12月31日）

- ・表面活動（第1図～第3図）

2015年5月18日に実施した上空からの観測（国土交通省北海道開発局の協力による）では、山頂付近及び火口列に噴気は認められず、赤外熱映像装置による観測では、地熱域は認められなかった。

- ・地震活動（第4図）

山体及び周辺で発生する地震は少ない状態で経過した。



第1図 天頂山 周辺図

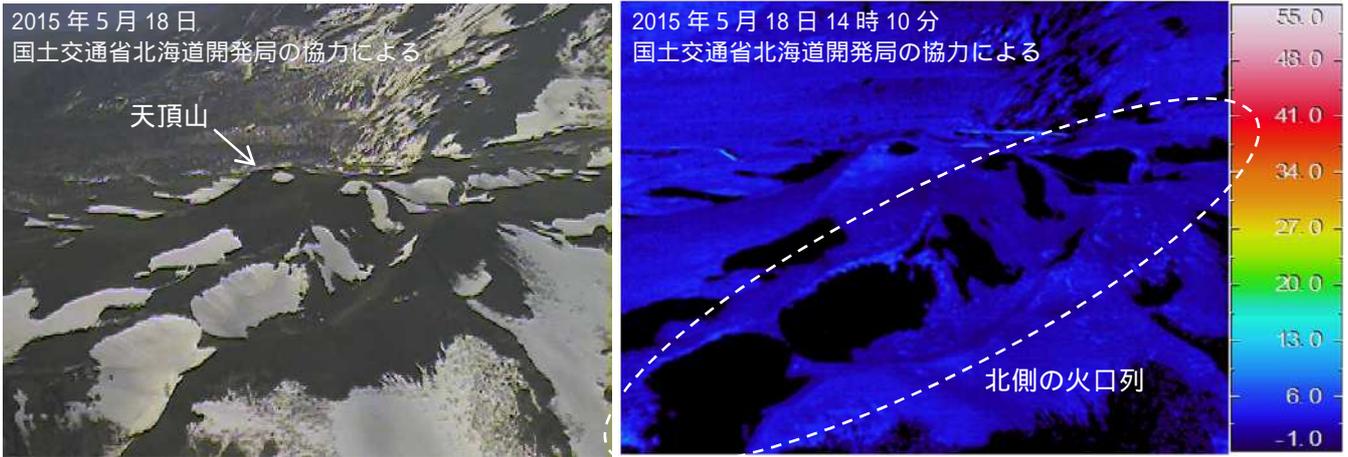
（矢印は写真及び赤外熱映像の撮影方向）

この地図の作成には、国土地理院発行の『電子地形図（タイル）』の複製を使用した

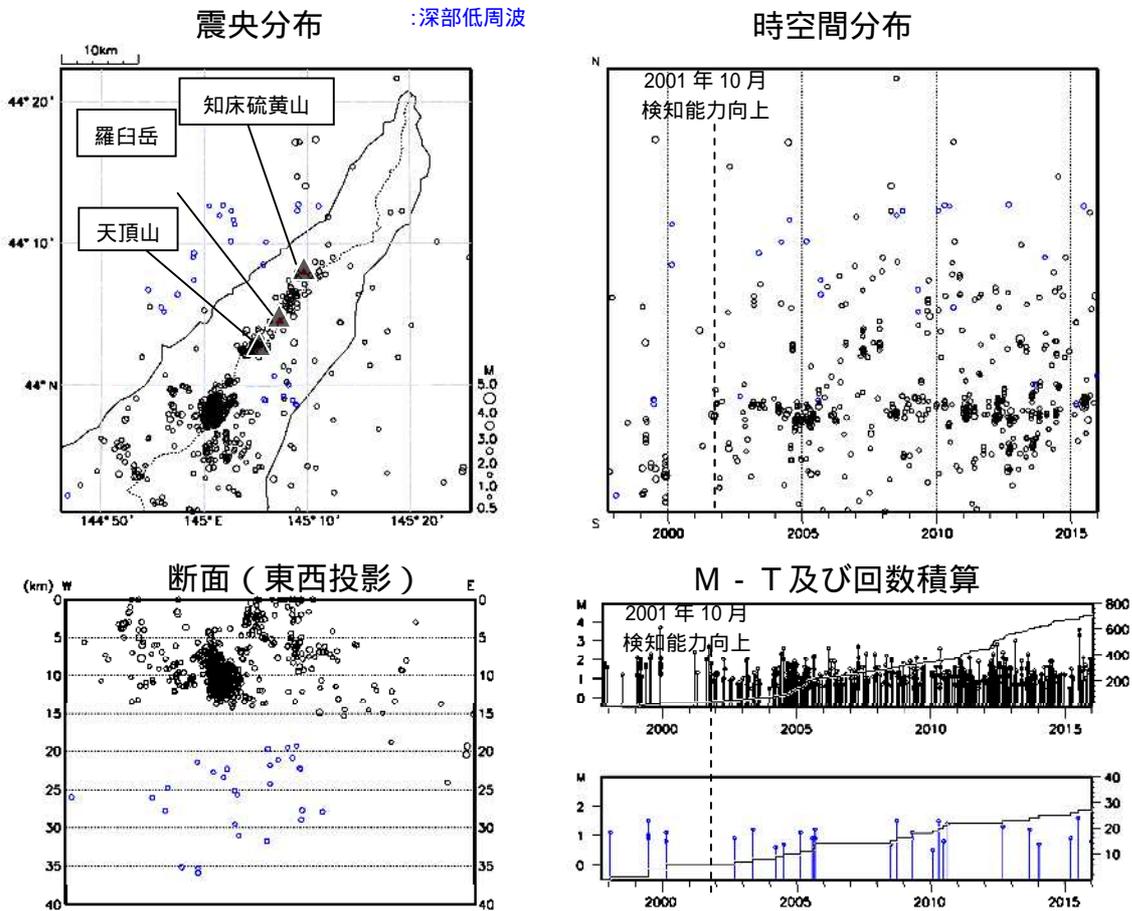
第2図 天頂山 火口列の状況

第1図- から撮影

この資料は気象庁のほか、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成した。



第 3 図 天頂山 火口列の地表面温度分布の状況 第 1 図- から撮影



第 4 図 天頂山 一元化震源による周辺の地震及び深部低周波地震活動 (1997 年 10 月 ~ 2015 年 12 月 31 日、M 0.5、深さ 40km 以浅)  
 青色のシンボルは深部低周波地震  
 2001 年 10 月以降、Hi-net の追加に伴い、検知力が向上している。  
 この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50m メッシュ (標高)』を使用した。

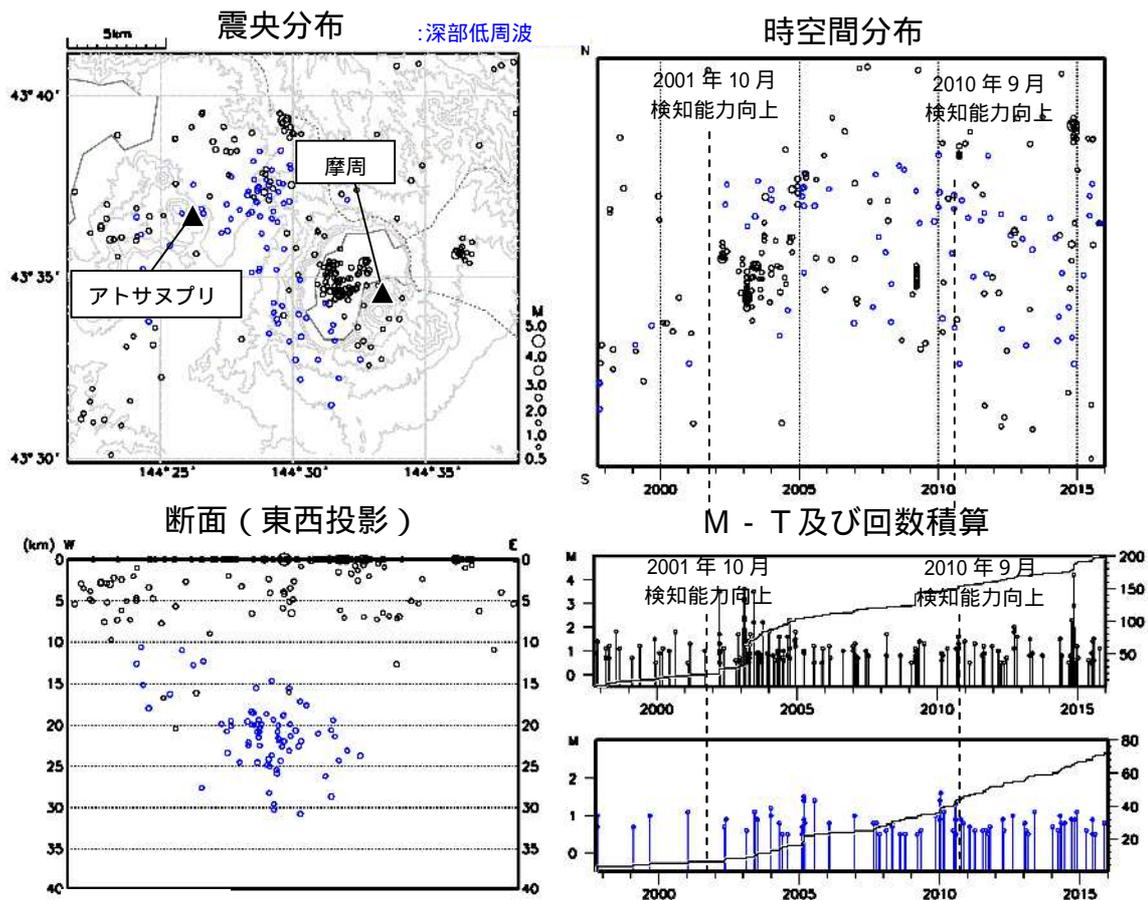
# 摩 周

(2015 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。  
 噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

## 概況（2015 年 2 月～2015 年 12 月 31 日）

- ・表面活動  
 摩周に関して異常現象等の報告はされていない。
- ・地震活動（第 1 図）  
 山体及び周辺で発生する地震は少ない状態で経過した。



第 1 図 摩周 一元化震源による周辺の地震及び深部低周波地震活動  
 （1997 年 10 月～2015 年 12 月 31 日、M 0.5、深さ 40km 以浅）  
 青色のシンボルは深部低周波地震。  
 2001 年 10 月以降、Hi-net の追加に伴い検知能力が向上している。  
 この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50m メッシュ(標高)』を使用した。

この資料は気象庁のほか、北海道大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成した。

# 雄阿寒岳

(2015年12月31日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

## 概況（2015年2月～2015年12月31日）

### ・表面活動（第1図～第3図）

2015年5月18日に実施した上空からの観測（国土交通省北海道開発局の協力による）では、噴気は認められなかった。赤外熱映像装置による観測では、以前から見られている北側斜面の地熱域以外に地熱域は見られず、地表面温度分布に特段の変化はなかった。

### ・地震活動（第4図）

周辺で発生する地震は少ない状態で経過した。一元化震源によると、6月4日04時34分に雄阿寒岳の西北西約10km付近（阿寒湖付近）でマグニチュード5.0の地震が発生し、釧路市阿寒町阿寒湖温泉で震度5弱を観測した。この地震の発生前後で雄阿寒岳の火山活動に特段の変化は認められなかった。阿寒湖付近を震源とする地震活動はその後も継続している。



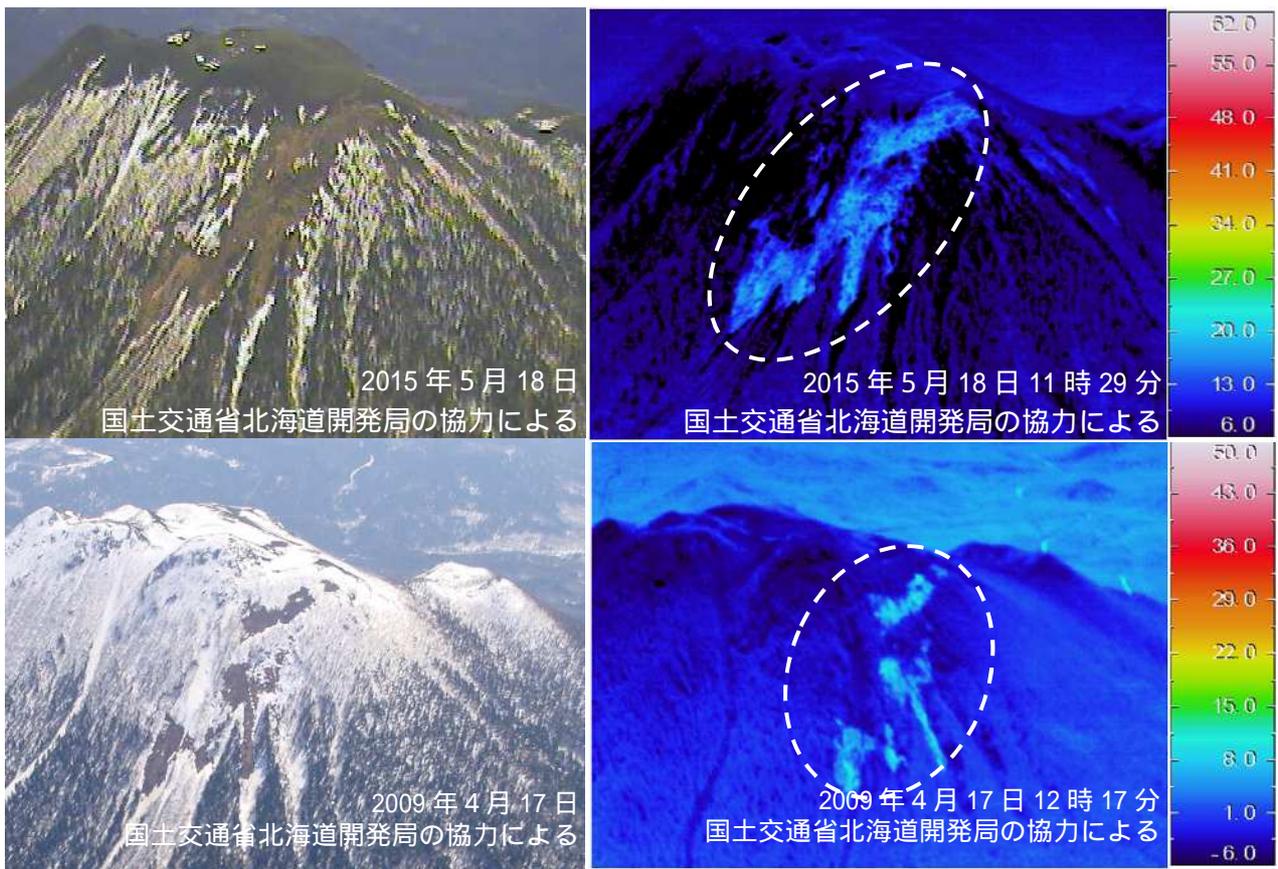
第1図 雄阿寒岳 周辺図

（矢印は写真及び赤外熱映像の撮影方向）

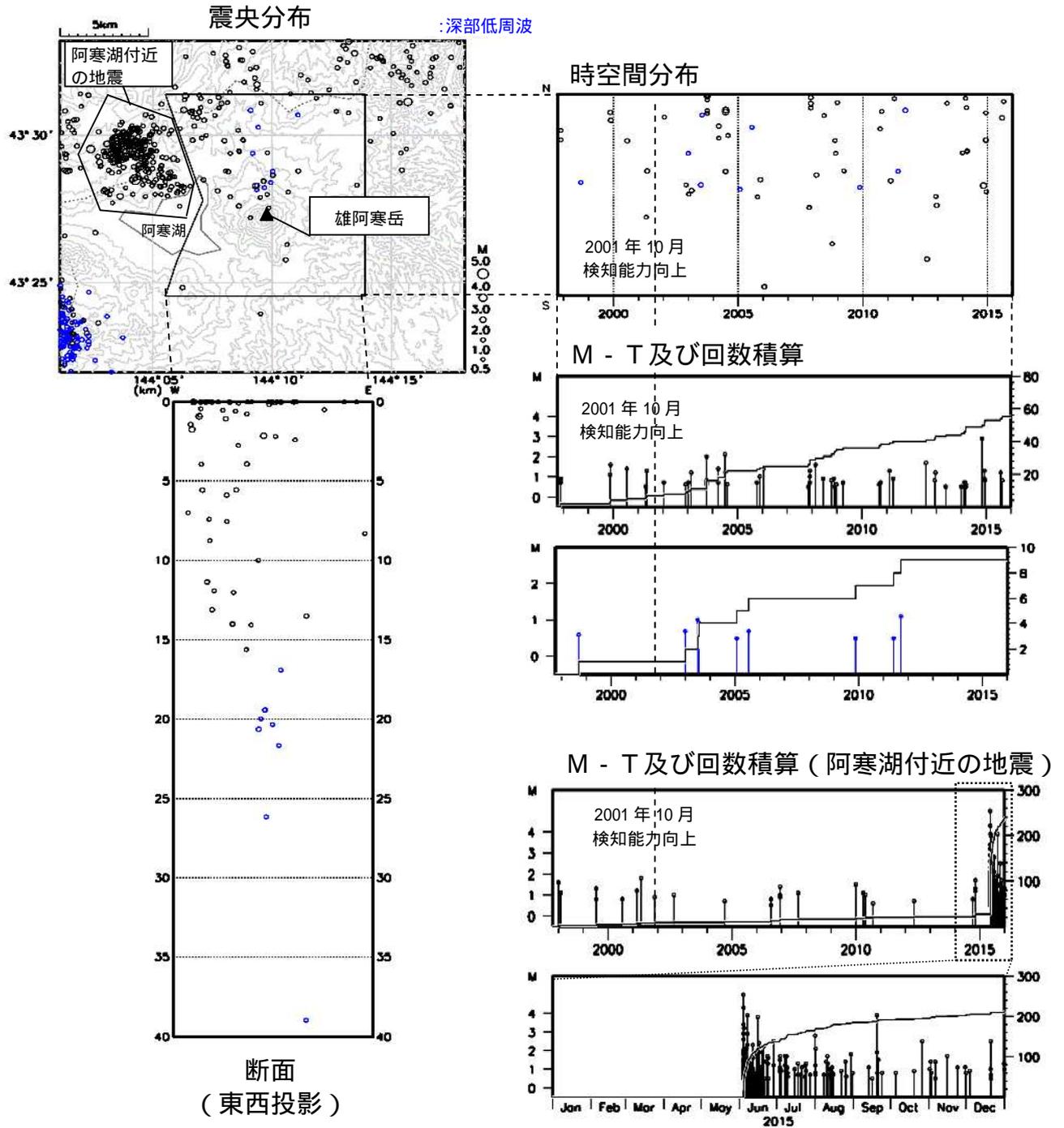
この地図の作成には、国土地理院発行の『電子地形図(タイル)』の複製を使用した



第 2 図 雄阿寒岳 南東側斜面の状況  
第 1 図- から撮影



第 3 図 雄阿寒岳 北西側斜面の地表面温度分布  
上：第 1 図- の方向から撮影、下：第 1 図- の方向から撮影  
楕円内は北側斜面の地熱域



第 4 図 雄阿寒岳 一元化震源による周辺の地震及び深部低周波地震活動  
 (1997年10月～2015年12月31日、M 0.5、深さ40km以浅)  
 青色のシンボルは深部低周波地震。  
 2001年10月以降、Hi-netの追加に伴い検知能力が向上している。  
 この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』を使用した。

## 丸 山

(2015 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

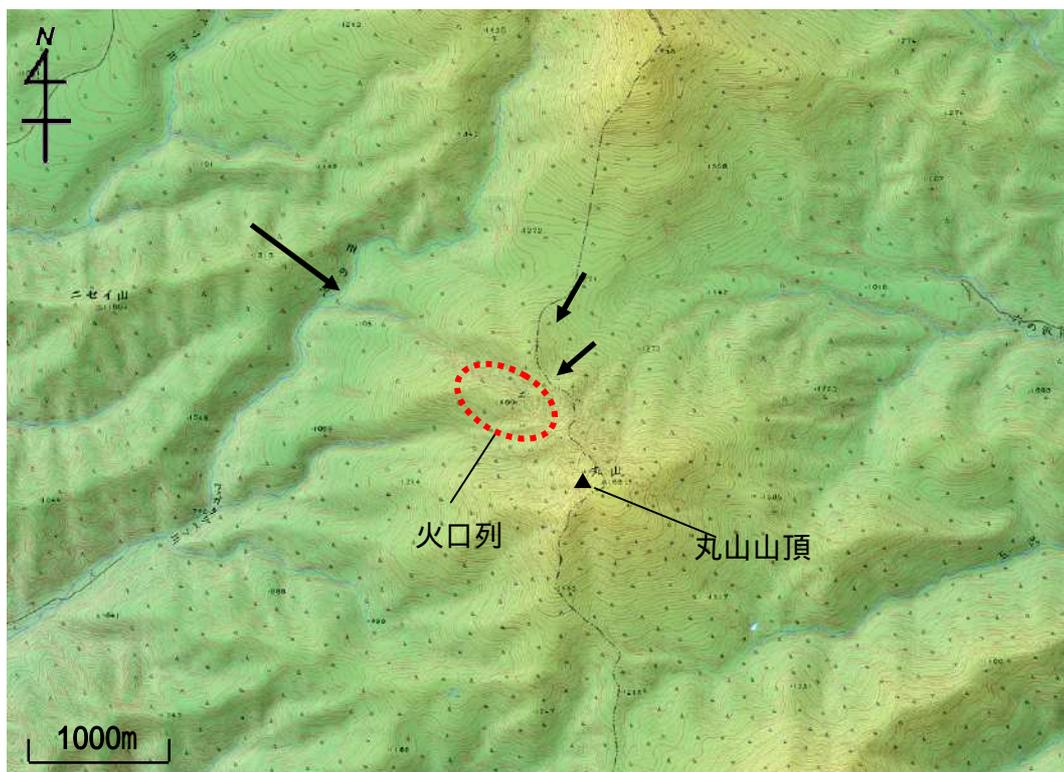
## 概況（2015 年 2 月～2015 年 12 月 31 日）

## ・表面活動（第 1～3 図）

2015 年 9 月 17 日に実施した上空からの観測(国土交通省北海道開発局の協力による)では、北西斜面に位置する火口列(第 1～3 火口)に噴気は認められなかった。弱い地熱活動が続いていた第 3 火口の地表面温度分布にも特段の変化はなかった。

## ・地震活動（第 4～5 図）

山体及び周辺で発生する地震は低調な状態で経過した。



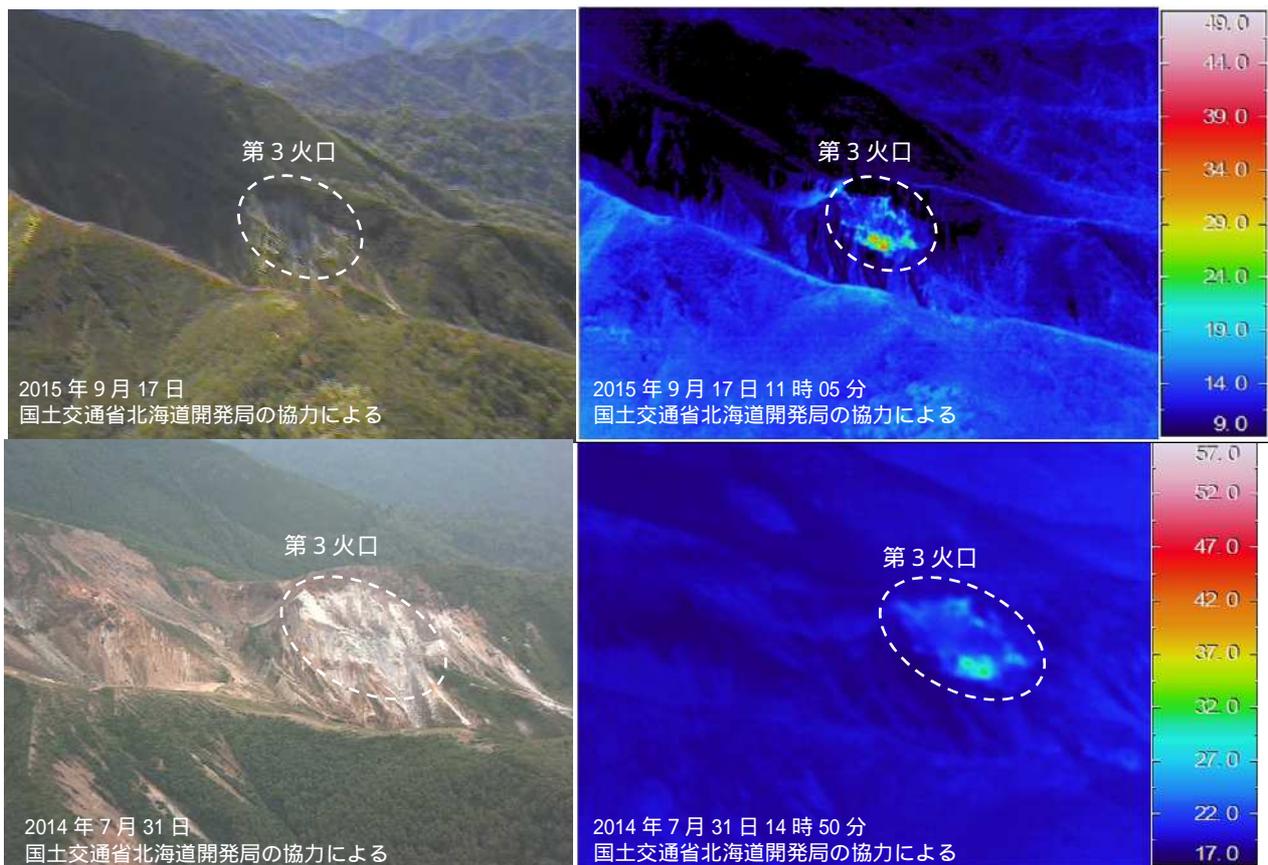
第 1 図 丸山 写真及び赤外熱映像の撮影方向

この地図の作成には国土地理院発行の「数値地図 25000(地図画像)」と「数値地図 50m メッシュ(標高)」を使用した。

この資料は気象庁のほか、北海道大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成した。

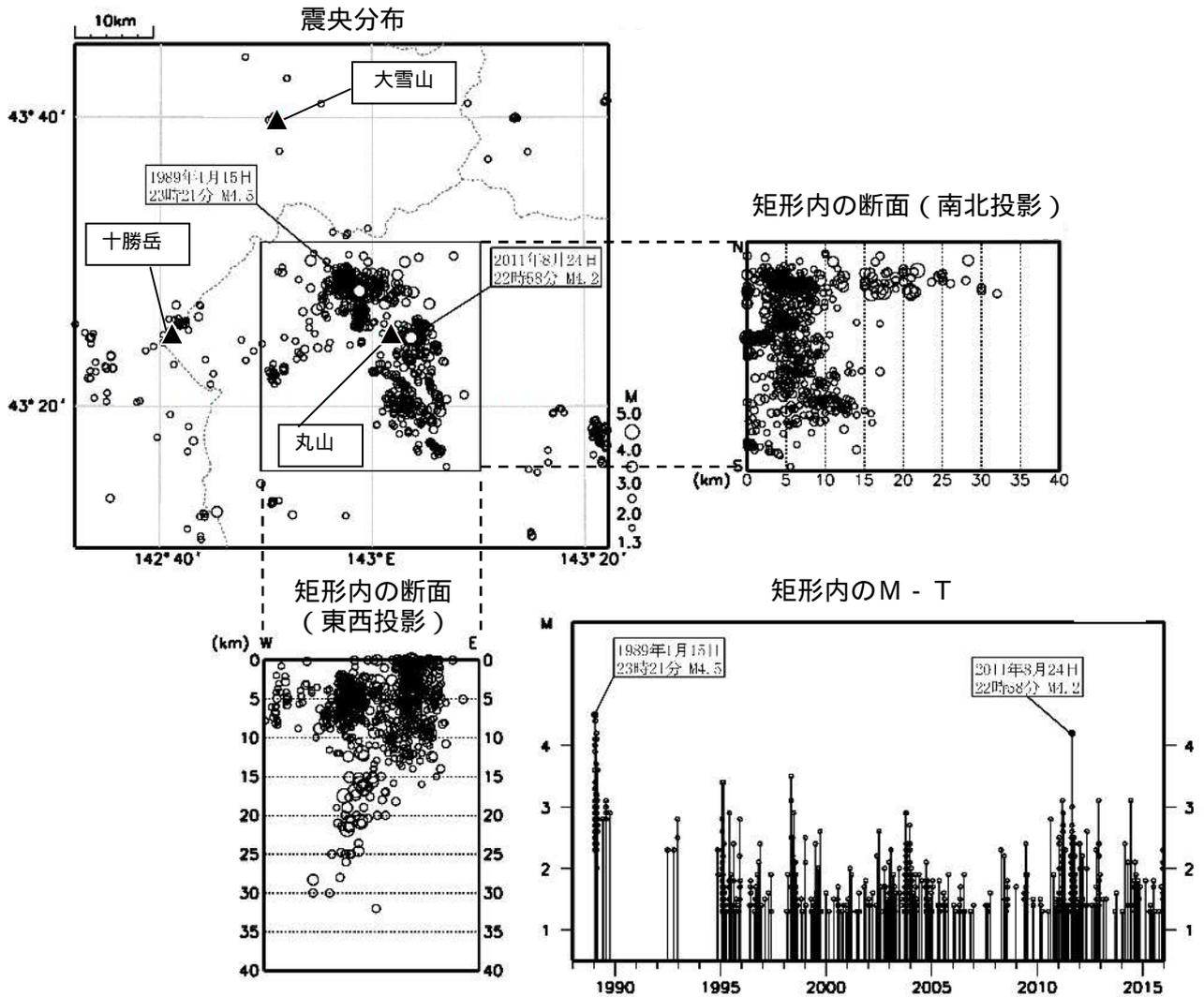


第 2 図 丸山 全景 北西側上空 (第 1 図- ) から撮影



第 3 図 丸山 赤外熱映像装置による第 3 火口の地表面温度分布

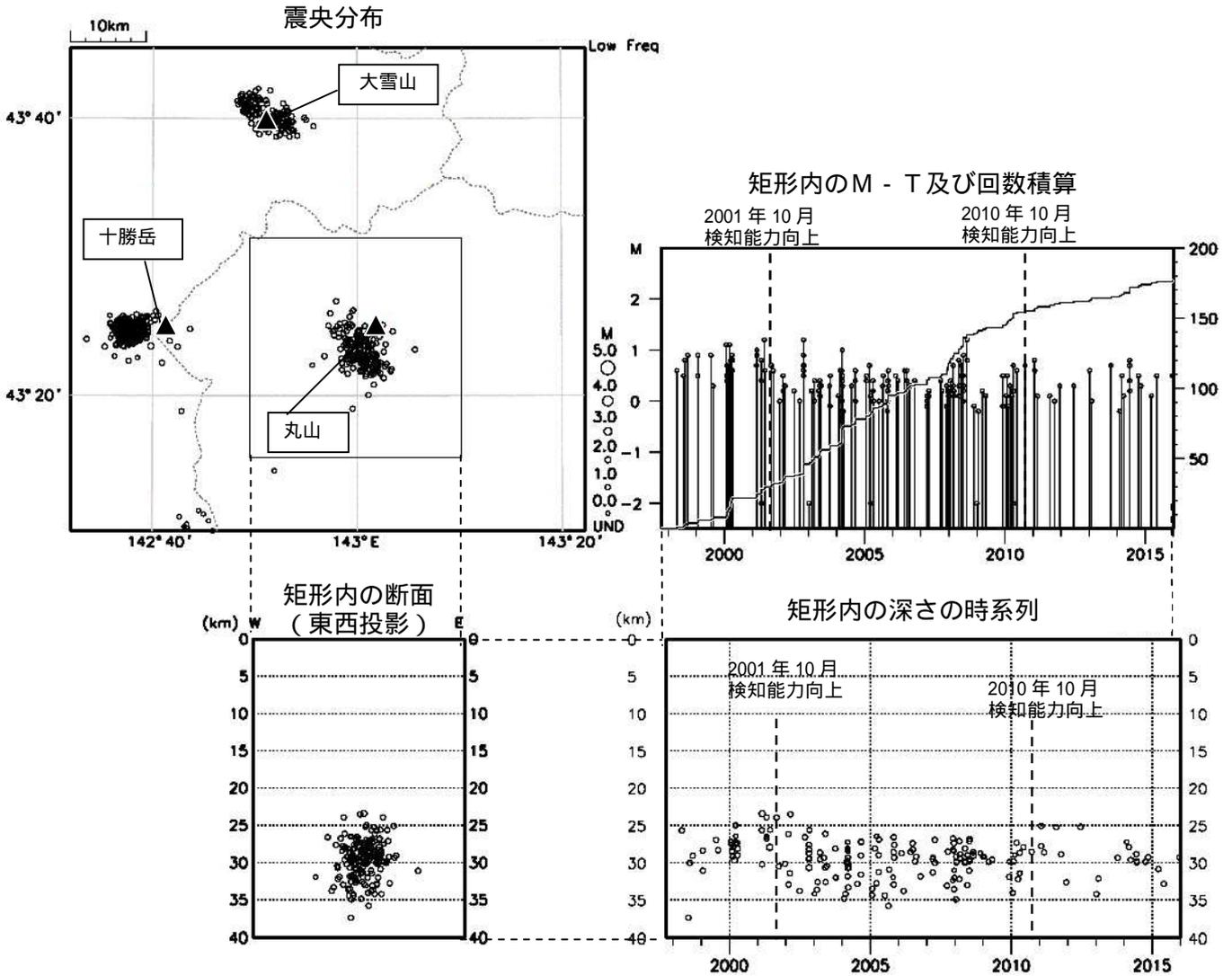
上：第 1 図- から撮影  
下：第 1 図- から撮影



第 4 図 丸山 一元化震源による周辺の地震活動  
 (1988年1月1日～2015年12月31日、M 1.3、深さ40km以浅)  
 ・1995年1月以前の震源精度は低いことに留意。  
 この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』を使用した。

第 1 表 丸山 1988 年以降の震源決定の検知能力の変遷

年月	地震観測網の変更	検知能力
～1995年1月	気象官署地震計	M3.0以上
1995年1月～	津波地震早期検知網設置	M1.3以上
1997年10月～	他機関との一元化開始	M1.0以上
2001年10月～	防災科研(Hi-net)の導入	M0.5以上
2010年10月～	火山観測点の利用開始	



第 5 図 丸山 一元化震源による深部低周波地震活動  
 (1997 年 10 月 ~ 2015 年 12 月 31 日、M 全て、深さ 40km 以浅)  
 2001 年 10 月以降、Hi-net の追加に伴い検知能力が向上している。  
 2010 年 10 月以降、火山観測点の追加に伴い検知能力が向上している。  
 この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50m メッシュ (標高)』を使用した。

# 利尻山

(2015年12月31日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。  
 噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

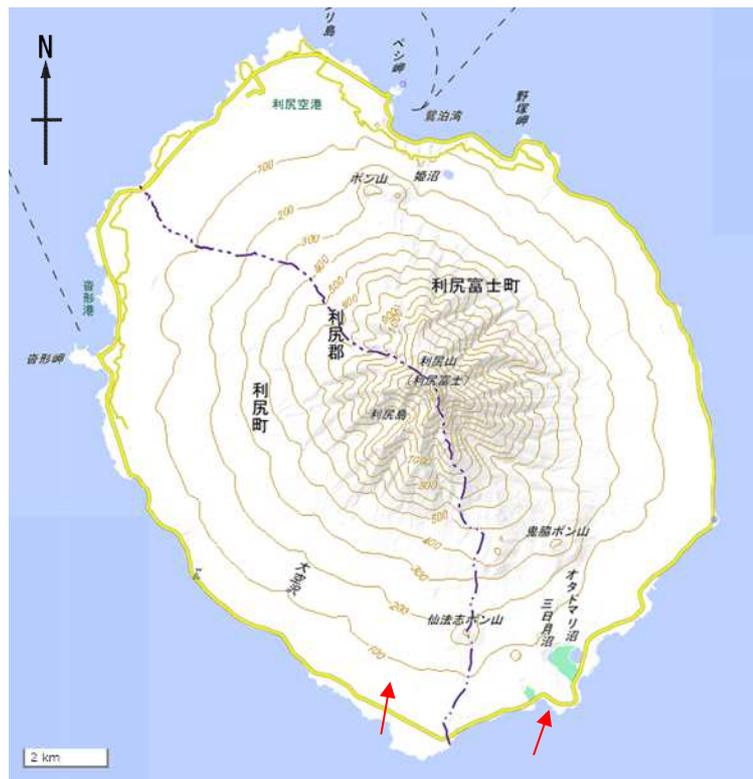
## 概況（2015年2月～2015年12月31日）

- ・表面活動（第1～3図）

2015年8月3日に実施した上空からの観測（国土交通省北海道開発局の協力による）では、噴気は見られず、赤外熱映像装置による観測でも地熱域は認められなかった。

- ・地震活動（第4図）

山体及び周辺で発生する地震は少ない状態で経過した。

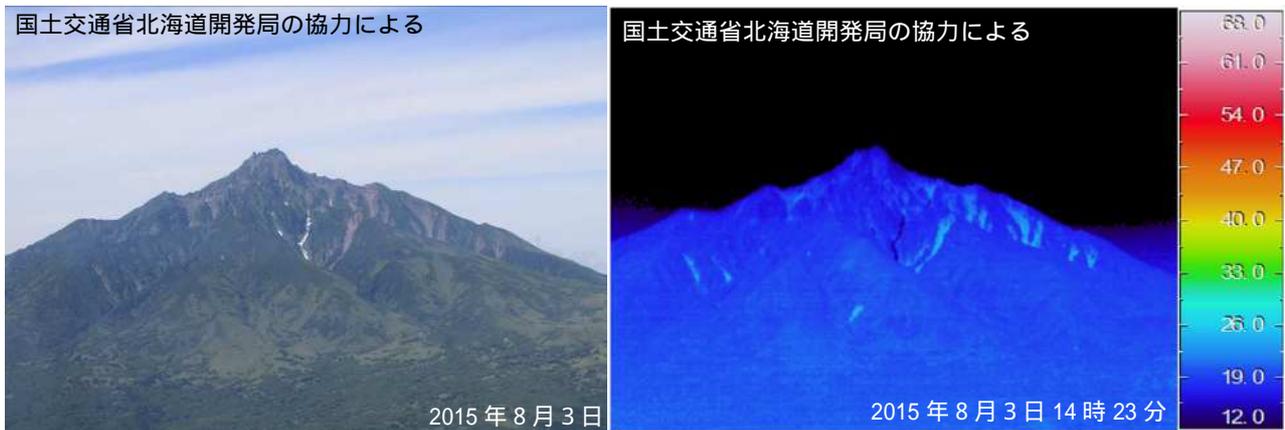


第1図 利尻山 写真及び赤外熱映像の撮影方向  
 この地図の作成には、国土地理院発行の『電子地形図(タイル)』の複製を使用した

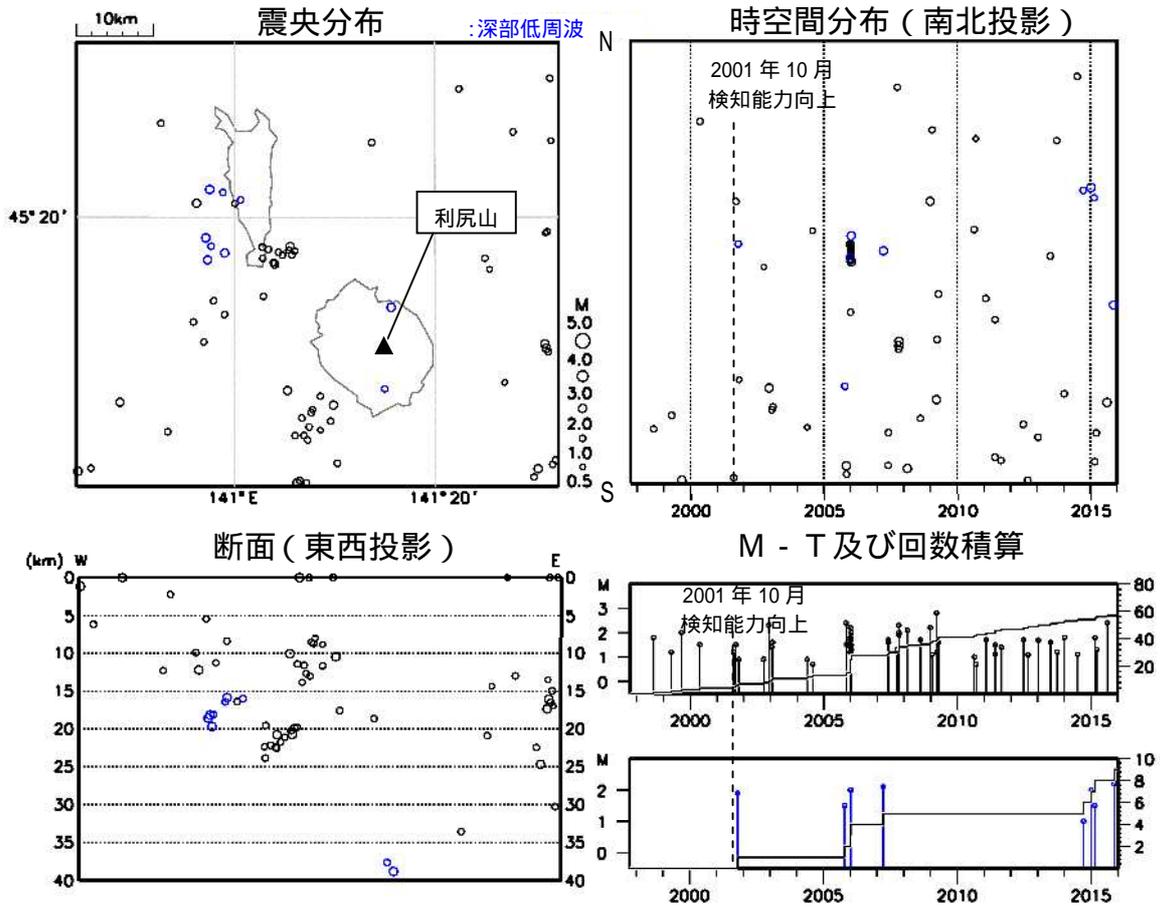
この資料は気象庁のほか、北海道大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成した。



第 2 図 利尻山 オタドマリ沼周辺の状況  
第 1 図 - から撮影



第 3 図 利尻山 赤外熱映像装置による南側斜面の地表面温度分布  
第 1 図 - から撮影



第 4 図 利尻山 一元化震源による周辺の地震及び深部低周波地震活動  
 (1997 年 10 月 ~ 2015 年 12 月 31 日、M 0.5、深さ 40 km 以浅)  
 青色のシンボルは深部低周波地震。  
 2001 年 10 月以降、Hi-net の追加に伴い検知力が向上している。  
 この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50m メッシュ (標高)』を使用した。

# 恵庭岳

(2015年12月31日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

## 概況（2015年2月～2015年12月31日）

### ・表面活動（第1図～第3図）

2015年7月3日に実施した上空からの観測（国土交通省北海道開発局の協力による）では、山頂東側の爆裂火口からは弱い白色噴気が認められたが、これまでの観測結果と比べ噴気の勢いや量などに変化は認められなかった。山頂部の状況は雲のため確認できなかった。

赤外熱映像装置による観測では、地表面温度分布の状況に特段の変化は認められなかった。

### ・地震活動（第4図）

山体及び周辺で発生する地震は少ない状態で経過した。



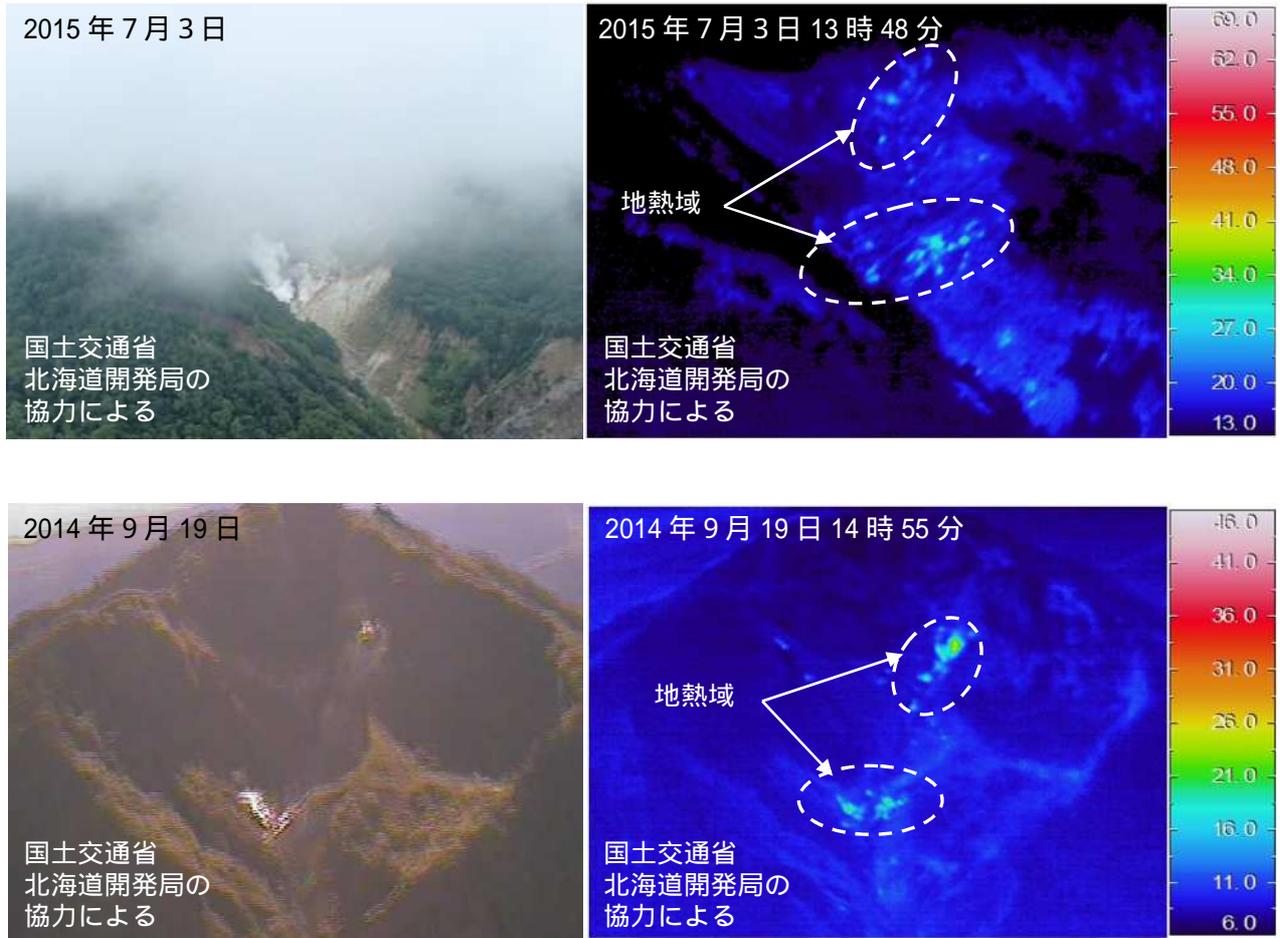
第1図 恵庭岳 周辺図

（矢印は写真及び赤外熱映像の撮影方向）

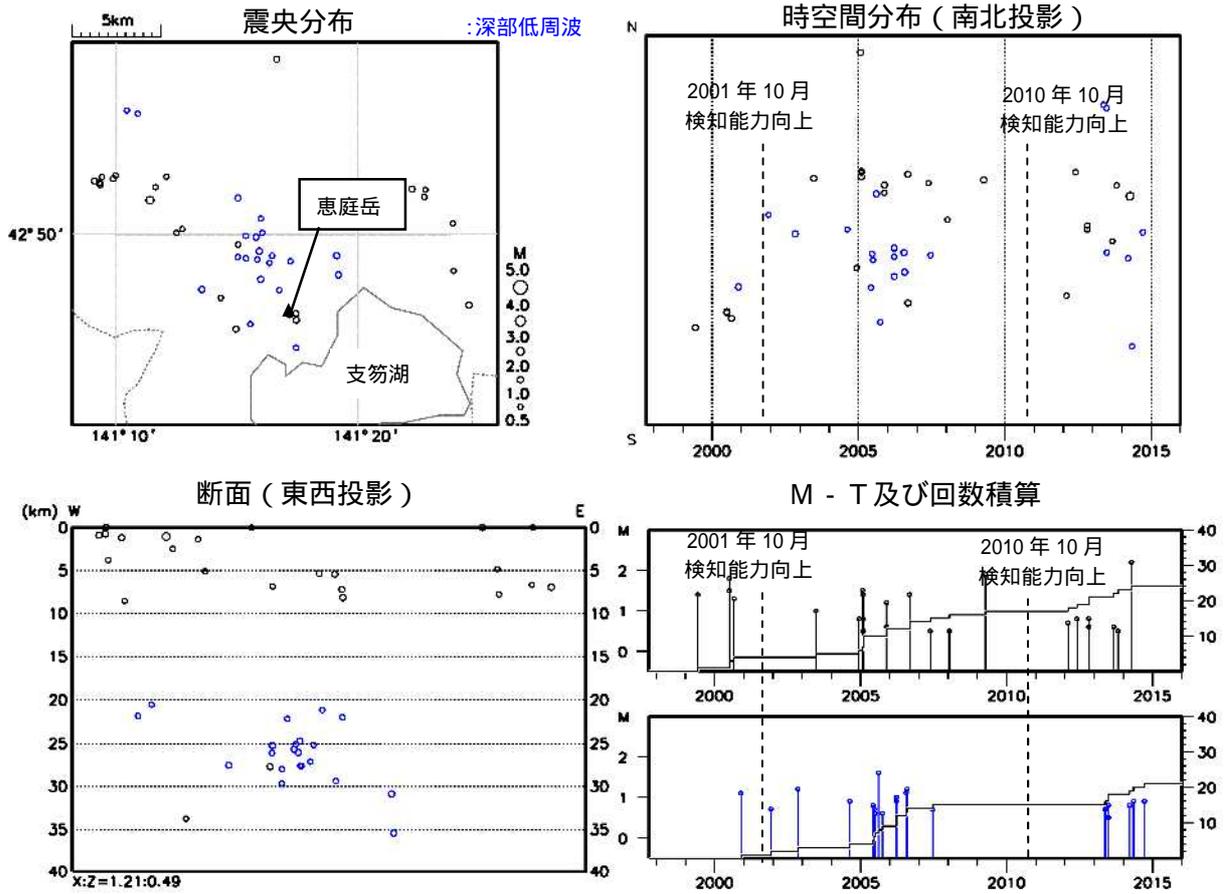
この地図の作成には、国土地理院発行の『電子地形図（タイル）』の複製を使用した



第2図 恵庭岳 山頂東側爆裂火口の状況  
北東側上空（第1図- から撮影）



第3図 恵庭岳 恵庭岳山頂東側爆裂火口の地表面温度分布  
上図：第1図 - から撮影 下図：第1図 - から撮影



第 4 図 恵庭岳 一元化震源による周辺の地震及び深部低周波地震活動  
 (1997年10月～2015年12月31日、M 0.5、深さ40km以浅)  
 青色のシンボルは深部低周波地震。  
 2001年10月以降、Hi-netの追加に伴い検知力が向上している。  
 2010年10月以降、火山観測点の追加に伴い検知力が向上している。  
 この地図の作成には国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』を使用した。

# 羊 蹄 山

(2015年12月31日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

## 概況（2015年2月～2015年12月31日）

### ・表面活動（第1～3図）

2015年7月3日に実施した上空からの観測（国土交通省北海道開発局の協力による）では、山頂火口周辺及び山腹に噴気及び地熱域は認められなかった。

### ・地震活動（第4図）

山体及び周辺で発生する地震は少ない状態で経過した。



第1図 羊蹄山 周辺図と写真の撮影方向（矢印）

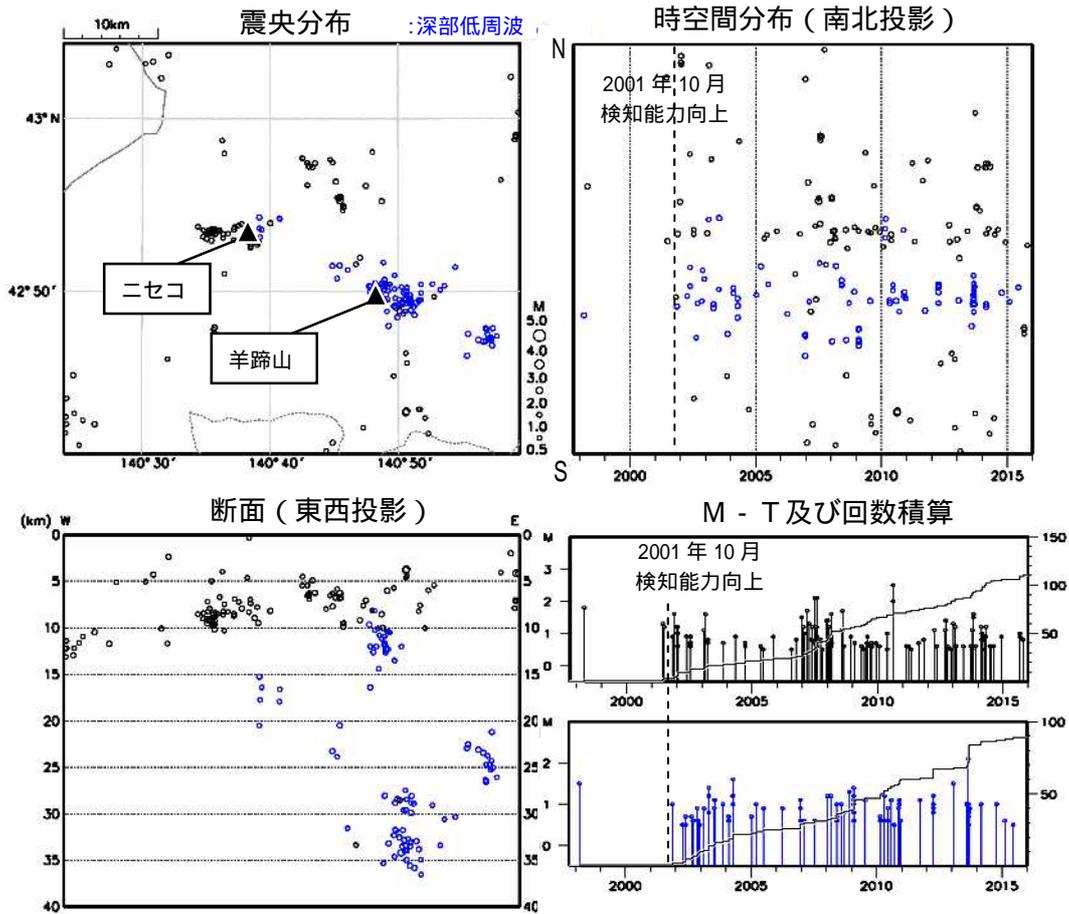
この地図の作成には、国土地理院発行の『電子地形図（タイル）』の複製を使用した



第 2 図 羊蹄山 山頂部周辺の状況  
第 1 図 - から撮影



第 3 図 羊蹄山 山頂火口周辺の状況  
第 1 図 - から撮影



第 4 図 羊蹄山 一元化震源による周辺の地震及び深部低周波地震活動  
 (1997年10月~2015年12月31日、M 0.5、深さ40km以浅)  
 青色のシンボルは深部低周波地震  
 2001年10月以降、Hi-netの追加に伴い検知力が向上している。  
 この地図の作成には国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』を使用した。

# ニセコ

(2015年12月31日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。  
噴火予報(活火山であることに留意)の予報事項に変更はない。

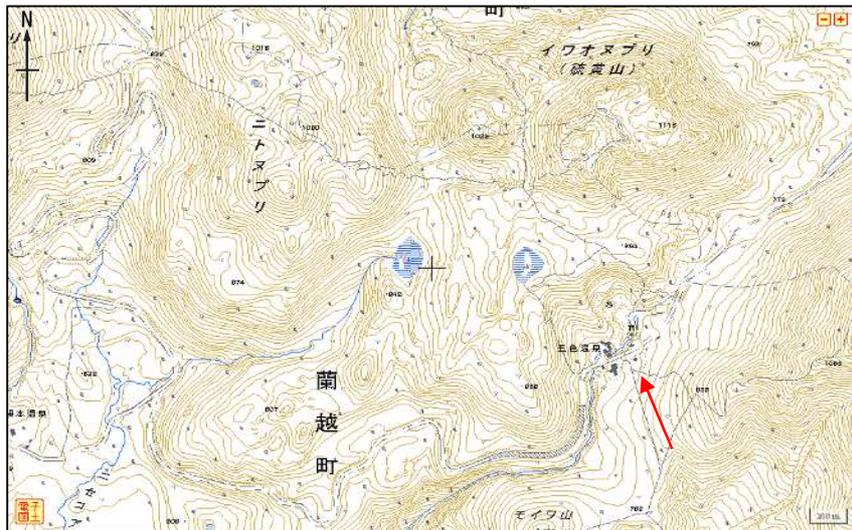
## 概況(2015年2月~2015年12月31日)

### ・表面活動(第1~2図)

2015年7月3日に実施した上空からの観測(国土交通省北海道開発局の協力による)では、イワオヌプリ(硫黄山)山頂部や五色温泉周辺に噴気は認められなかった。

### ・地震活動(第3図)

山体及び周辺で発生する地震は少ない状態で経過した。



第1図 ニセコ 周辺図と写真の撮影方向(矢印)

この地図の作成には、国土地理院発行の『電子地形図(タイル)』の複製を使用した

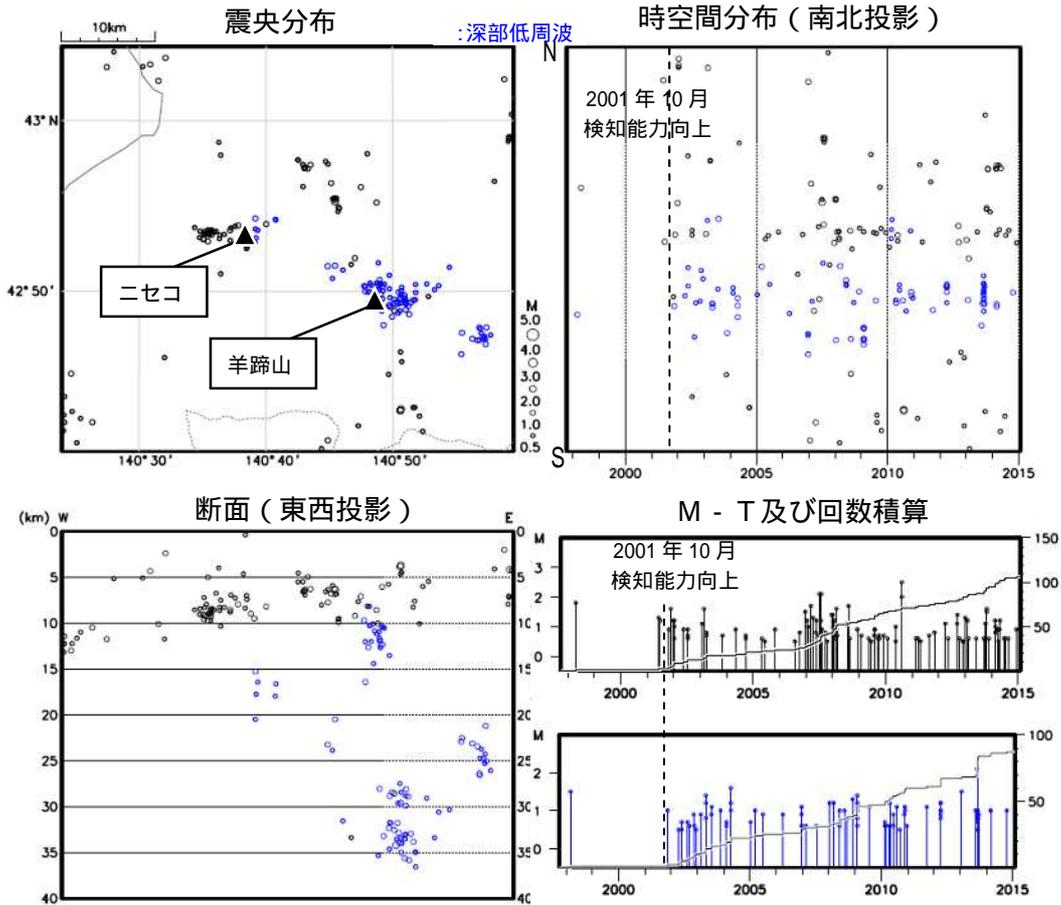
2015年7月3日



第2図 ニセコ

イワオヌプリ、五色温泉周辺の状況  
第1図の矢印方向から撮影

この資料は気象庁のほか、北海道大学及び独立行政法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成した。



第 3 図 ニセコ 一元化震源による周辺の地震及び深部低周波地震活動  
 (1997年10月～2015年12月31日、M 0.5、深さ40km以浅)

青色のシンボルは深部低周波地震

2001年10月以降、Hi-netの追加に伴い検知力が向上している。

この地図の作成には国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』を使用した。

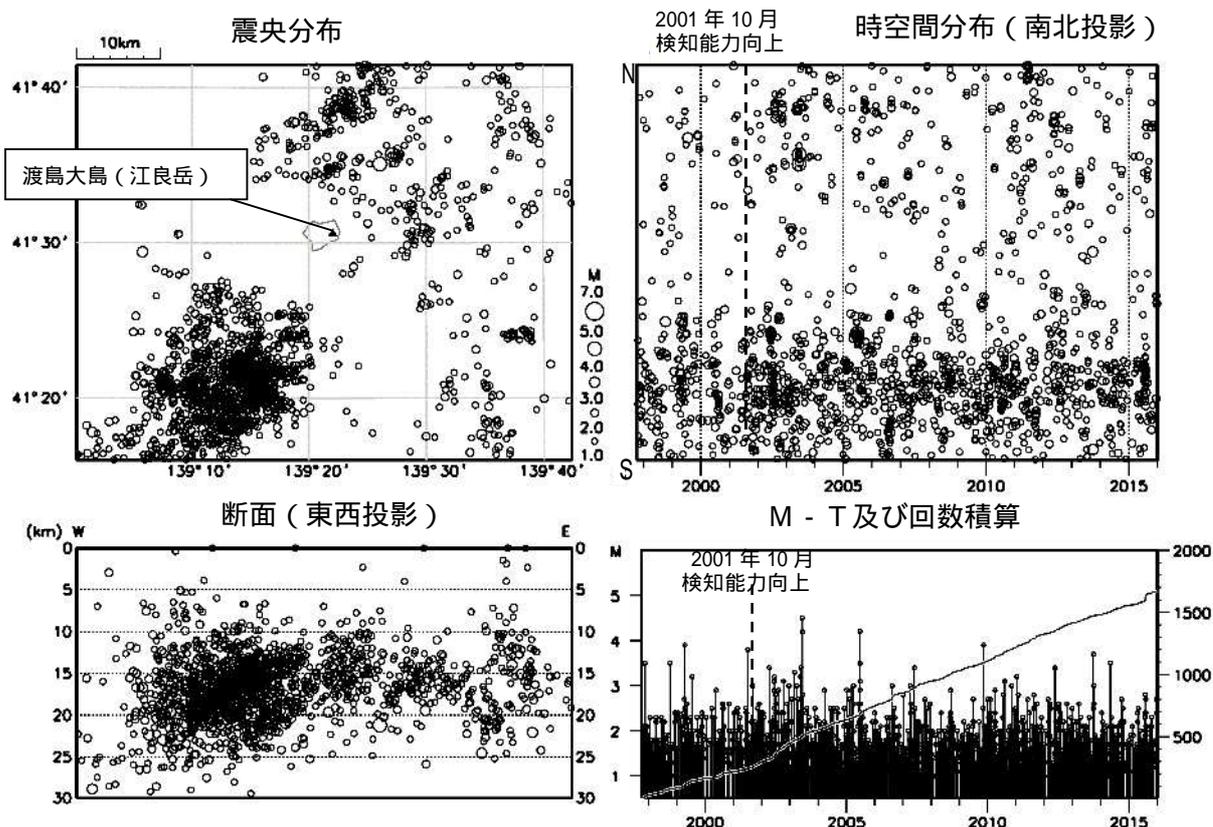
# 渡島大島

(2015年12月31日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。  
 噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

## 概況（2015年2月～2015年12月31日）

- ・表面活動  
 渡島大島に関して異常現象等の報告はされていない。
- ・地震活動（第1図）  
 山体を震源とする地震は発生していない。



第1図 渡島大島 一元化震源による周辺の地震活動  
 （1997年10月～2015年12月31日、M 1.0、深さ30km以浅）  
 2001年10月以降、Hi-netの追加に伴い検知能力が向上している。  
 この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』を使用した。

この資料は気象庁のほか、北海道大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成した。

# 茂世路岳

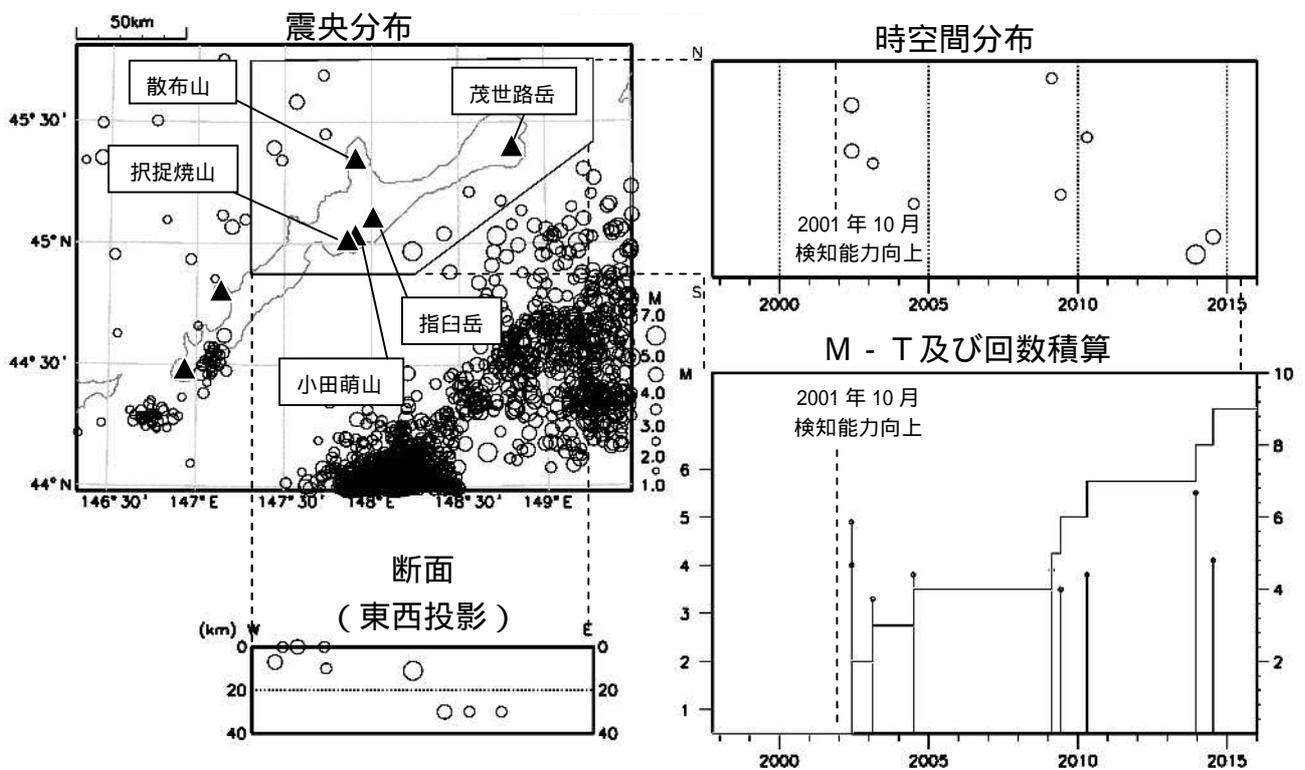
(2015年12月31日現在)

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候はみられない。  
 噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

## 概況（2015年2月～2015年12月31日）

山体周辺で目立った地震活動はみられない。

気象衛星(MTSAT-2 及び Himawari-8)で検知できるような噴煙は観測されていない。



第 1 図 茂世路岳 一元化震源による周辺の地震活動

(1997年10月～2015年12月31日、M 1.0、深さ40km以浅)

2001年10月以降、Hi-netの追加に伴い検知力が向上している。

この図の作成には、国土地理院発行の「数値地図25000(行政界・海岸線)」を使用した。

この資料は気象庁のほか、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成した。

# 散布山

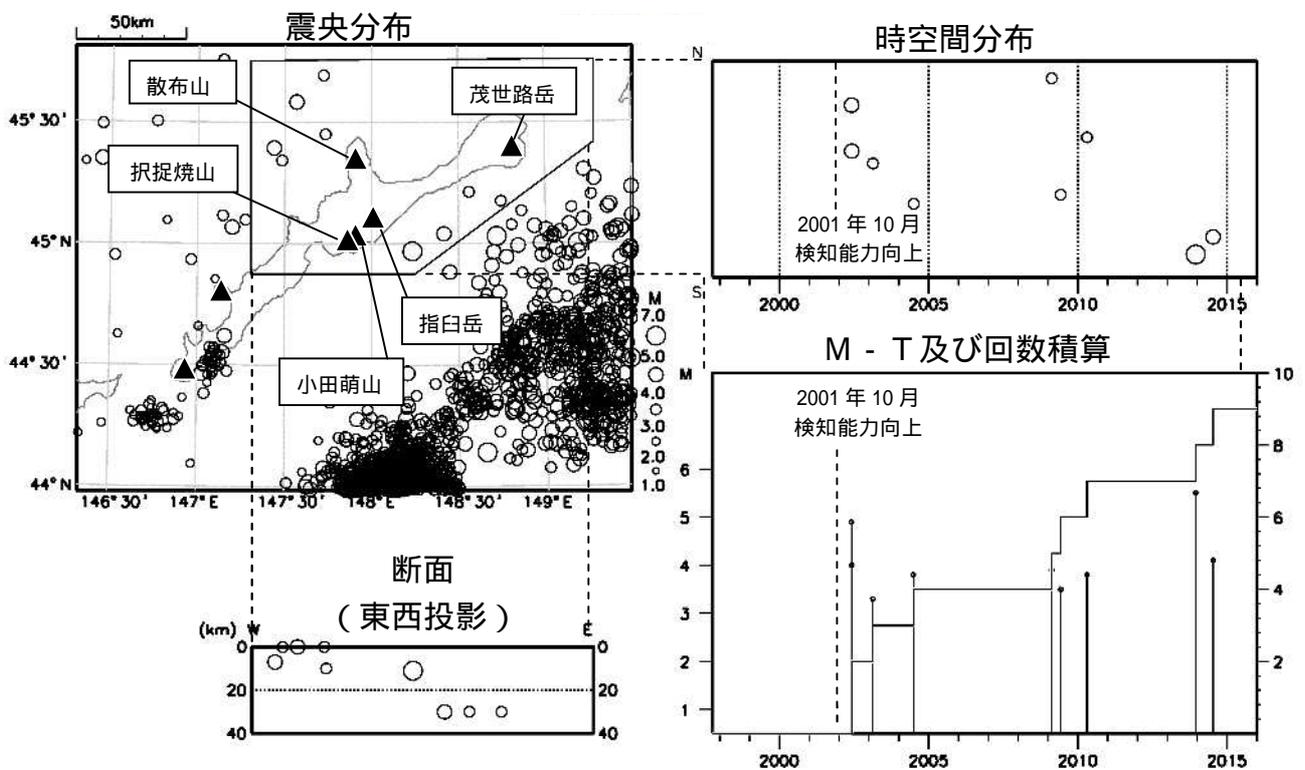
(2015年12月31日現在)

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候はみられない。  
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

## 概況（2015年2月～2015年12月31日）

山体周辺で目立った地震活動はみられない。

気象衛星(MTSAT-2 及び Himawari-8)で検知できるような噴煙は観測されていない。



第 1 図 散布山 一元化震源による周辺の地震活動

(1997年10月～2015年12月31日、M 1.0、深さ40km以浅)

2001年10月以降、Hi-netの追加に伴い検知力が向上している。

この図の作成には、国土地理院発行の「数値地図25000(行政界・海岸線)」を使用した。

この資料は気象庁のほか、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成した。

# 指白岳

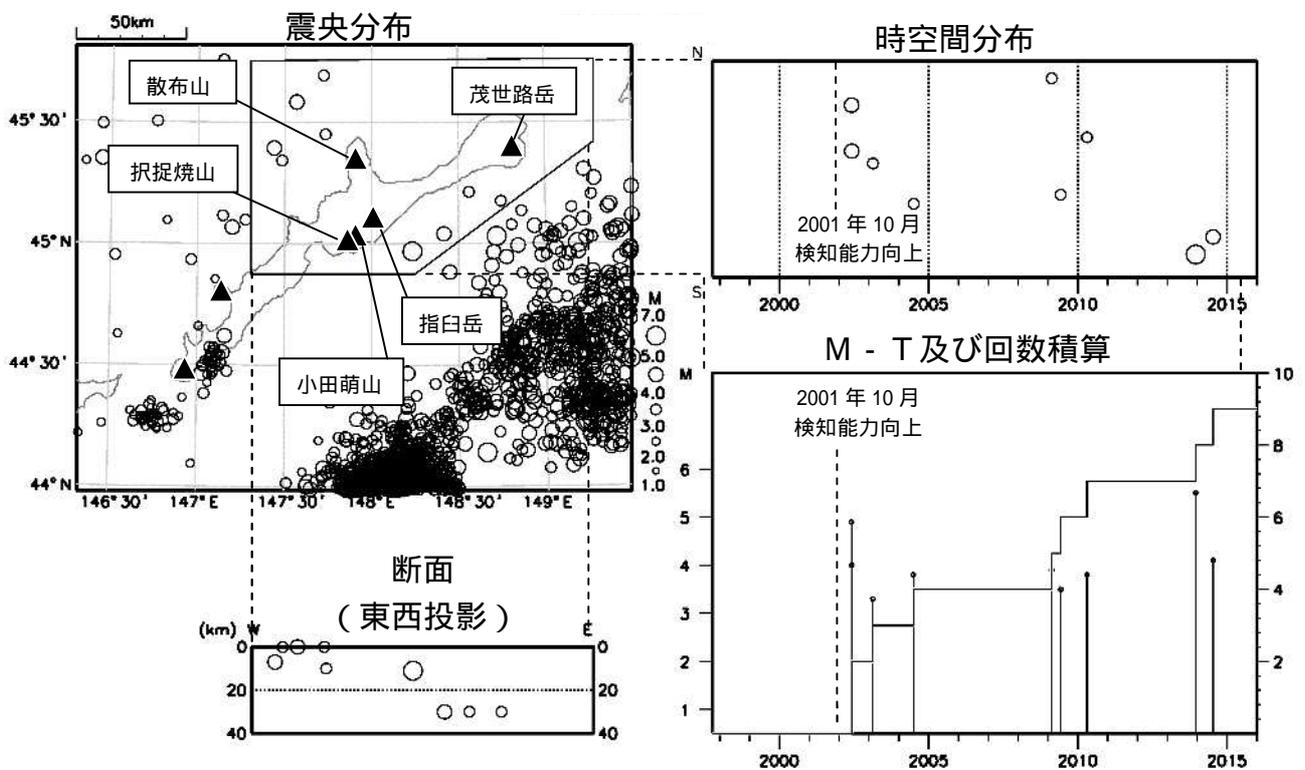
(2015年12月31日現在)

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候はみられない。  
 噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

## 概況（2015年2月～2015年12月31日）

山体周辺で目立った地震活動はみられない。

気象衛星(MTSAT-2 及び Himawari-8)で検知できるような噴煙は観測されていない。



第 1 図 指白岳 一元化震源による周辺の地震活動

(1997年10月～2015年12月31日、M 1.0、深さ40km以浅)

2001年10月以降、Hi-netの追加に伴い検知力が向上している。

この図の作成には、国土地理院発行の「数値地図25000(行政界・海岸線)」を使用した。

この資料は気象庁のほか、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成した。

# 小田 萌 山

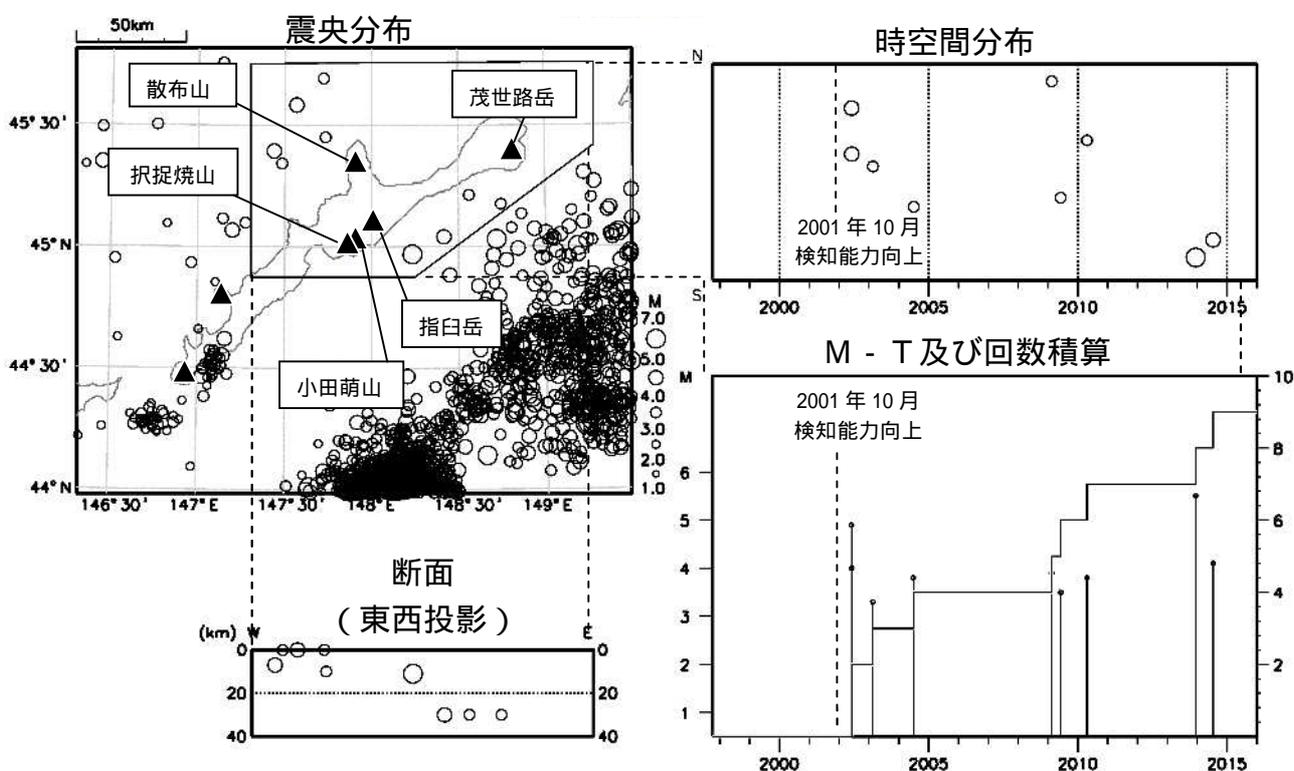
( 2015 年 12 月 31 日現在 )

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候はみられない。  
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

## 概況 ( 2015 年 2 月 ~ 2015 年 12 月 31 日 )

山体周辺で目立った地震活動はみられない。

気象衛星 ( MTSAT-2 及び Himawari-8 ) で検知できるような噴煙は観測されていない。



第 1 図 小田萌山 一元化震源による周辺の地震活動

( 1997 年 10 月 ~ 2015 年 12 月 31 日、M 1.0、深さ 40 km 以浅 )

2001 年 10 月以降、Hi-net の追加に伴い検知力が向上している。

この図の作成には、国土地理院発行の「数値地図 25000 ( 行政界・海岸線 )」を使用した。

この資料は気象庁のほか、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成した。

# 択捉焼山

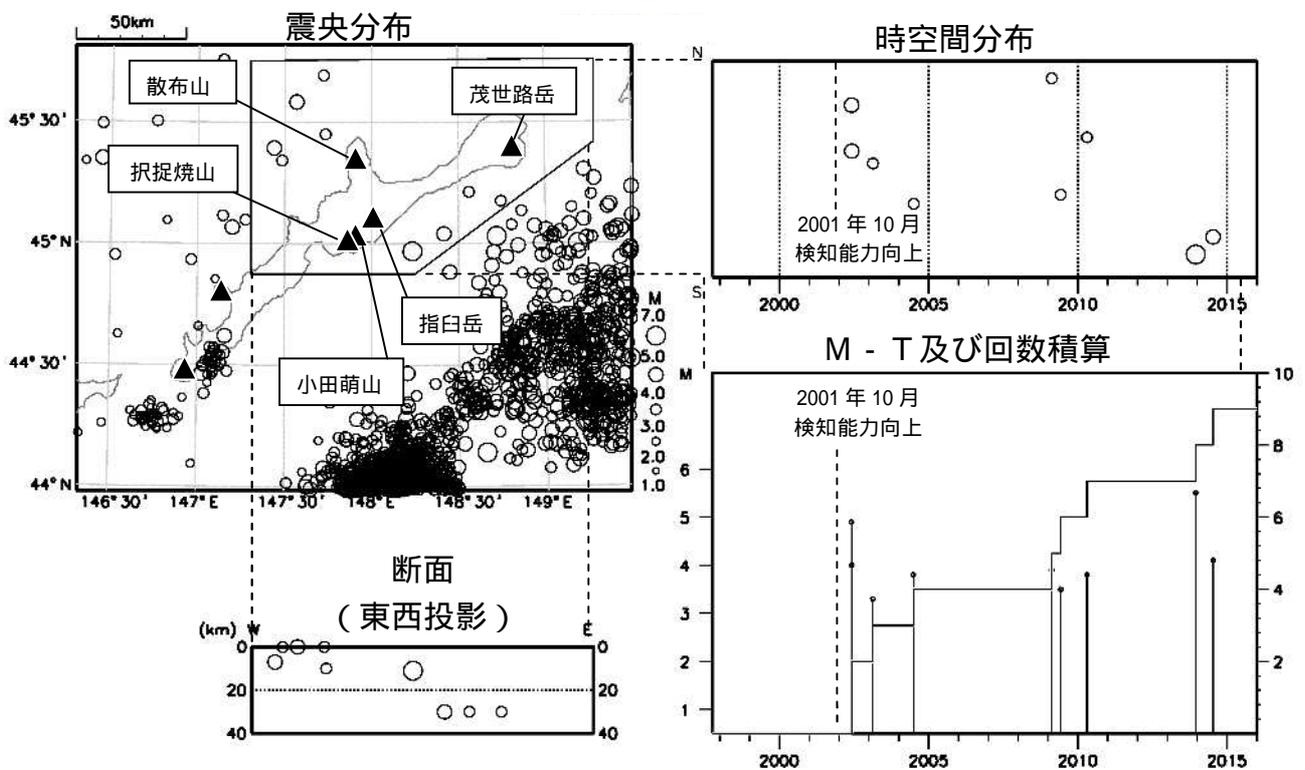
(2015年12月31日現在)

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候はみられない。  
 噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

## 概況（2015年2月～2015年12月31日）

山体周辺で目立った地震活動はみられない。

気象衛星(MTSAT-2 及び Himawari-8)で検知できるような噴煙は観測されていない。



第 1 図 択捉焼山 一元化震源による周辺の地震活動

(1997年10月～2015年12月31日、M 1.0、深さ40km以浅)

2001年10月以降、Hi-netの追加に伴い検知力が向上している。

この図の作成には、国土地理院発行の「数値地図25000(行政界・海岸線)」を使用した。

この資料は気象庁のほか、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成した。

# 択捉阿登佐岳

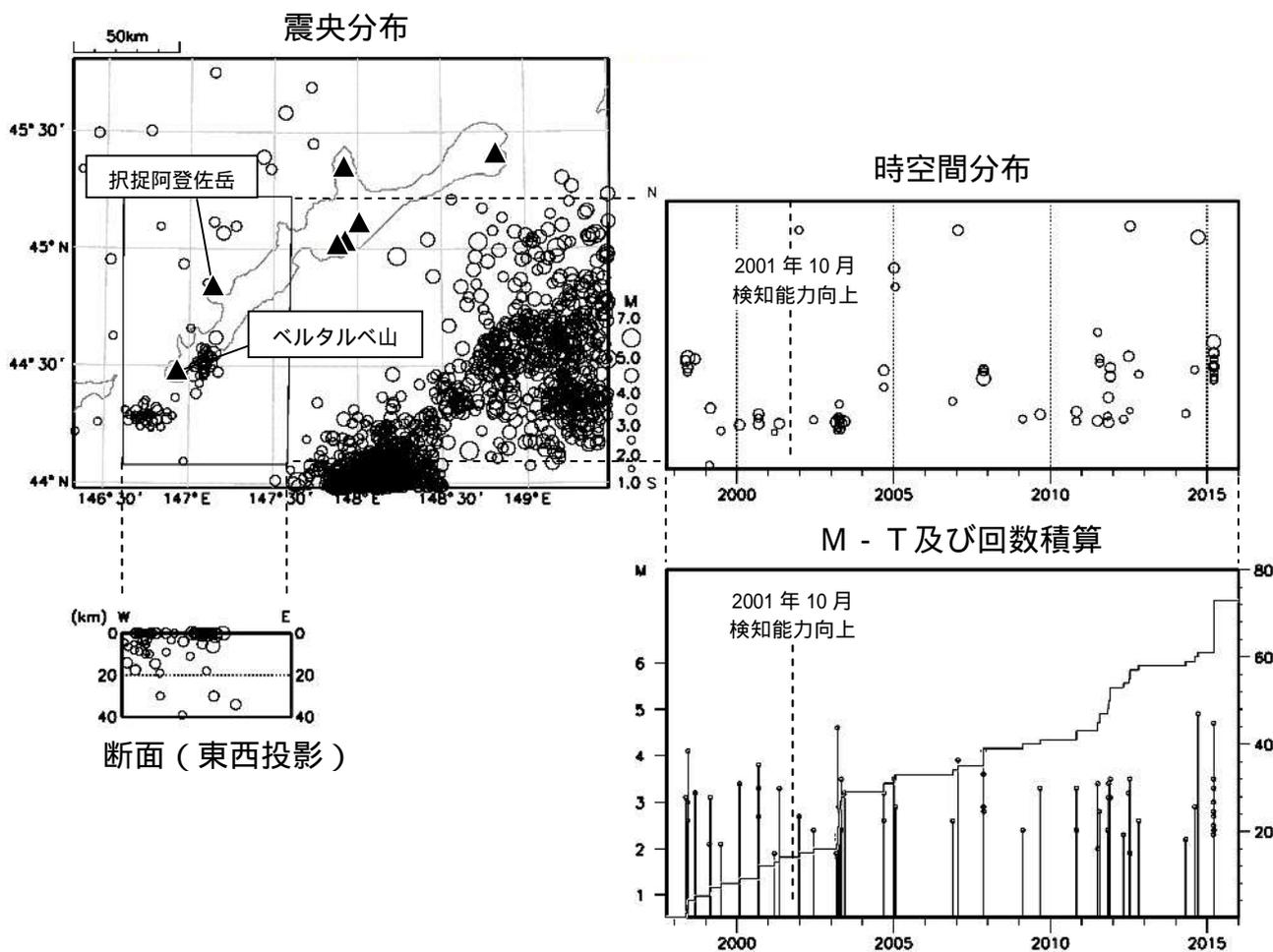
(2015年12月31日現在)

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候はみられない。  
 噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

## 概況（2015年2月～2015年12月31日）

山体周辺で目立った地震活動はみられない。

気象衛星(MTSAT-2 及び Himawari-8)で検知できるような噴煙は観測されていない。



第 1 図 択捉阿登佐岳 一元化震源による周辺の地震活動

(1997年10月～2015年12月31日、M 1.0、深さ40km以浅)

2001年10月以降、Hi-netの追加に伴い検知力が向上している。

この図の作成には、国土地理院発行の「数値地図25000(行政界・海岸線)」を使用した。

この資料は気象庁のほか、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成した。

# ベルタルベ山

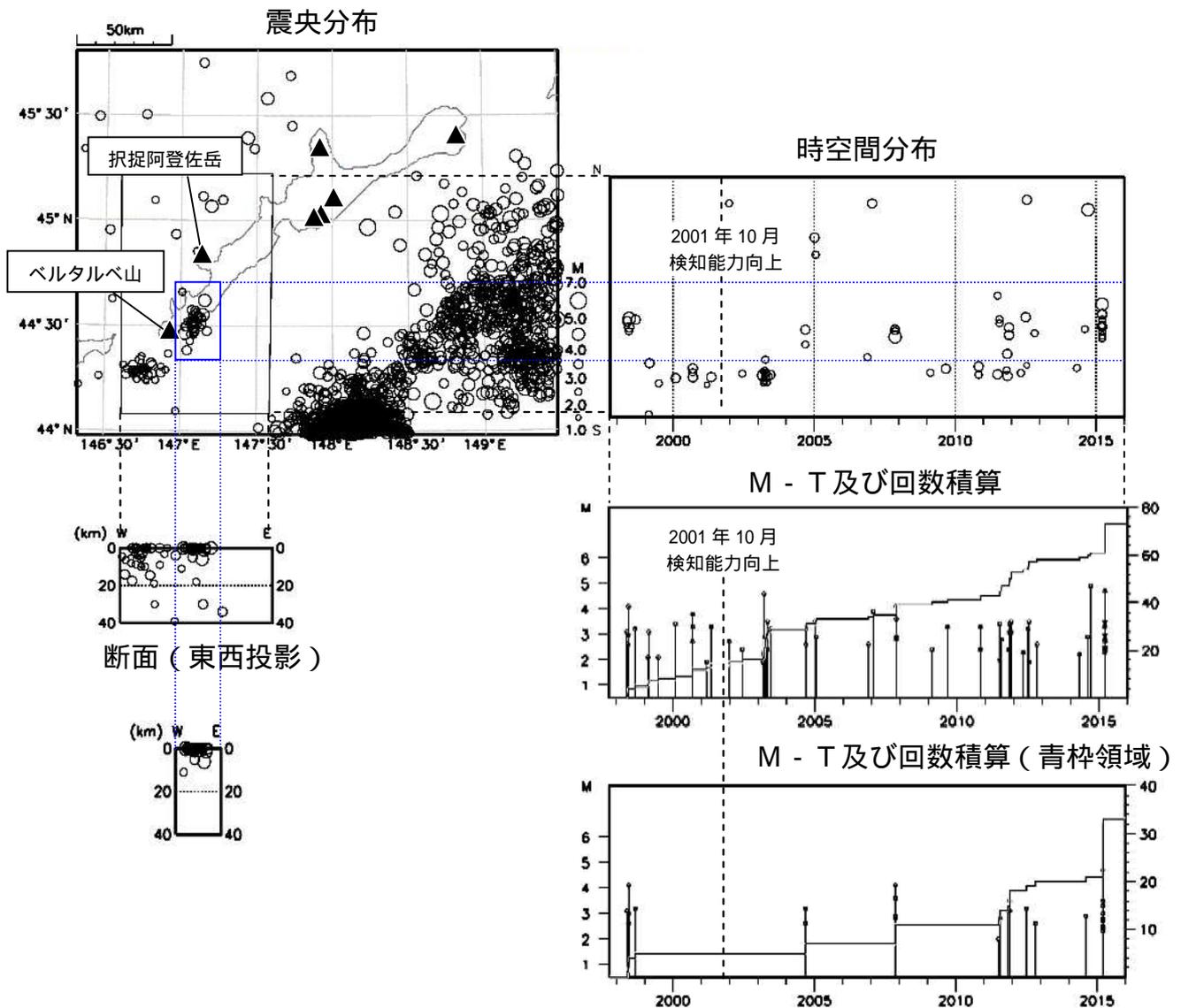
(2015年12月31日現在)

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候はみられない。  
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

## 概況（2015年2月～2015年12月31日）

3月中旬にベルタルベ山の東方で一時的に地震の増加が観測された（青枠領域）。この領域では一時的な地震の増加が時折観測されている。

気象衛星(MTSAT-2 及び Himawari-8)で検知できるような噴煙は観測されていない。



第 1 図 ベルタルベ山 一元化震源による周辺の地震活動

(1997年10月～2015年12月31日、M 1.0、深さ40km以浅)

2001年10月以降、Hi-netの追加に伴い検知力が向上している。

この図の作成には、国土地理院発行の「数値地図25000（行政界・海岸線）」を使用した。

この資料は気象庁のほか、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成した。

# ルルイ岳

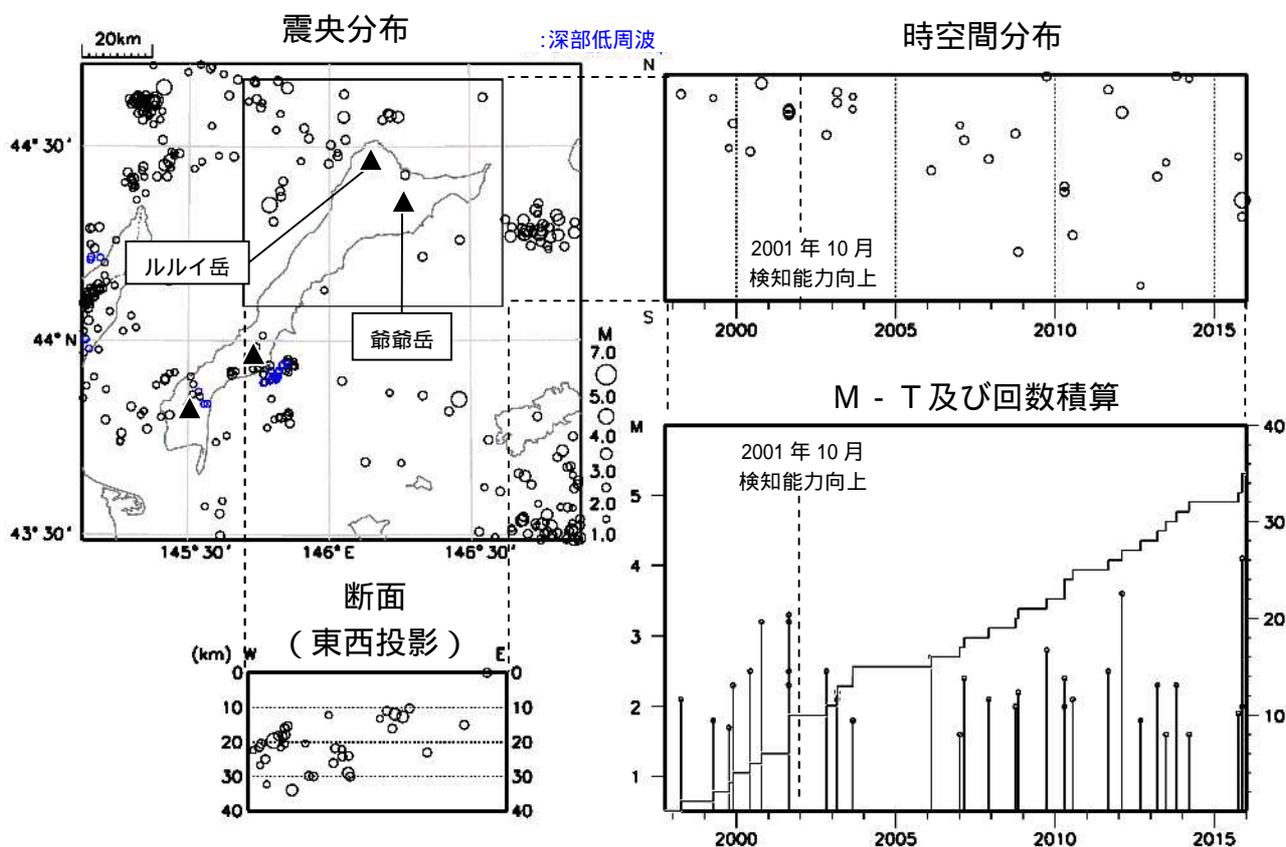
(2015年12月31日現在)

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候はみられない。  
 噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

## 概況（2015年2月～2015年12月31日）

山体周辺で目立った地震活動はみられない。

気象衛星(MTSAT-2 及び Himawari-8)で検知できるような噴煙は観測されていない。



第 1 図 ルルイ岳 一元化震源による周辺の地震活動

(1997年10月～2015年12月31日、M 1.0、深さ40km以浅)

青色のシンボルは深部低周波地震。

2001年10月以降、Hi-netの追加に伴い検知力が向上している。

この図の作成には、国土地理院発行の「数値地図25000(行政界・海岸線)」を使用した。

この資料は気象庁のほか、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成した。

# 爺 爺 岳

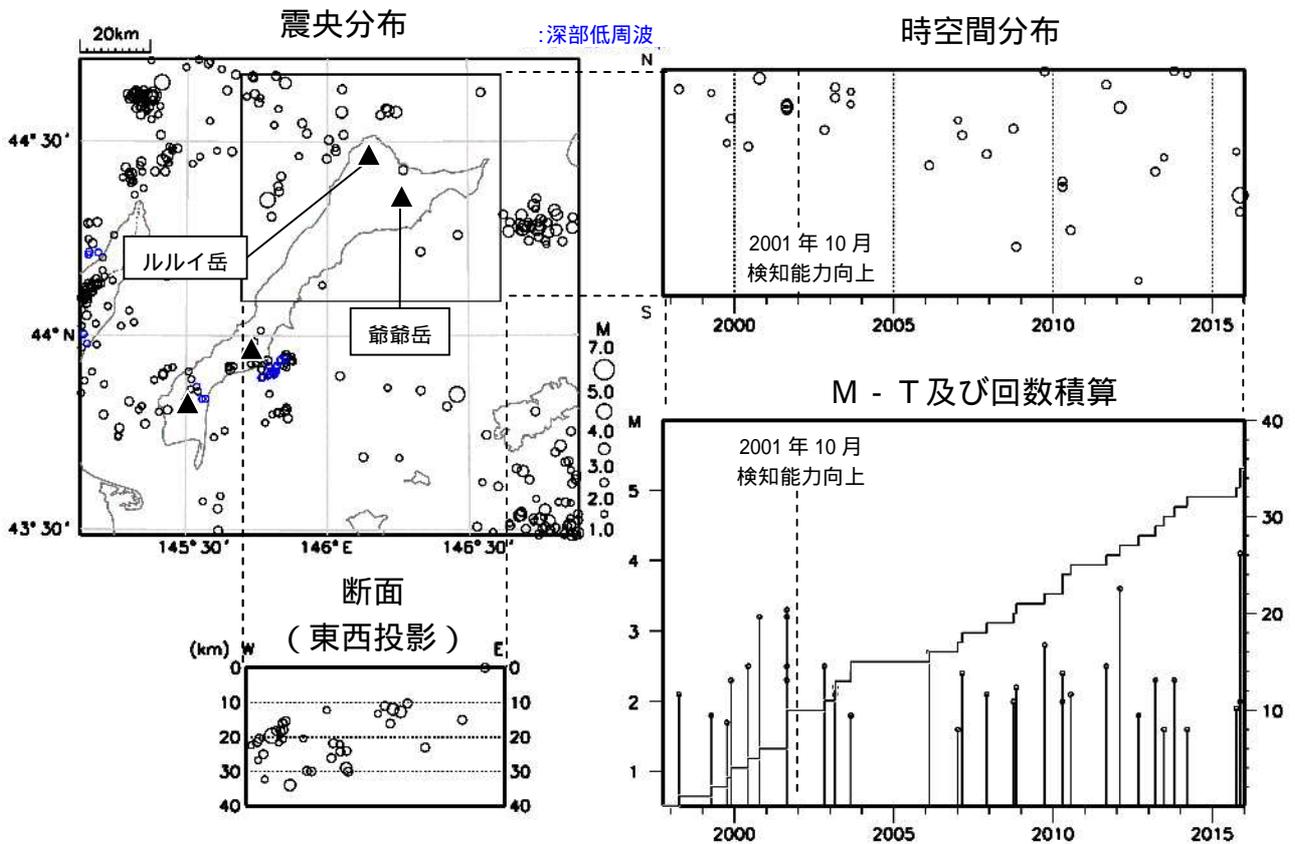
( 2015 年 12 月 31 日現在 )

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候はみられない。  
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

## 概況（2015年2月～2015年12月31日）

山体周辺で目立った地震活動はみられない。

気象衛星(MTSAT-2 及び Himawari-8)で検知できるような噴煙は観測されていない。



第 1 図 爺 爺 岳 一元化震源による周辺の地震活動

( 1997 年 10 月 ~ 2015 年 12 月 31 日、M 1.0、深さ 40 km 以浅 )

青色のシンボルは深部低周波地震。

2001 年 10 月以降、Hi-net の追加に伴い検知力が向上している。

この図の作成には、国土地理院発行の「数値地図 25000 ( 行政界・海岸線 )」を使用した。

この資料は気象庁のほか、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成した。

# 羅 白 山

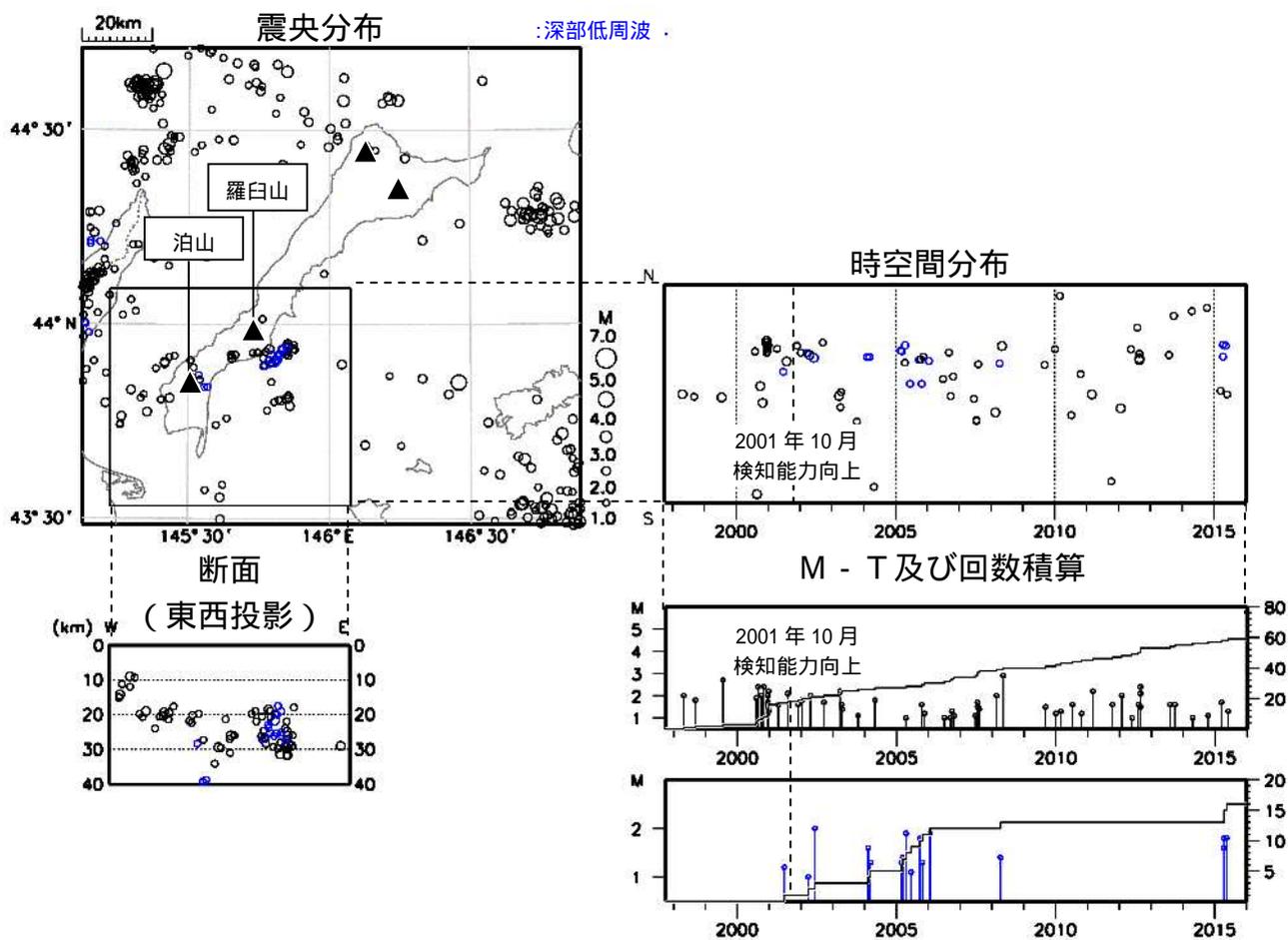
(2015 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候はみられない。  
 噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

## 概況（2015 年 2 月～2015 年 12 月 31 日）

山体周辺で目立った地震活動はみられない。

気象衛星(MTSAT-2 及び Himawari-8)で検知できるような噴煙は観測されていない。



第 1 図 羅白山 一元化震源による周辺の地震及び深部低周波地震活動  
 (1997 年 10 月～2015 年 12 月 31 日、M 1.0、深さ 40 km 以浅)

青色のシンボルは深部低周波地震。

2001 年 10 月以降、Hi-net の追加に伴い検知力が向上している。

この図の作成には、国土地理院発行の「数値地図 25000 (行政界・海岸線)」を使用した。

この資料は気象庁のほか、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成した。

# 泊山

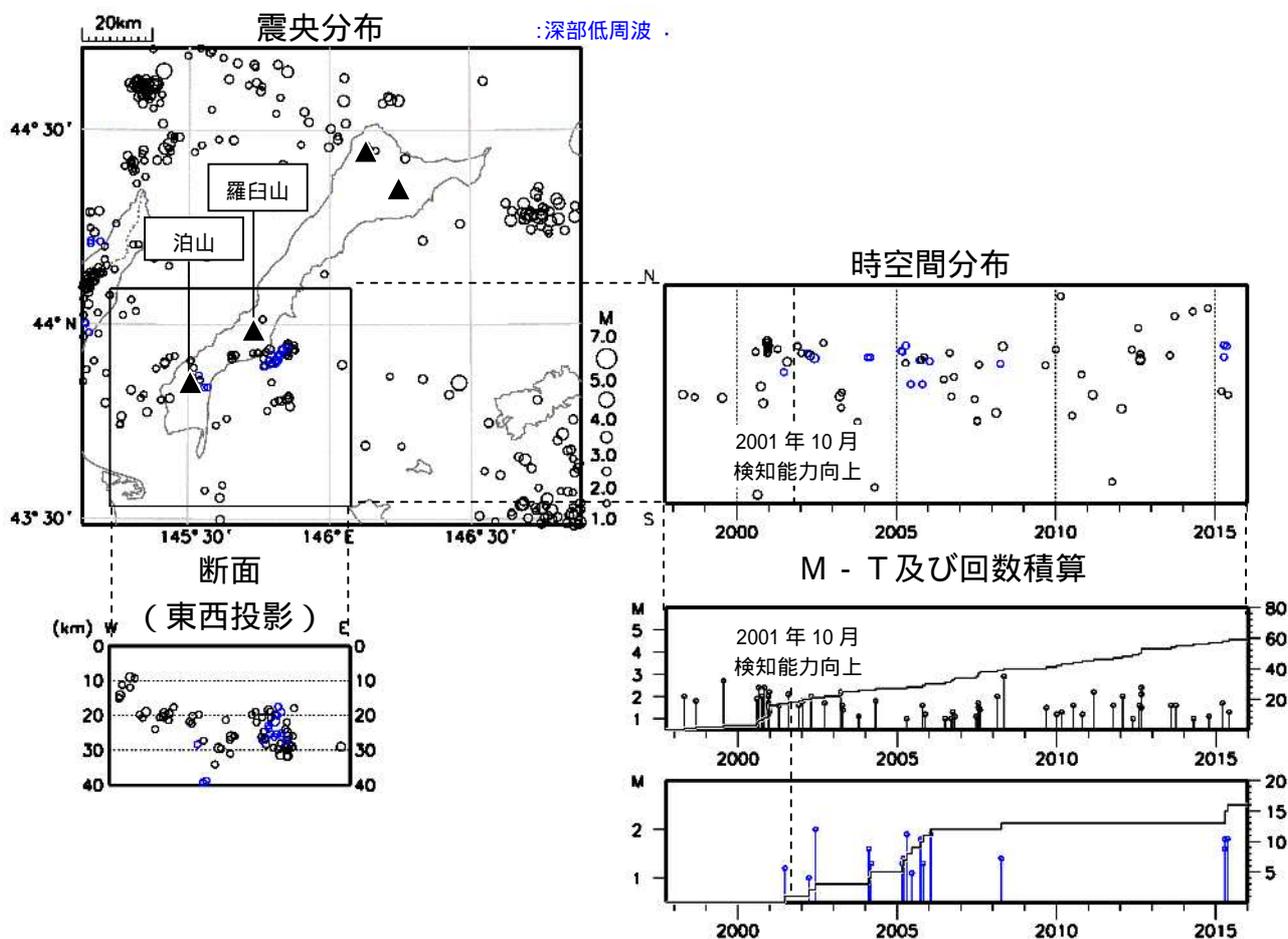
(2015年12月31日現在)

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候はみられない。  
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

## 概況（2015年2月～2015年12月31日）

山体周辺で目立った地震活動はみられない。

気象衛星(MTSAT-2 及び Himawari-8)で検知できるような噴煙は観測されていない。



第 1 図 泊山 一元化震源による周辺の地震及び深部低周波地震活動  
(1997年10月～2015年12月31日、M 1.0、深さ40km以浅)

青色のシンボルは深部低周波地震。

2001年10月以降、Hi-netの追加に伴い検知力が向上している。

この図の作成には、国土地理院発行の「数値地図25000(行政界・海岸線)」を使用した。

この資料は気象庁のほか、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成した。

# 恐 山

(2015 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。  
 噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

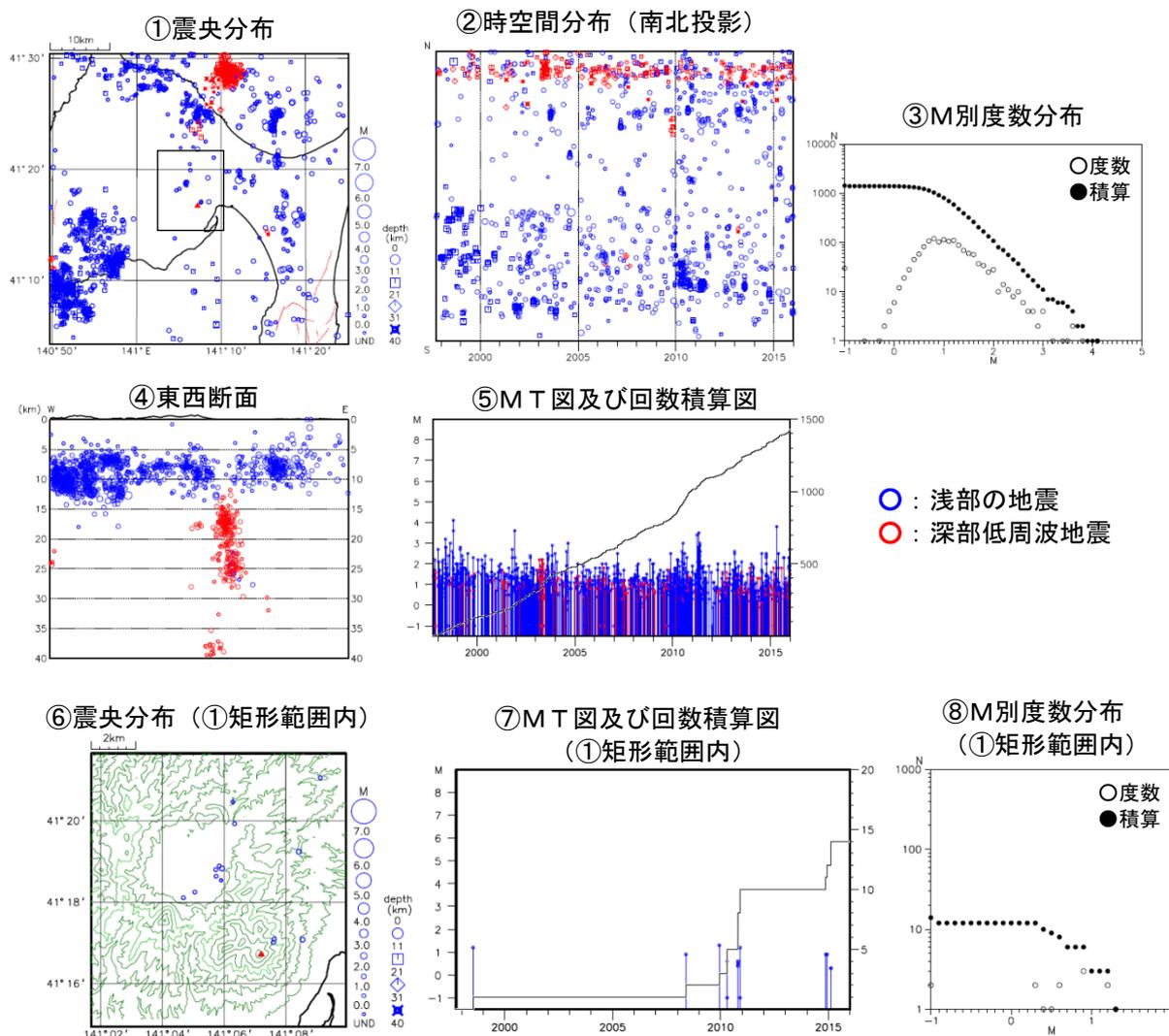
## ○概況(2015 年 2 月～12 月 31 日)

### ・地震活動（第 1 図）

恐山付近を震源とする地震は少ない状態で経過した。

### ・噴気の状態

カルデラ内にある宇曾利山湖（恐山湖）の北岸一帯には噴気孔や温泉が多くあるが、噴気など異常に関する通報はなかった。

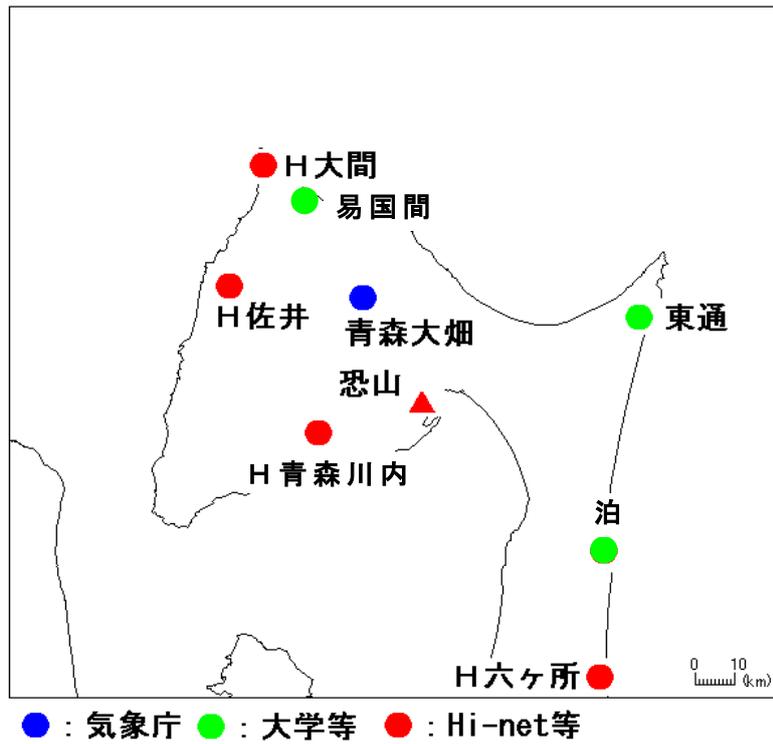


第 1 図 恐山 一元化震源による恐山周辺の地震活動 (1997 年 10 月～2015 年 12 月 31 日)

注) 2001 年 10 月以降、検知能力向上

この図の作成にあたっては、国土地理院発行の「数値地図 25000 (地図画像)」、「数値地図 50mメッシュ (標高)」を使用した。

この資料は気象庁の他、北海道大学、弘前大学、東北大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、青森県のデータ等を利用して作成している。



第 2 図 恐山周辺の地震観測点

この地図の作成にあたっては、国土地理院発行の「数値地図 25000 (地図画像)」を使用した。

## 十 和 田

(2015 年 12 月 31 日現在)

低周波地震が 2 月に 1 回、3 月に 2 回発生した。今期間、火山性地震は少ない状態で経過した。

その他の火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められない。噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

### ○概況(2015 年 2 月～12 月 31 日)

#### ・噴気などの表面現象の状況（第 1 図、第 2 図）

2015 年 11 月 12 日に青森県の協力により実施した上空からの観測では、噴気及び地熱域<sup>1)</sup>は認められなかった。

1) 赤外熱映像装置による。

#### ・地震活動等（第 3～5 図）

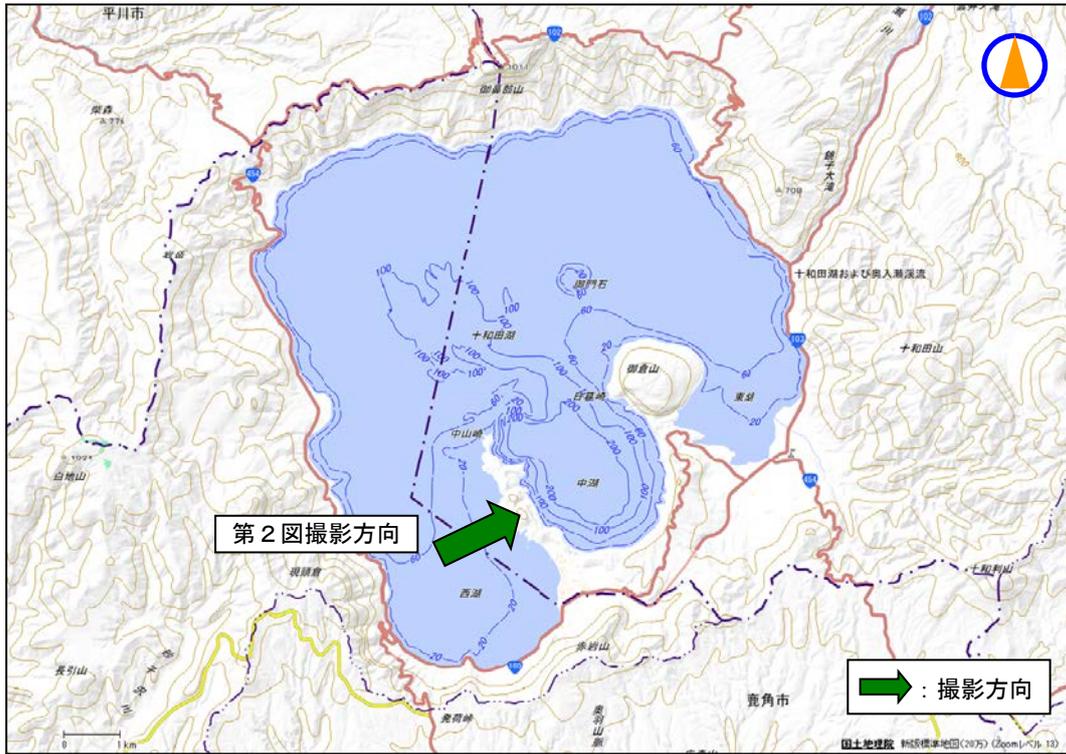
低周波地震が 2 月に 1 回、3 月に 2 回発生した。低周波地震の発生前後で地震活動に特段の変化はなく、今期間、火山性地震は少ない状態で経過した。

火山性微動は観測されなかった。

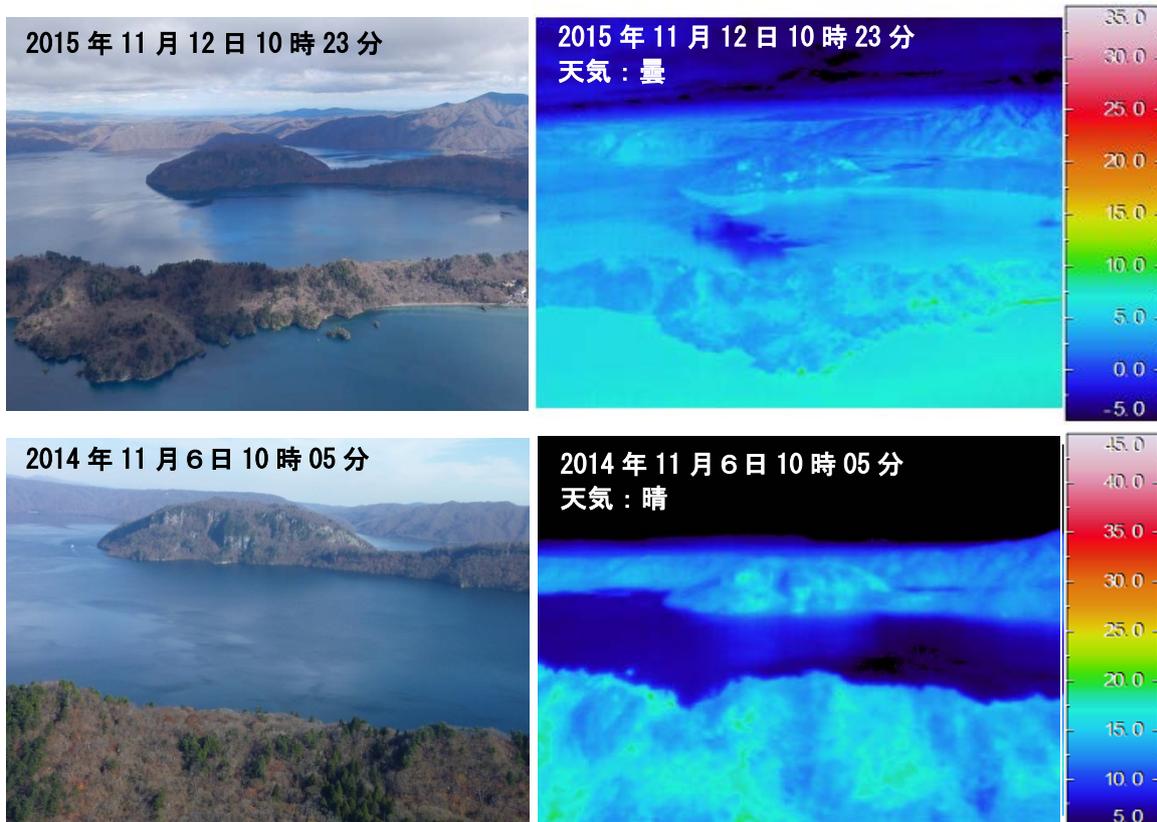
国土地理院の広域的な地殻変動観測結果によると、十和田付近の地殻変動に変化は認められない。

---

この資料は気象庁の他、北海道大学、弘前大学、東北大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、青森県のデータ等を利用して作成している。

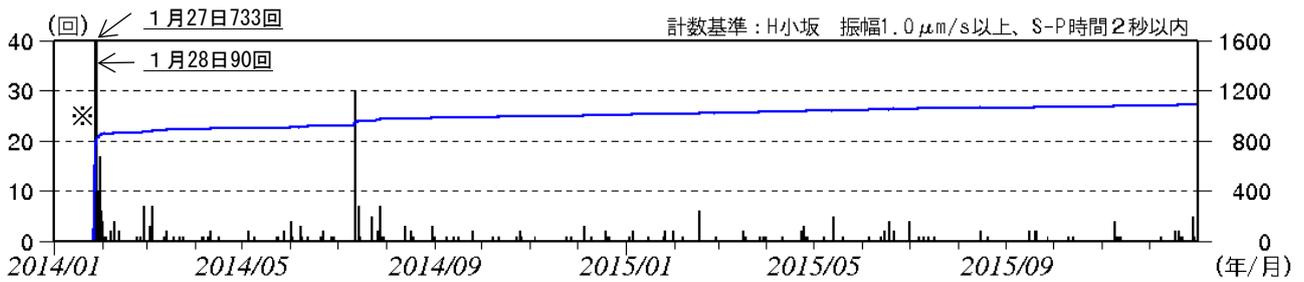


第 1 図 十和田 上空からの中湖付近と御倉山付近の写真及び地表面温度分布<sup>1)</sup> 撮影方向

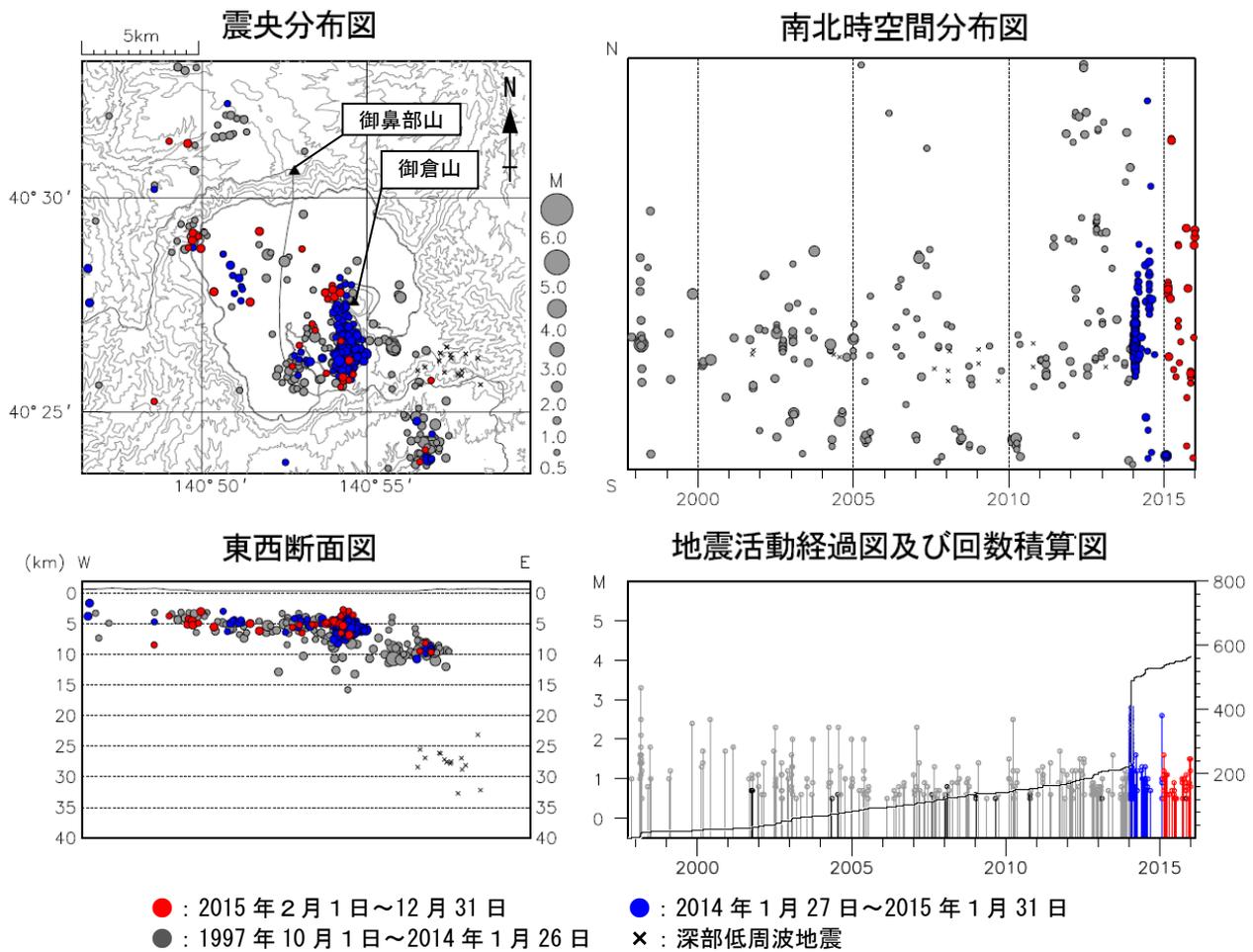


第 2 図 十和田 御倉山及び中湖の状況と地表面温度分布

- ・青森県の協力による上空からの観測。
- ・噴気及び地熱域は認められなかった。
- ・やや温度の高い領域は日射による影響。

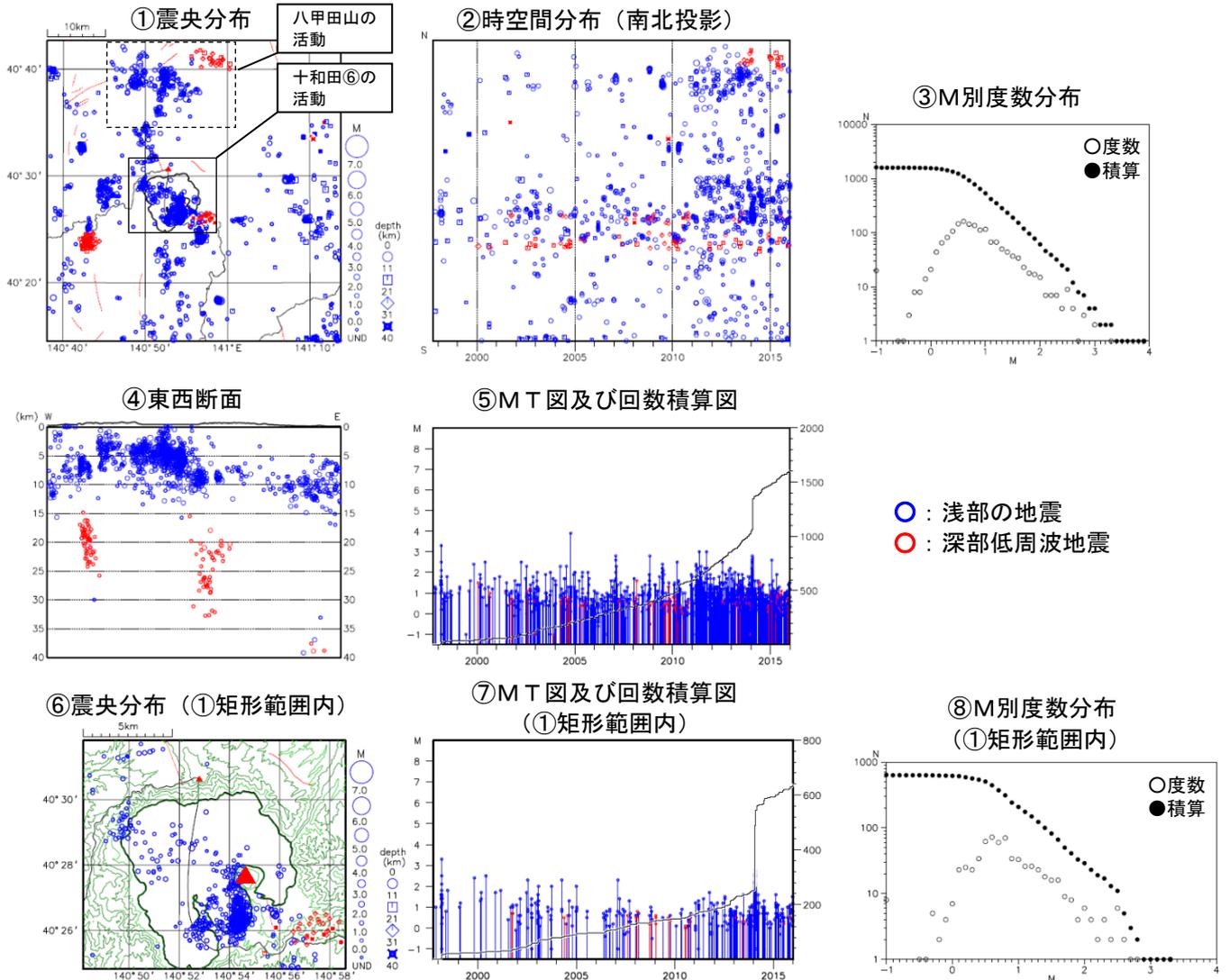


第 3 図 十和田 火山活動経過図 (2014 年 1 月～2015 年 12 月)  
 ※2014 年 1 月 27 日より計数開始。



第 4 図 十和田 一元化震源による十和田周辺の地震活動図 (1997 年 10 月～2015 年 12 月 31 日)

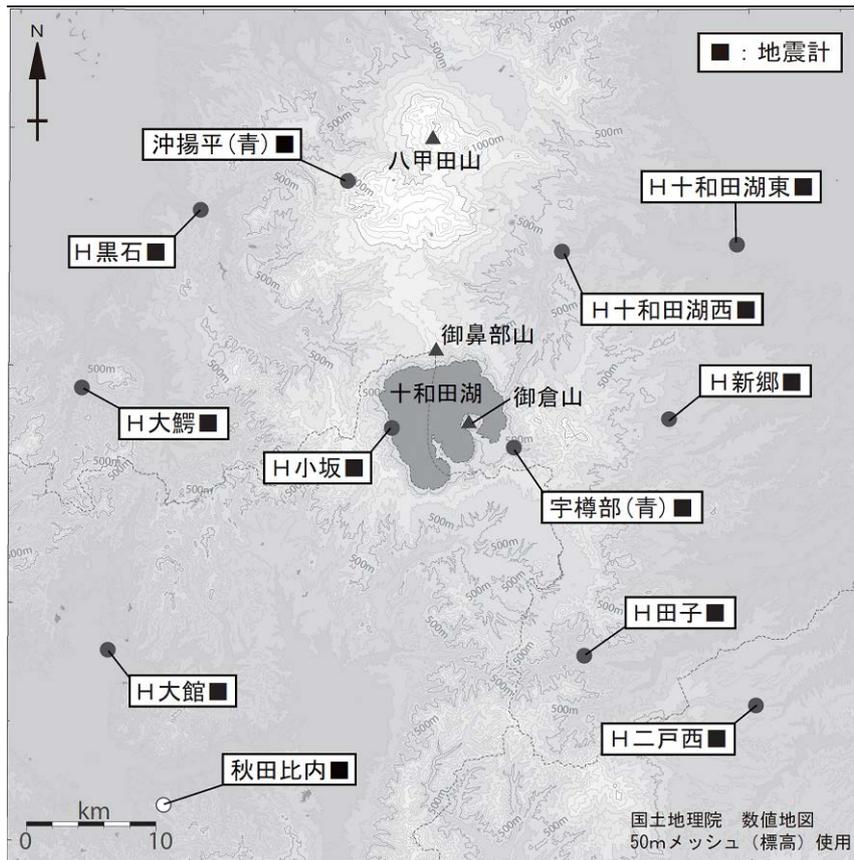
- ・ 2001 年 10 月以降、検知能力向上。
- ・ 深部低周波地震については、1999 年 9 月から識別して登録を開始した。
- ・ マグニチュードは地震の規模を示す。資料中の値は暫定値が含まれるので、後日変更することがある。
- ・ この地図の作成には国土地理院発行の「数値地図 50mメッシュ (標高)」を使用した。



第 5 図 十和田 一元化震源による十和田周辺の地震活動 (1997 年 10 月～2015 年 12 月 31 日)

注) 2001 年 10 月以降、検知能力向上

この図の作成にあたっては、国土地理院発行の「数値地図 25000 (地図画像)」、「数値地図 50mメッシュ (標高)」を使用した。



第 6 図 十和田周辺の地震観測点

- ・ 小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示す。
- H : 防災科学技術研究所、(青) : 青森県

# 八 幡 平

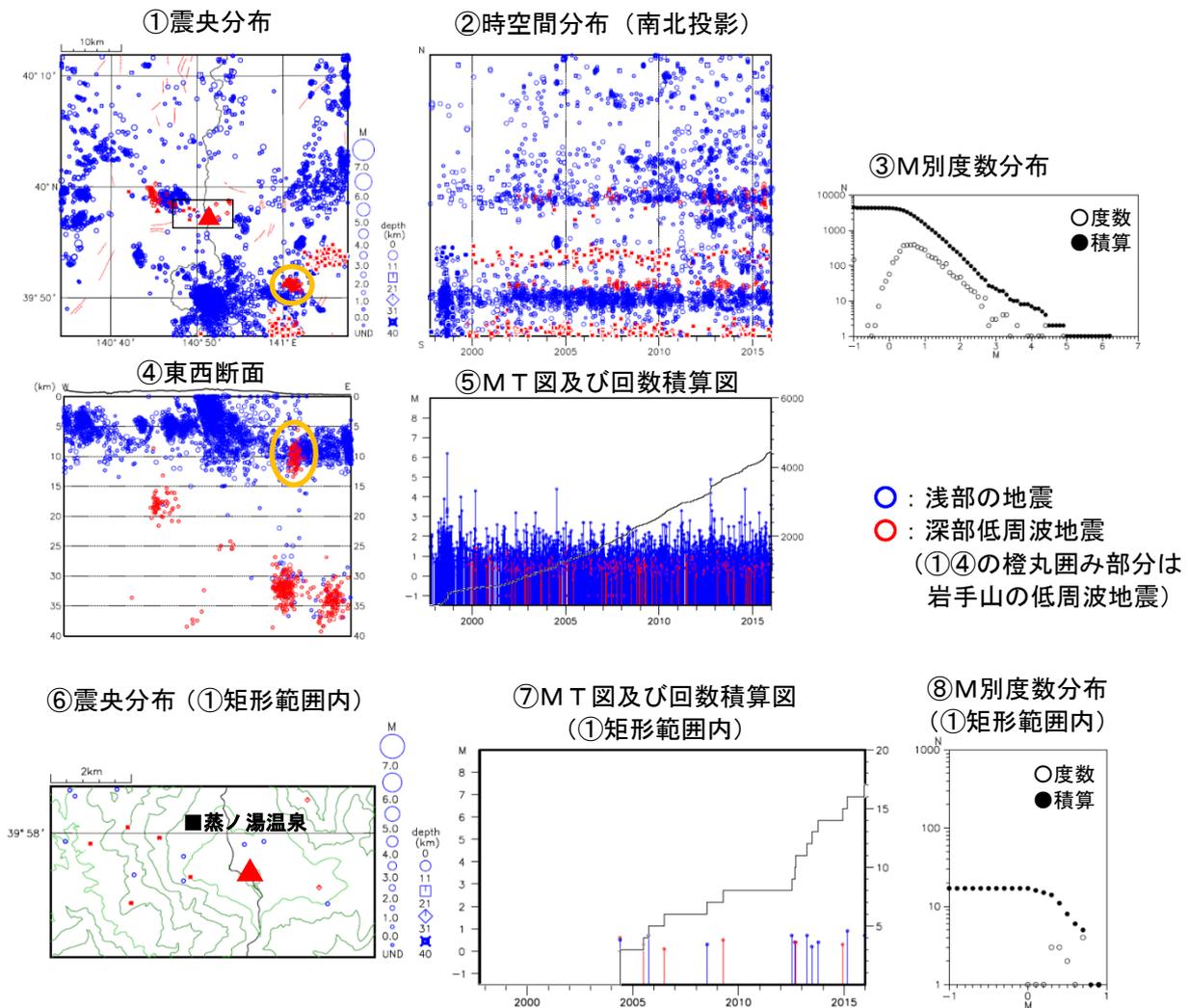
(2015 年 12 月 31 日現在)

地震活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

## ○概況(2015 年 2 月～12 月 31 日)

- ・地震活動（第 1 図）  
八幡平付近を震源とする地震は少ない状態で経過した。
- ・噴気の状態  
噴気など異常に関する通報はなかった。

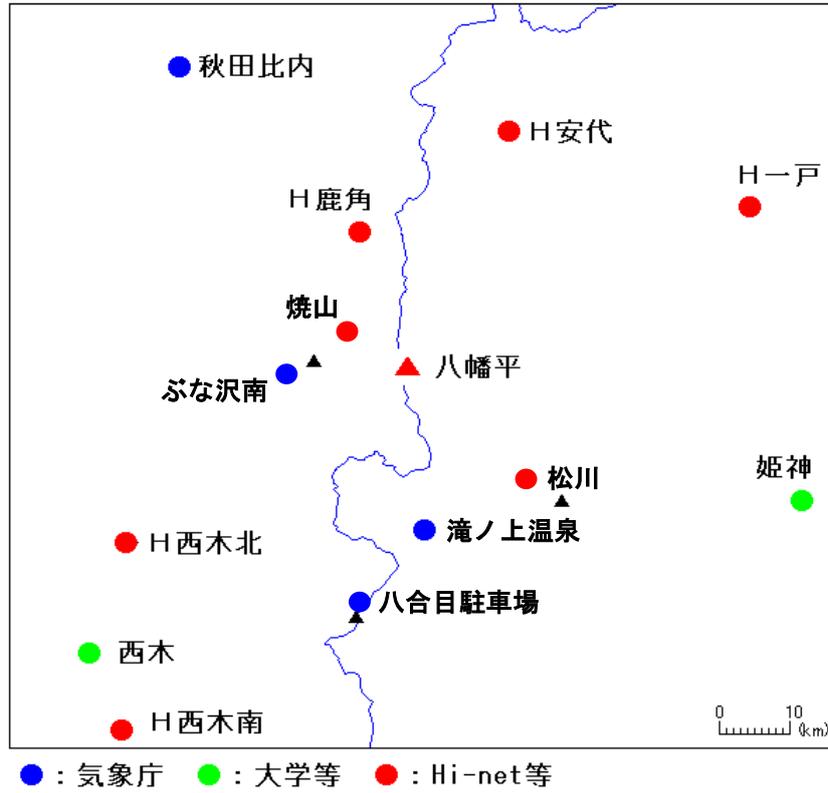


第 1 図 八幡平 一元化震源による八幡平周辺の地震活動 (1997 年 10 月～2015 年 12 月 31 日)

注) 2001 年 10 月以降、検知能力向上

この図の作成にあたっては、国土地理院発行の「数値地図 25000 (地図画像)」、「数値地図 50mメッシュ (標高)」を使用した。

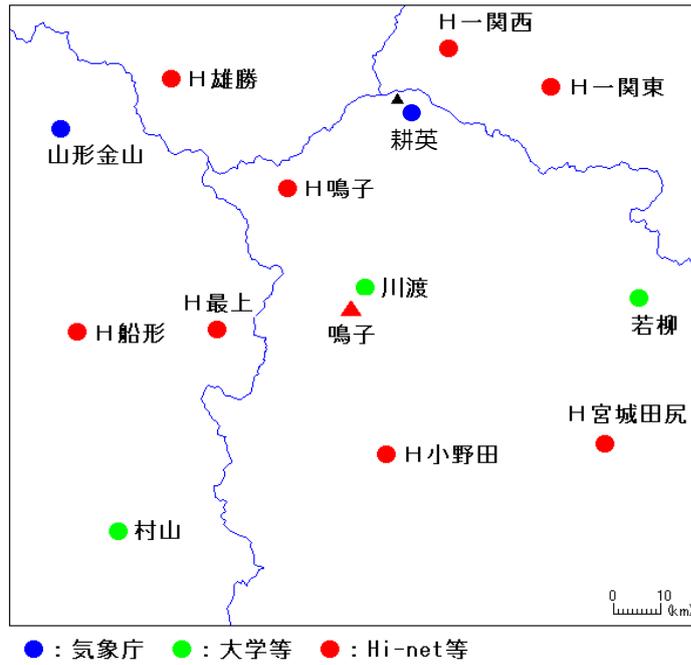
この資料は気象庁の他、弘前大学、東北大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、青森県のデータ等を利用して作成している。



第 2 図 八幡平周辺の地震観測点

この地図の作成にあたっては、国土地理院発行の「数値地図 25000（地図画像）」を使用した。





第 2 図 鳴子周辺の地震観測点

この地図の作成にあたっては、国土地理院発行の「数値地図 25000 (地図画像)」を使用した。

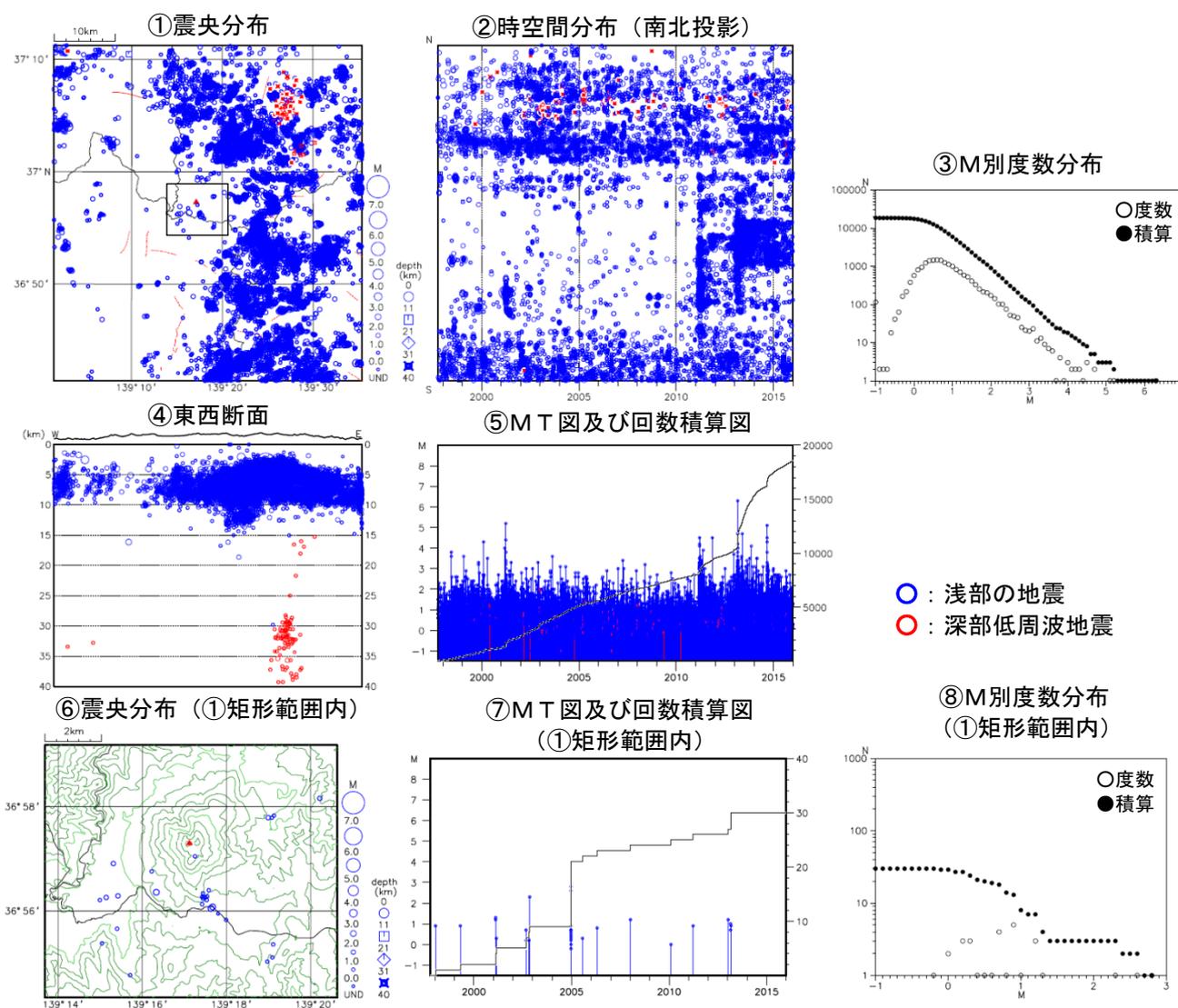
# 燧ヶ岳

(2015 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。  
 噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

## ○概況 (2015 年 2 月～12 月 31 日)

- ・地震活動（第 1 図）  
 今期間、燧ヶ岳付近を震源とする地震は観測されなかった。
- ・噴気の状態  
 噴気など異常に関する通報はなかった。

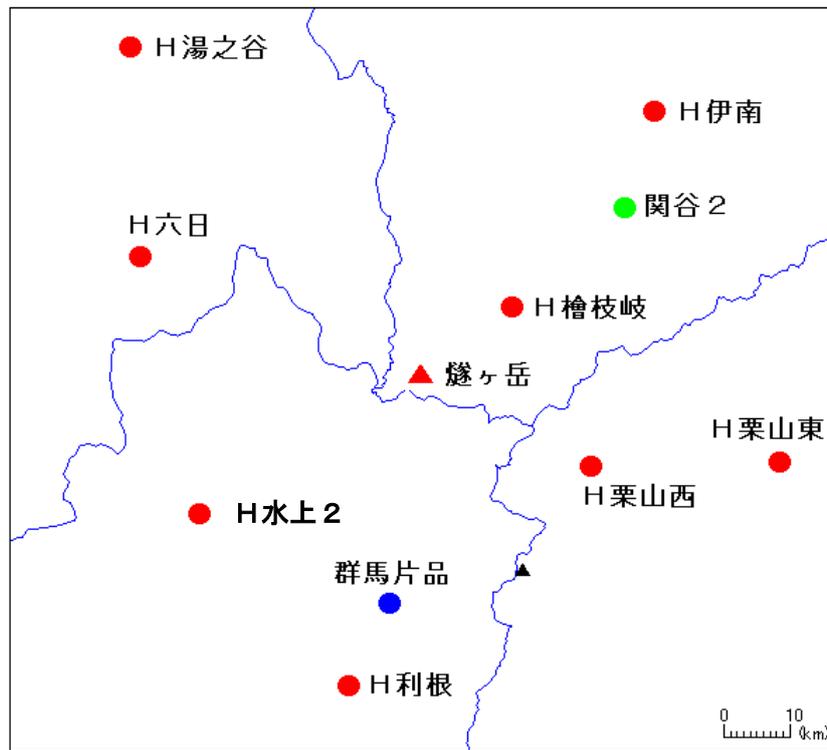


第 1 図 燧ヶ岳 一元化震源による燧ヶ岳周辺の地震活動 (1997 年 10 月～2015 年 12 月 31 日)

注) 2001 年 10 月以降、検知能力向上

この図の作成にあたっては、国土地理院発行の「数値地図 25000 (地図画像)」、「数値地図 50mメッシュ (標高)」を使用した。

この資料は気象庁の他、東北大学、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを基に作成している。



● : 気象庁   ● : 大学等   ● : Hi-net等

第 2 図 燧ヶ岳周辺の地震観測点

この地図の作成にあたっては、国土地理院発行の「数値地図 25000 (地図画像)」を使用した。

# 肘 折

(2015 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。  
 噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

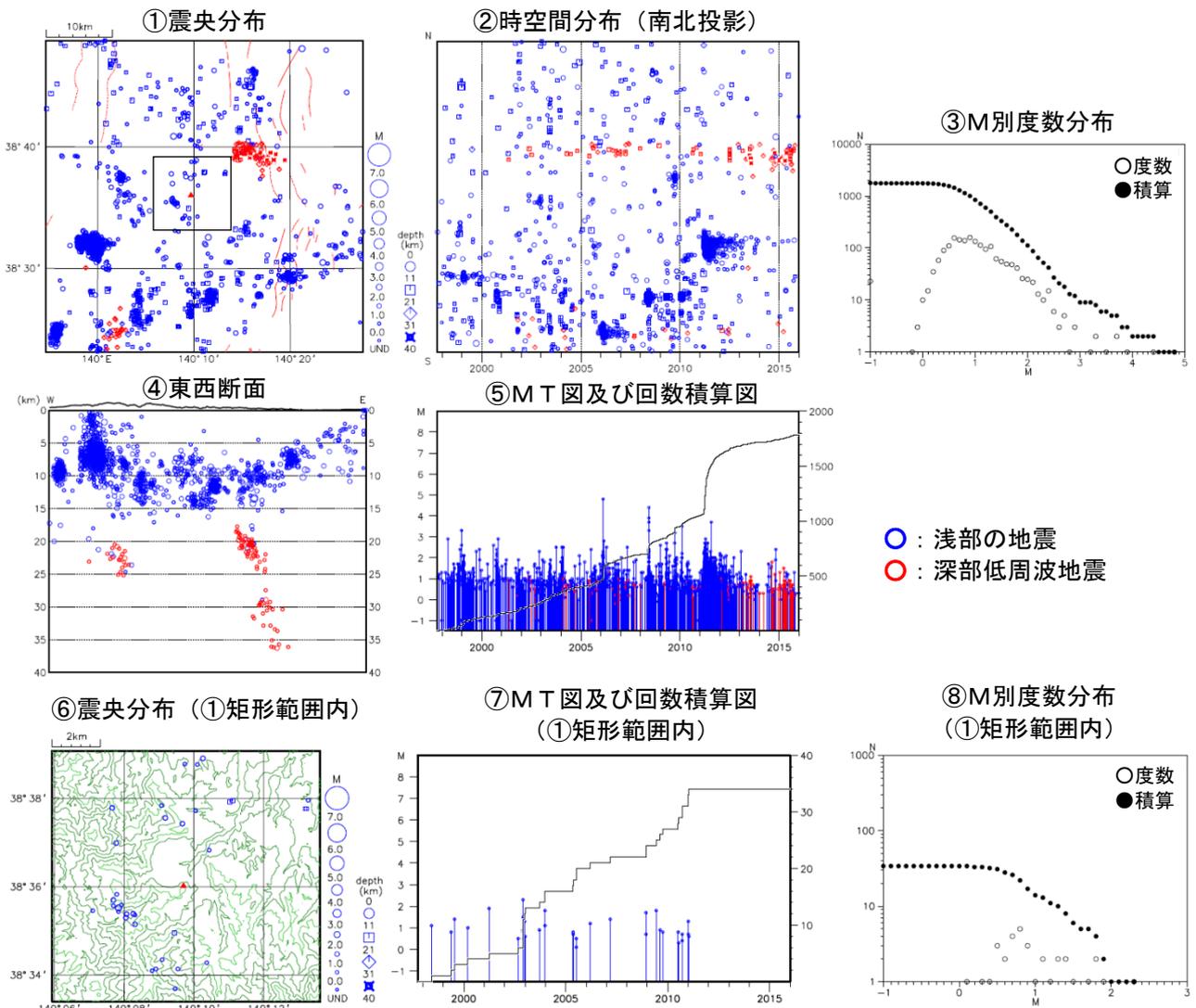
## ○概況 (2015 年 2 月～12 月 31 日)

### ・地震活動 (第 1、2 図)

肘折付近を震源とする地震は観測されなかった。また、2014 年 5 月頃から深部低周波地震がやや増加している。

### ・噴気の状況

噴気など異常に関する通報はなかった。

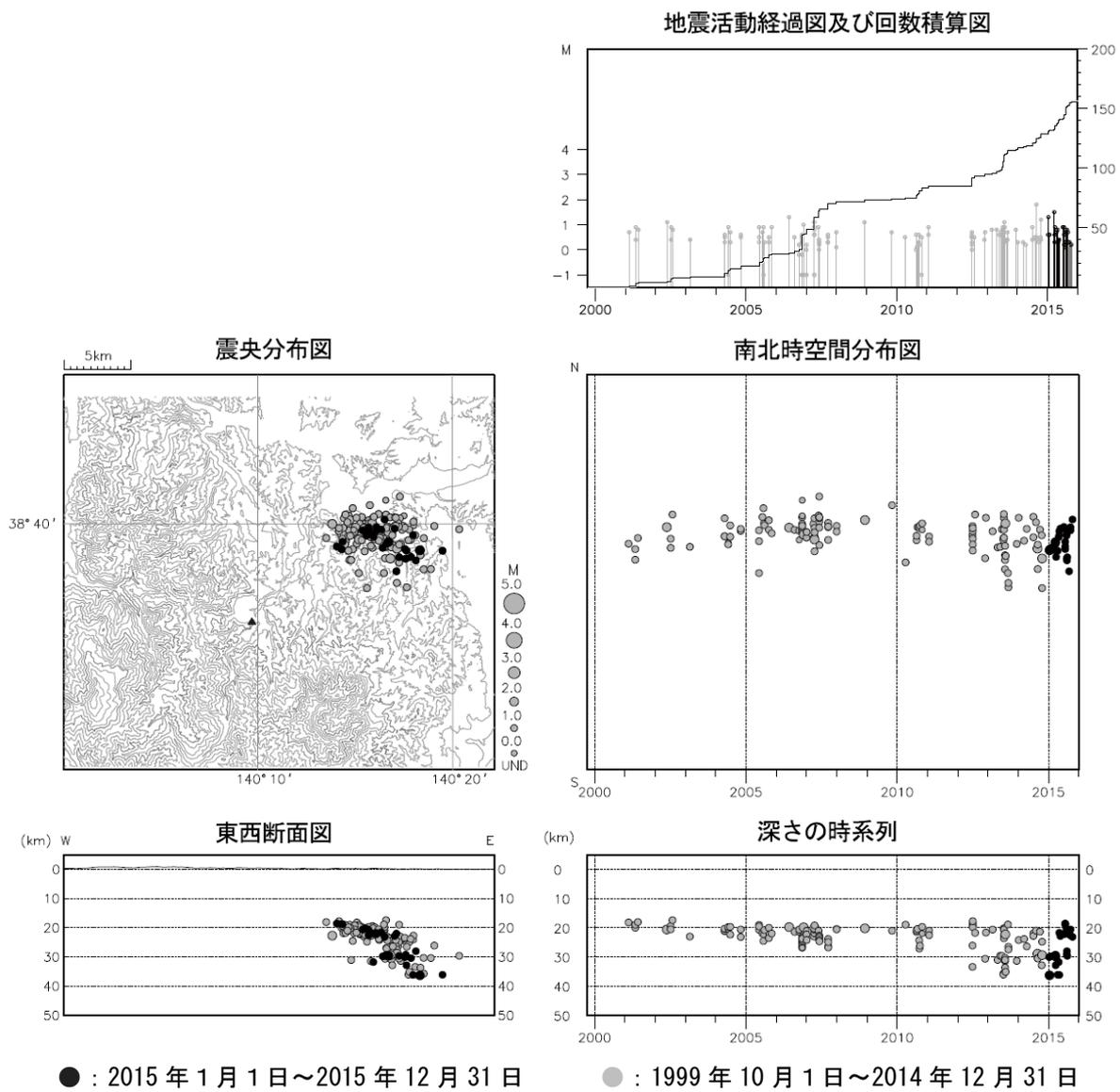


第 1 図 肘折 一元化震源による肘折周辺の地震活動 (1997 年 10 月～2015 年 12 月 31 日)

注) 2001 年 10 月以降、検知能力向上

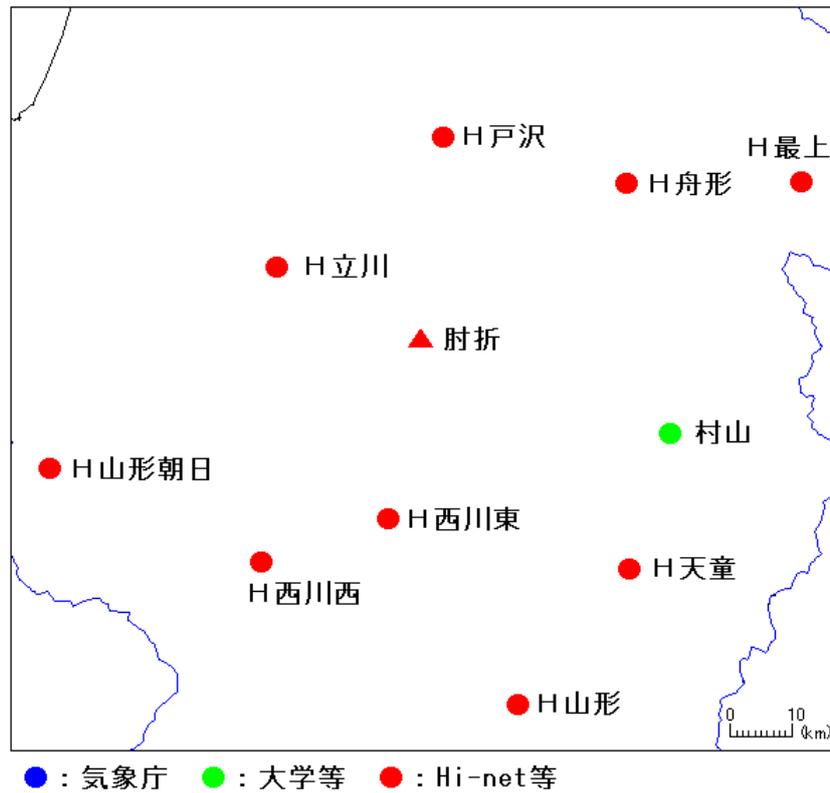
この図の作成にあたっては、国土地理院発行の「数値地図 25000 (地図画像)」、「数値地図 50mメッシュ (標高)」を使用した。

この資料は気象庁の他、東北大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを基に作成している。



第 2 図 肘折 一元化震源による深部低周波地震活動 (1999 年 10 月～2015 年 12 月 31 日)

注) 2001 年 10 月以降、検知能力向上  
 ・この地図の作成には国土地理院発行の「数値地図 50mメッシュ (標高)」を使用した。  
 ・2014 年 5 月頃から深部低周波地震がやや増加している。



第 3 図 肘折周辺の地震観測点

この地図の作成にあたっては、国土地理院発行の「数値地図 25000 (地図画像)」を使用した。

# 沼 沢

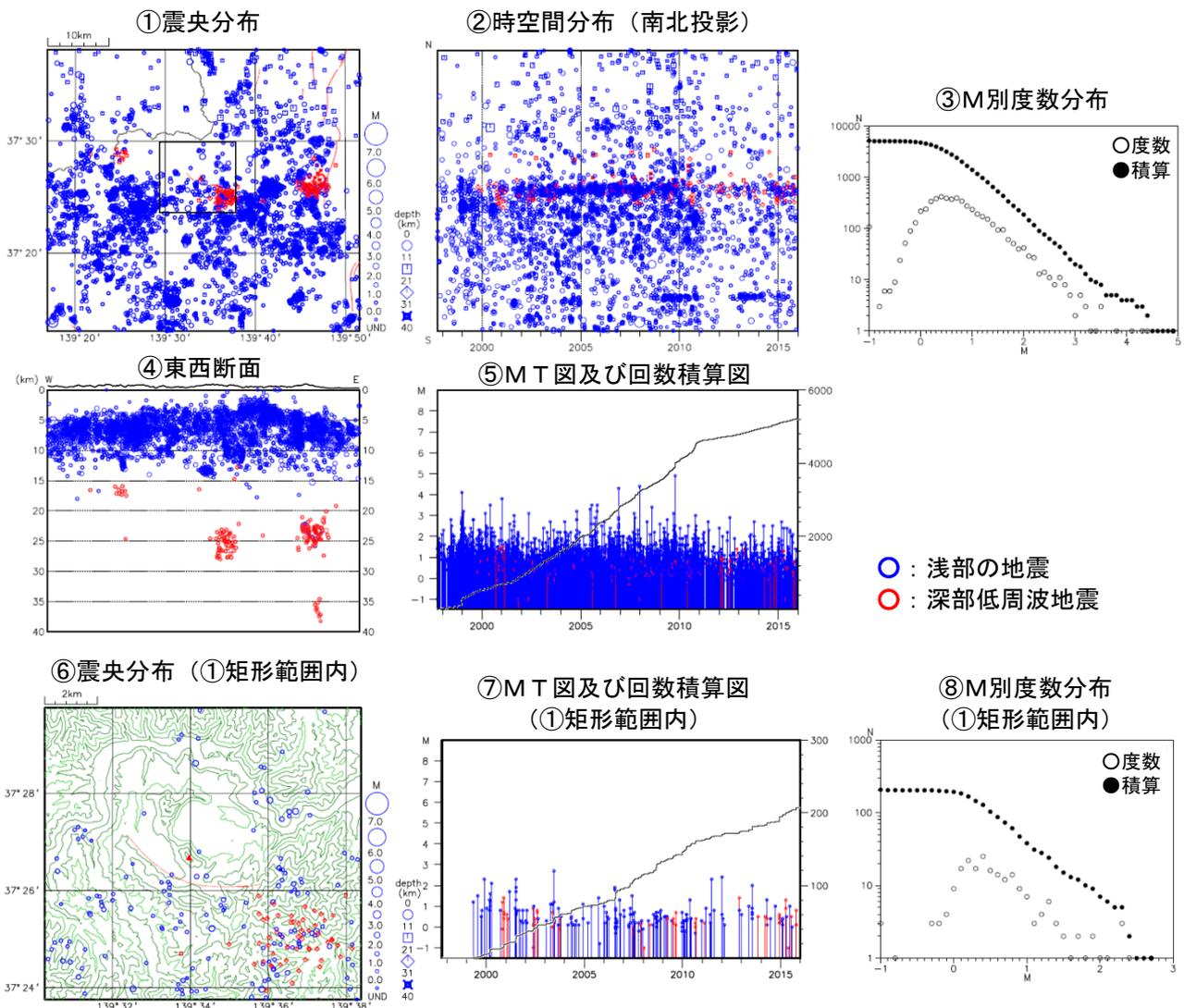
(2015 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

## ○概況 (2015 年 2 月～12 月 31 日)

- ・地震活動（第 1 図）  
沼沢付近を震源とする地震は少ない状態で経過した。
- ・噴気の状態  
噴気など異常に関する通報はなかった。

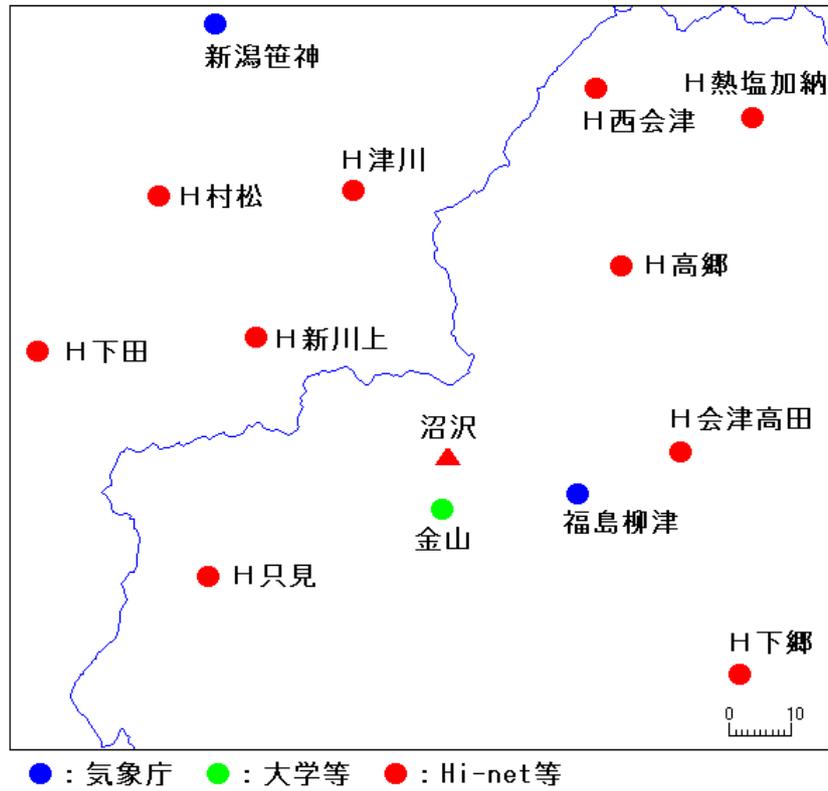


第 1 図 沼沢 一元化震源による沼沢周辺の地震活動 (1997 年 10 月～2015 年 12 月 31 日)

注) 2001 年 10 月以降、検知能力向上

この図の作成にあたっては、国土地理院発行の「数値地図 25000 (地図画像)」、「数値地図 50mメッシュ (標高)」を使用した。

この資料は気象庁の他、東北大学、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを基に作成している。



第 2 図 沼沢周辺の地震観測点

この地図の作成にあたっては、国土地理院発行の「数値地図 25000 (地図画像)」を使用した。

# 赤 城 山

(2015 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。  
 噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

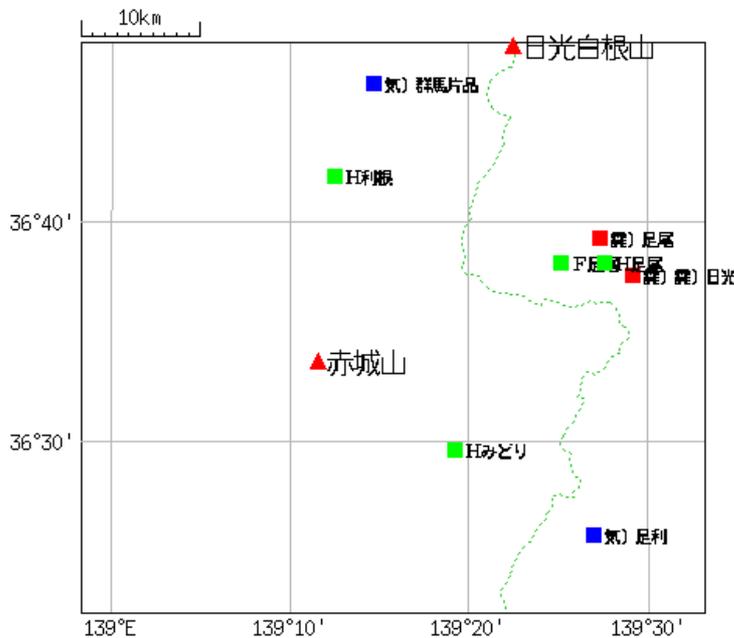
## ○ 概況（2015 年 2 月～2015 年 12 月 31 日）

### ・ 地震活動（第 3 図）

赤城山付近に発生する地震は少なく、周辺の地震活動にも特に変化は認められない。

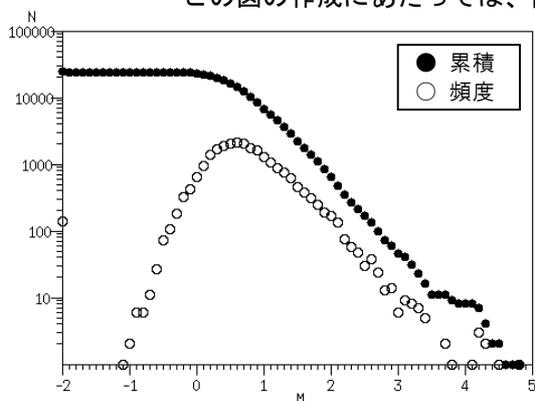
### ・ 噴気等の状況

噴気はなく、異常等に関する通報もない。



第 1 図 赤城山 周辺の地震観測点

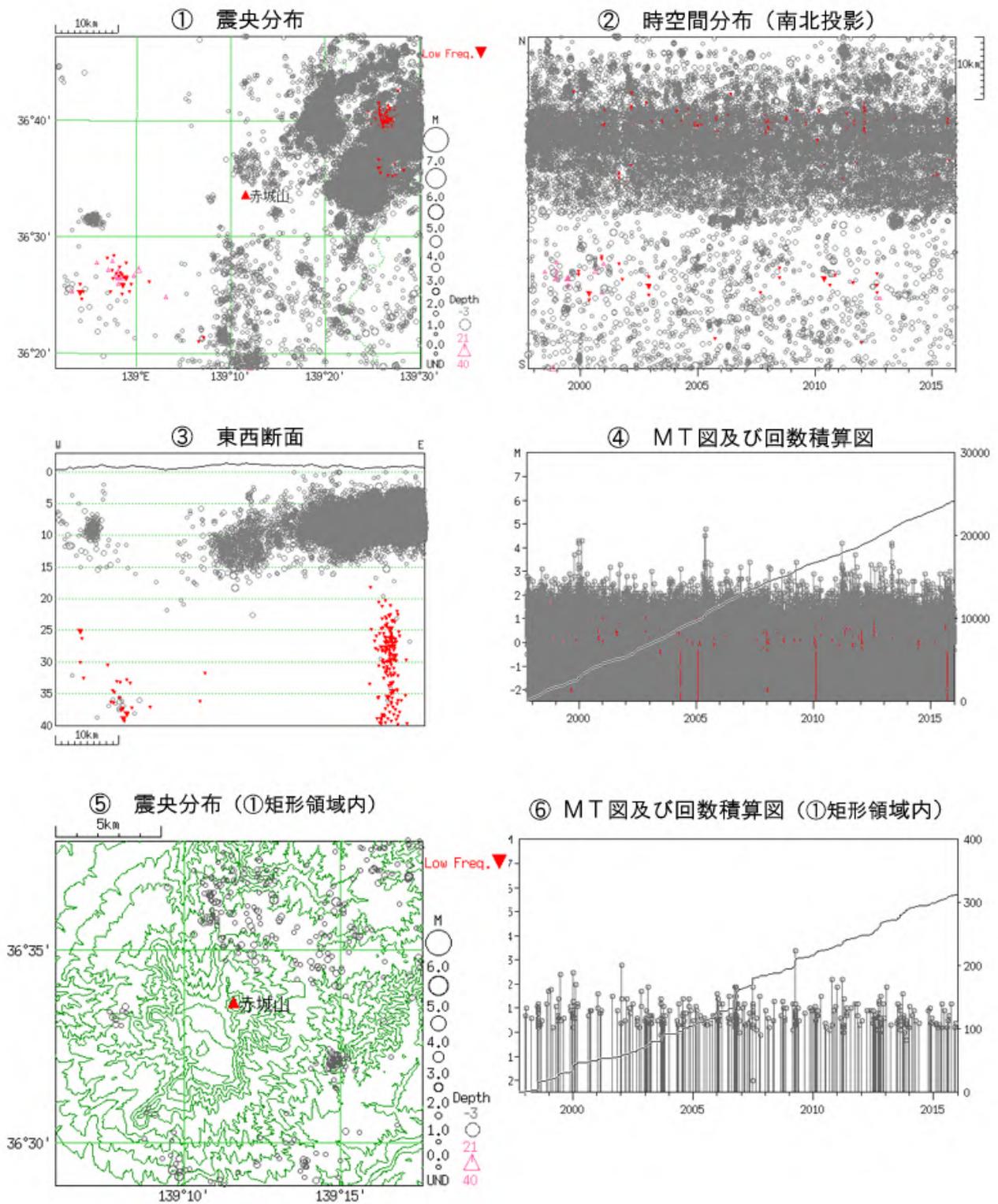
■ (震) : 東大震研観測点    ■ (H) : 防災科研観測点    ■ (気) : 気象庁観測点  
 この図の作成にあたっては、国土地理院発行の数値地図 25000 を使用した。



第 2 図 赤城山

一元化震源によるマグニチュード別度数分布図  
 (第 3 図①震央分布図の範囲内)

この資料は気象庁のほか、東京大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成。



第 3 図 赤城山 一元化震源による周辺の地震活動 (1997 年 10 月 1 日～2015 年 12 月 31 日)

注) 2002 年 10 月以降、Hi-net 追加により検知力向上

赤は低周波地震を示す。

この図の作成にあたっては、国土地理院発行の数値地図 50mメッシュ (標高) を使用した。

# 榛 名 山

(2015 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

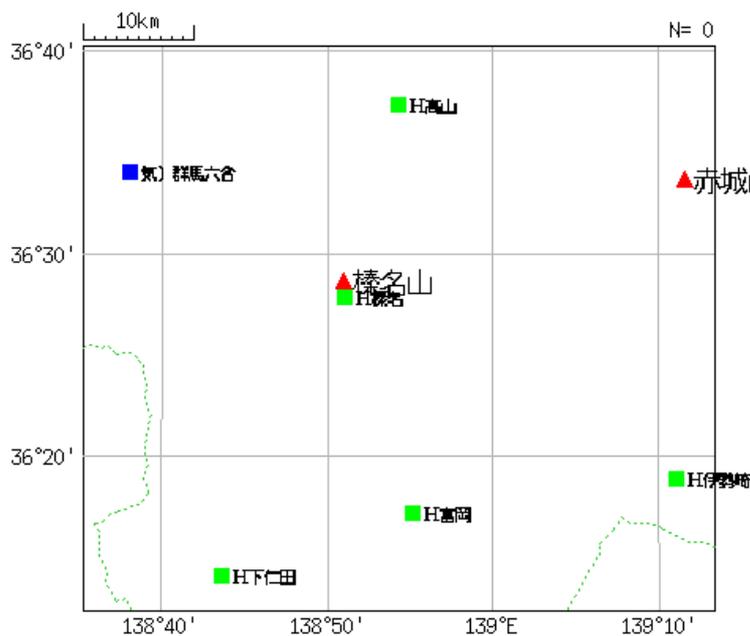
## ○ 概況（2015 年 2 月～2015 年 12 月 31 日）

### ・ 地震活動（第 3 図）

2005 年頃から北東側 10km 付近で地震活動が見られたが、山体付近に発生する地震は少ない。

### ・ 噴気等の状況

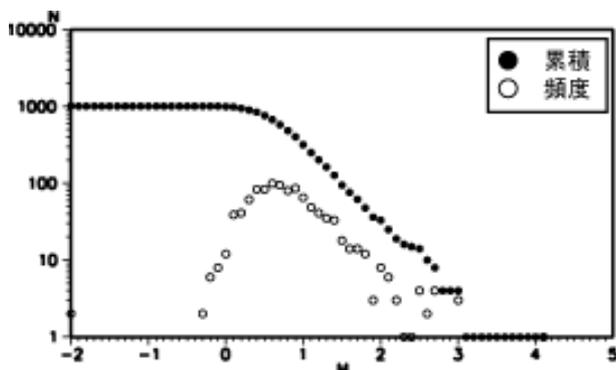
噴気はなく、異常等に関する通報もない。



第 1 図 榛名山 周辺の地震観測点

■ H) : 防災科研観測点      ■ 気) : 気象庁観測点

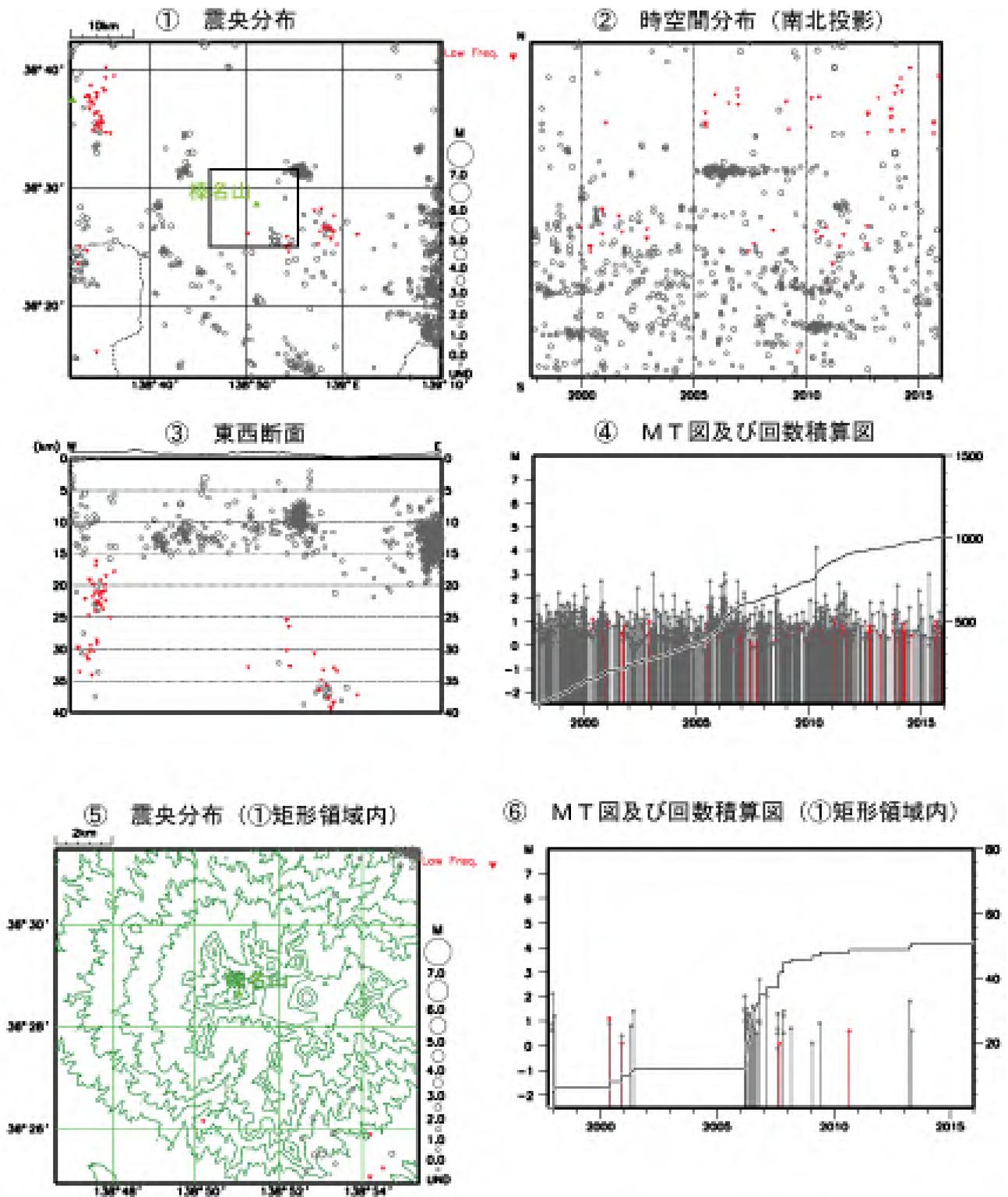
この図の作成にあたっては、国土地理院発行の数値地図 25000 を使用した。



第 2 図 榛名山

一元化震源によるマグニチュード別度数分布図  
(第 3 図①震央分布図の範囲内)

この資料は気象庁のほか、東京大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成。



第 3 図 榛名山 一元化震源による周辺の地震活動 (1997 年 10 月 1 日～2015 年 12 月 31 日)

注) 2002 年 10 月以降、Hi-net 追加により検知力向上

赤は低周波地震を示す。

この図の作成にあたっては、国土地理院発行の数値地図 50mメッシュ (標高) を使用した。

# 妙高山

(2015 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。  
 噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

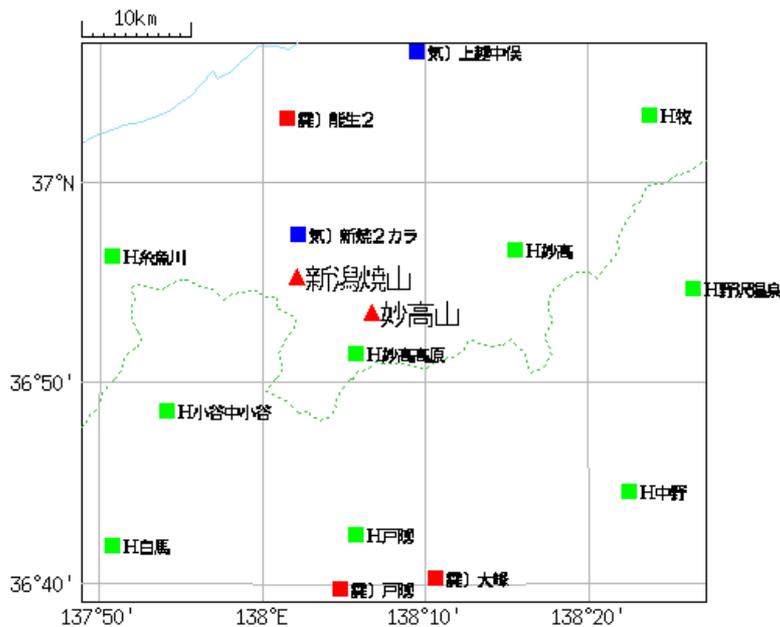
## ○ 概況（2015 年 2 月～2015 年 12 月 31 日）

### ・ 地震活動（第 3 図）

山体付近に発生する地震はほとんどなく、周辺の地震活動にも特に変化は認められない。

### ・ 噴気等の状況（第 4 図～第 5 図）

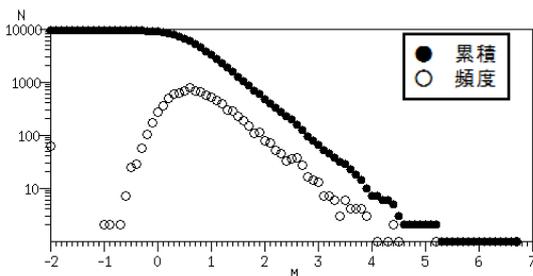
2016 年 1 月 28 日（期間外）に国土交通省北陸地方整備局松本砂防事務所の協力により上空からの観測を実施した。南側火口原の南地獄谷頭部にある従来から噴気地帯において噴気が上がっているのを確認した。その他の異常は認められなかった。また、噴気異常等に関する通報はない。



第 1 図 妙高山 周辺の地震観測点

■(震)：東大震研観測点    ■(H)：防災科研観測点    ■(気)：気象庁観測点

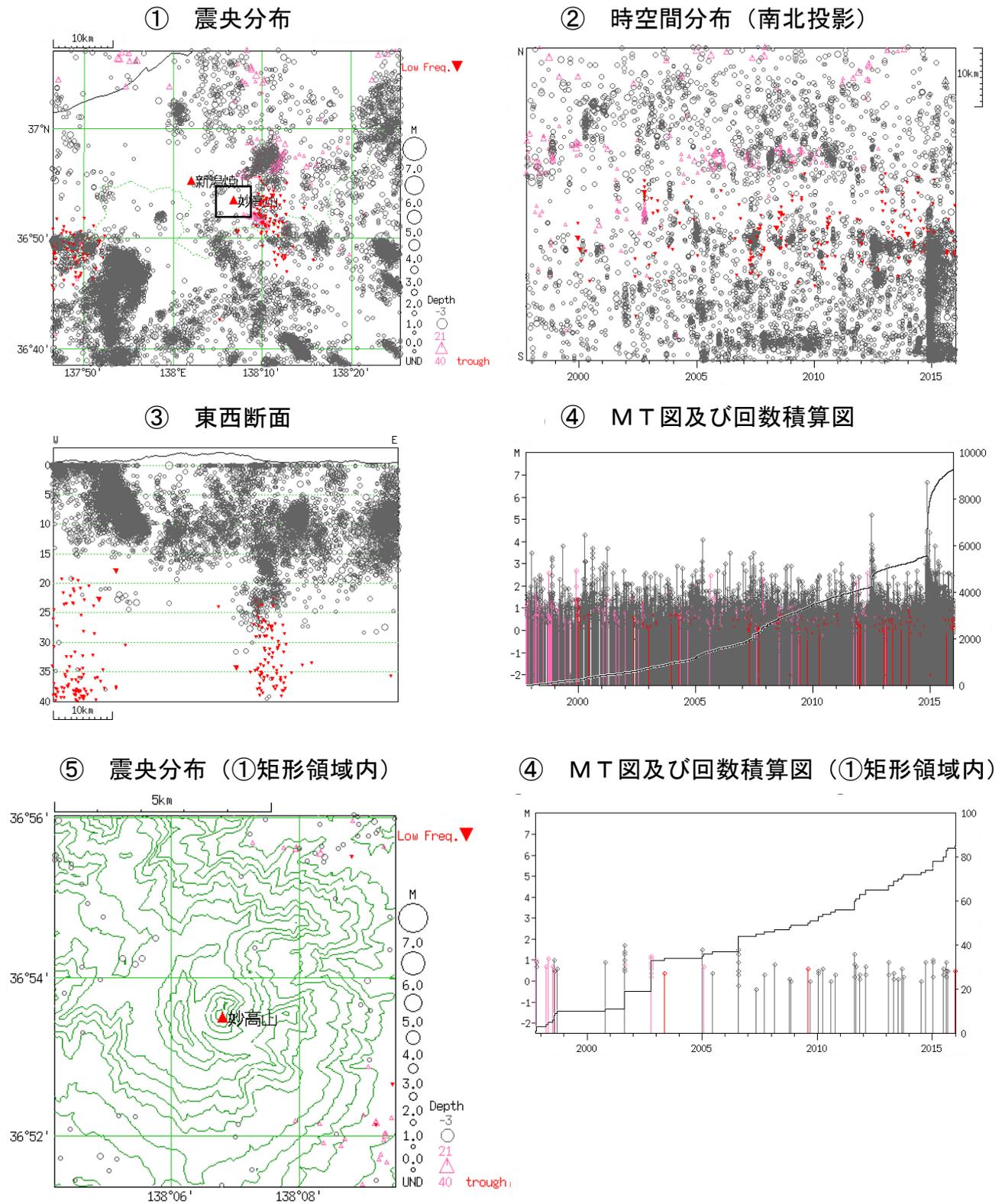
この図の作成にあたっては、国土地理院発行の数値地図 25000 を使用した。



第 2 図 妙高山

一元化震源によるマグニチュード別度数分布図  
 (第 3 図①震央分布図の範囲内)

この資料は気象庁のほか、東京大学、京都大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成。

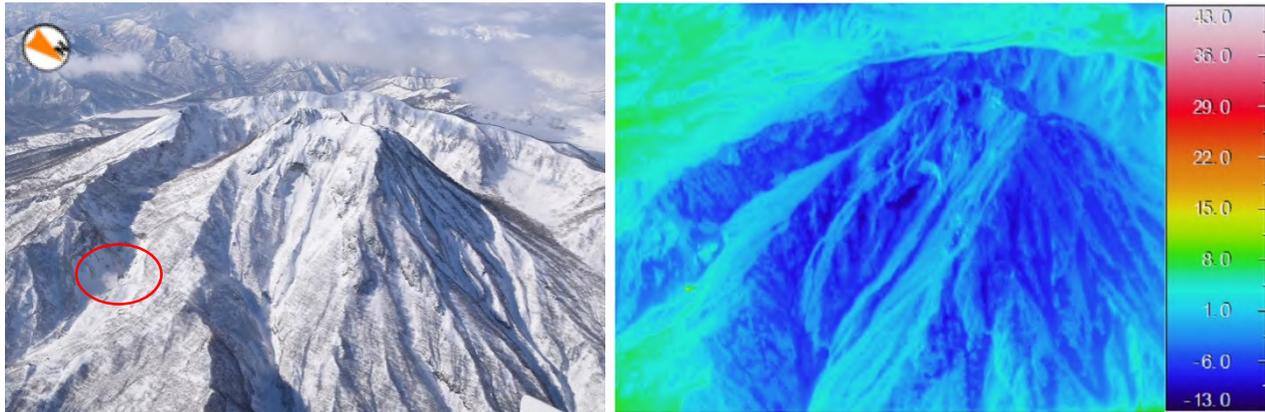


第 3 図 妙高山 一元化震源による周辺の地震活動 (1997 年 10 月 1 日～2015 年 12 月 31 日)

注) 2002 年 10 月以降、Hi-net 追加により検知力向上

赤は低周波地震を示す。

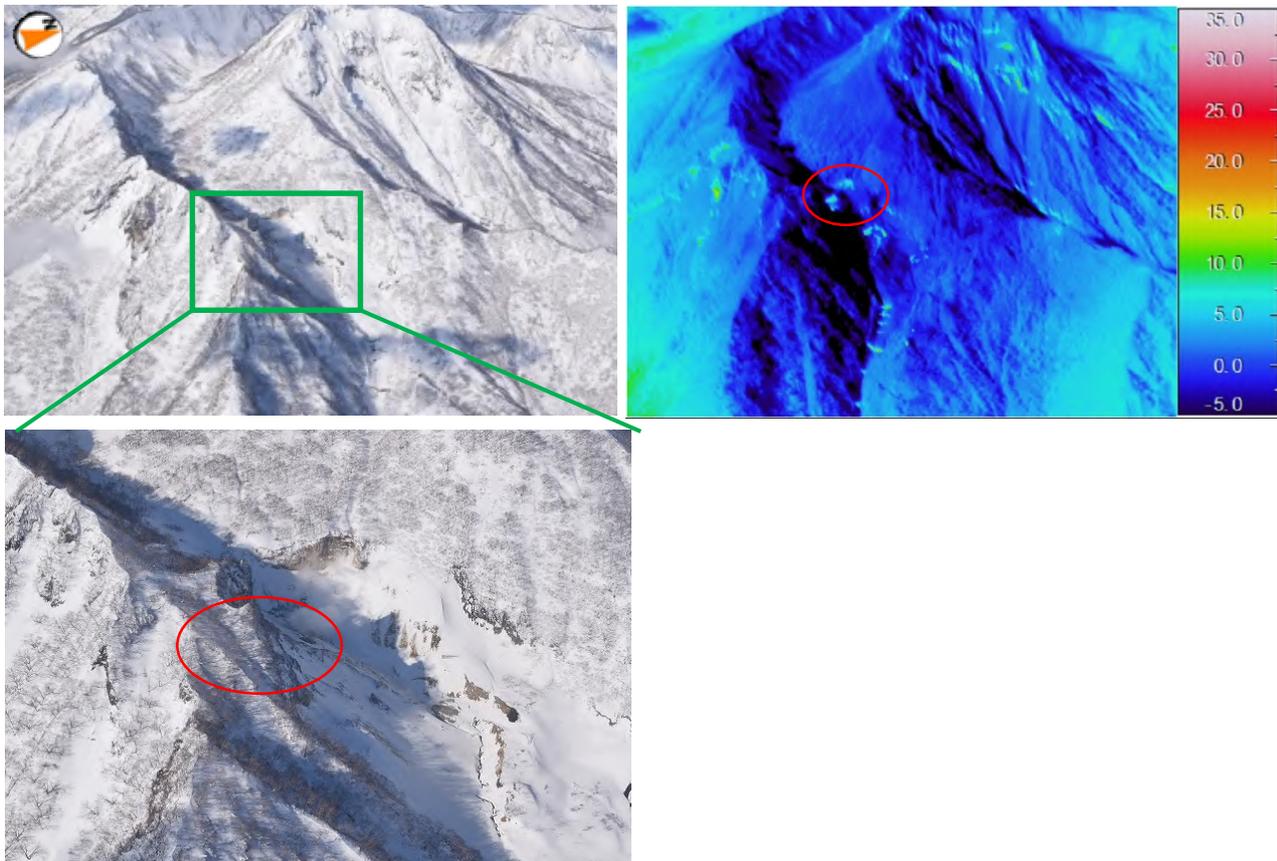
この図の作成にあたっては、国土地理院発行の数値地図 50mメッシュ (標高) を使用した。



2016 年 1 月 28 日 11 時 17 分撮影 高度約 3,100m 外気温約 -7℃  
 (国土交通省北陸地方整備局松本砂防事務所の協力による)

第 4 図 妙高山 赤外熱映像装置による妙高山付近の地表目温度分布

・赤丸で囲った範囲は南側の地獄谷噴気地帯を示す。



2016 年 1 月 28 日 11 時 18 分撮影 高度約 3,100m 外気温約 -7℃  
 (国土交通省北陸地方整備局松本砂防事務所の協力による)

第 5 図 妙高山 赤外熱映像装置による噴気地帯の地表面温度分布

・南側火口原の地獄谷噴気地帯から噴気が上がっているのを確認した。その他に異常は認められなかった。

# 高原山

(2015 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

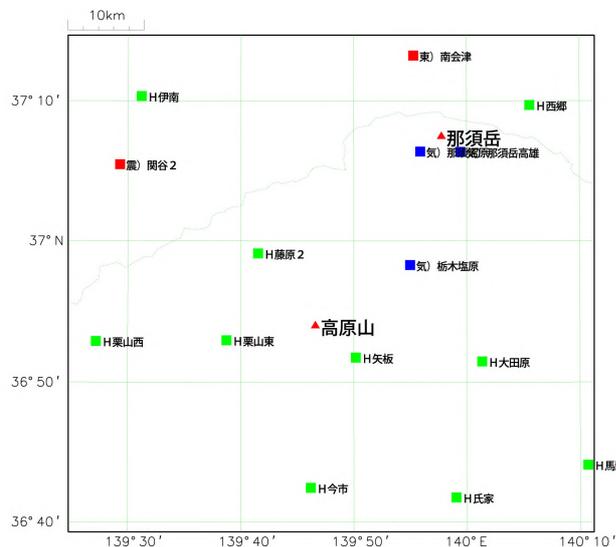
## ○ 概況（2014 年 2 月～2015 年 12 月 31 日）

### ・地震活動（第 3 図）

2008 年 12 月～2009 年 1 月にかけて、高原山山頂（釈迦ヶ岳）付近の浅いところを震源とする地震が一時的に増加したが、最近は特に顕著な地震活動は認められない。

### ・噴気等の状況

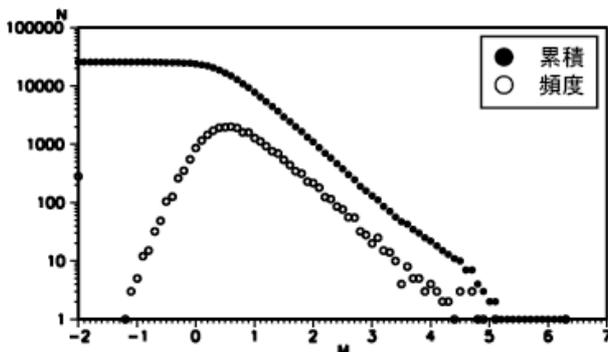
高原山北麓の富士山西側の新潟付近には従来から弱い噴気があるが、噴気異常等に関する通報はない。



第 1 図 高原山 周辺の地震観測点

■(震)：東大震研観測点      ■(東)：東北大学観測点  
 ■(H)：防災科研観測点      ■(気)：気象庁観測点

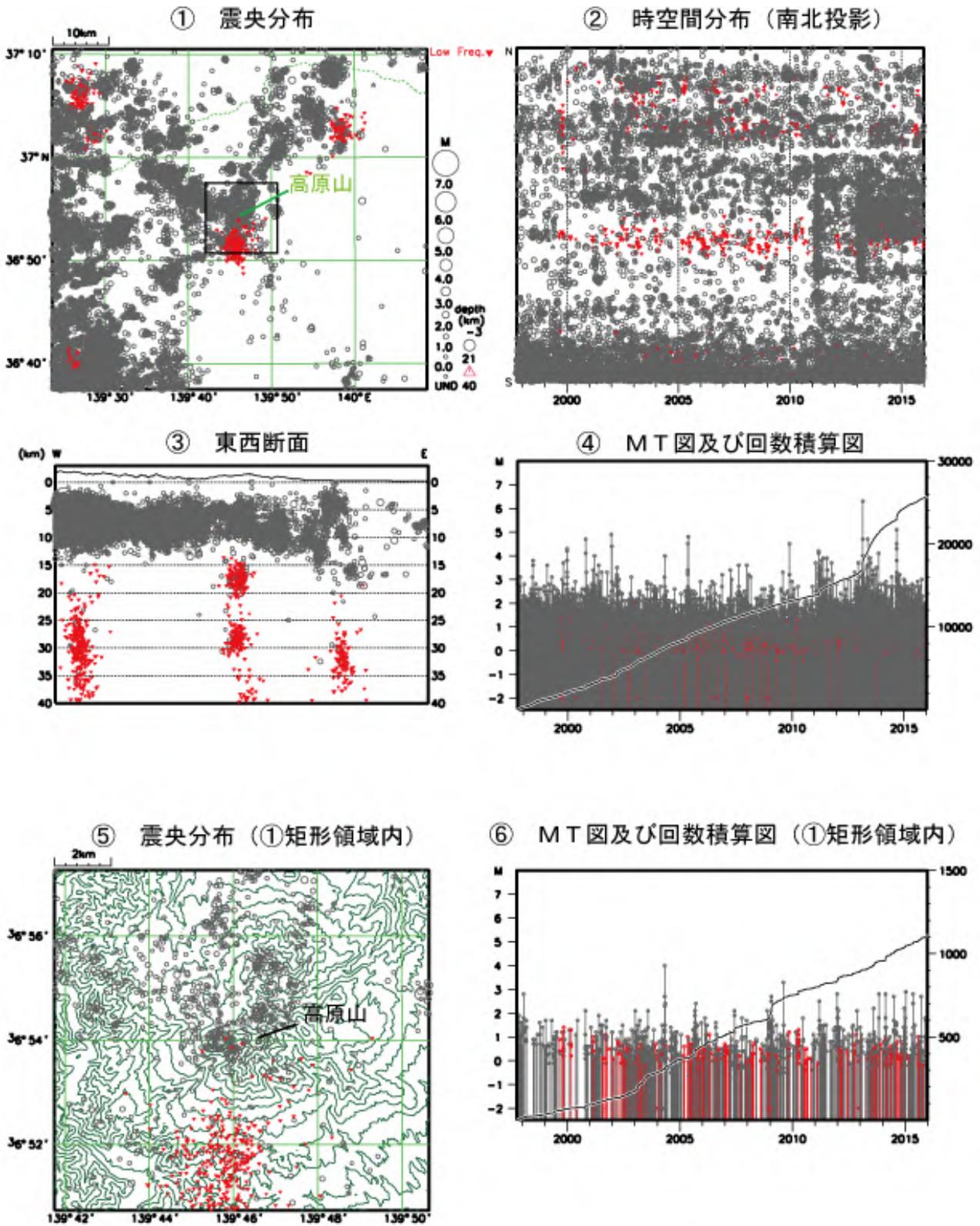
この図の作成にあたっては、国土地理院発行の数値地図 25000 を使用した。



第 2 図 高原山

一元化震源によるマグニチュード別度数分布図  
 (第 3 図①震央分布図の範囲内)

この資料は気象庁のほか、東北大学、東京大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成。



第 3 図 高原山 一元化震源による周辺の地震活動 (1997 年 10 月 1 日～2015 年 12 月 31 日)

注) 2002 年 10 月以降、Hi-net 追加により検知力向上

赤は低周波地震を示す。

この図の作成にあたっては、国土地理院発行の数値地図 50mメッシュ (標高) を使用した。

# 横 岳

(2015 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

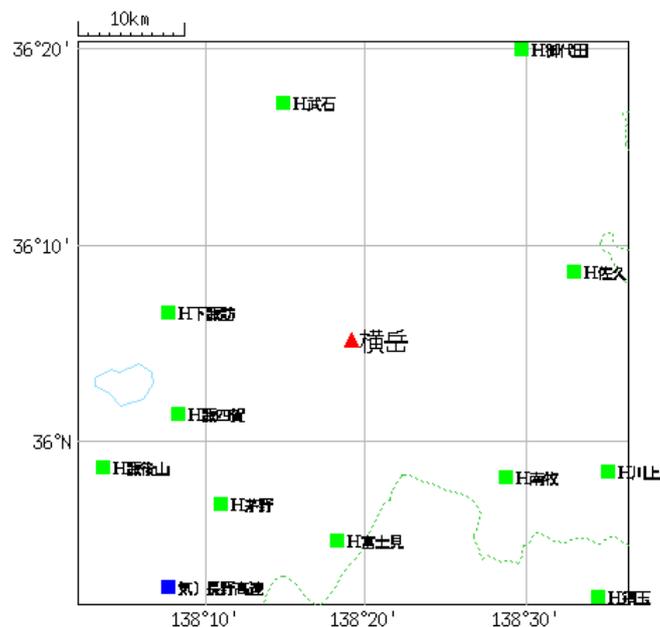
## ○ 概況（2015 年 2 月～2015 年 12 月 31 日）

### ・地震活動（第 3 図）

山体付近に地震は発生していない。周辺の地震活動は東北地方太平洋沖地震（2011 年 3 月 11 日）以降活発化したが、次第に低下している。

### ・噴気等の状況

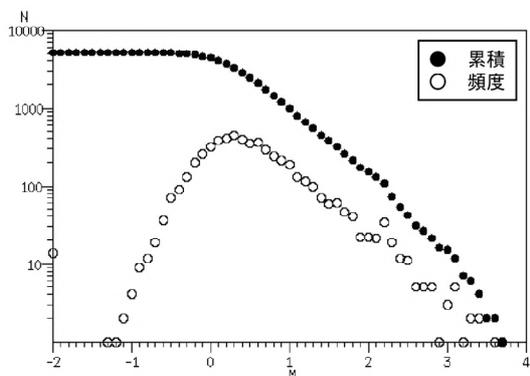
噴気はなく、異常等に関する通報もない。



第 1 図 横岳 周辺の地震観測点

■ H) : 防災科研観測点    ■ 気) : 気象庁観測点

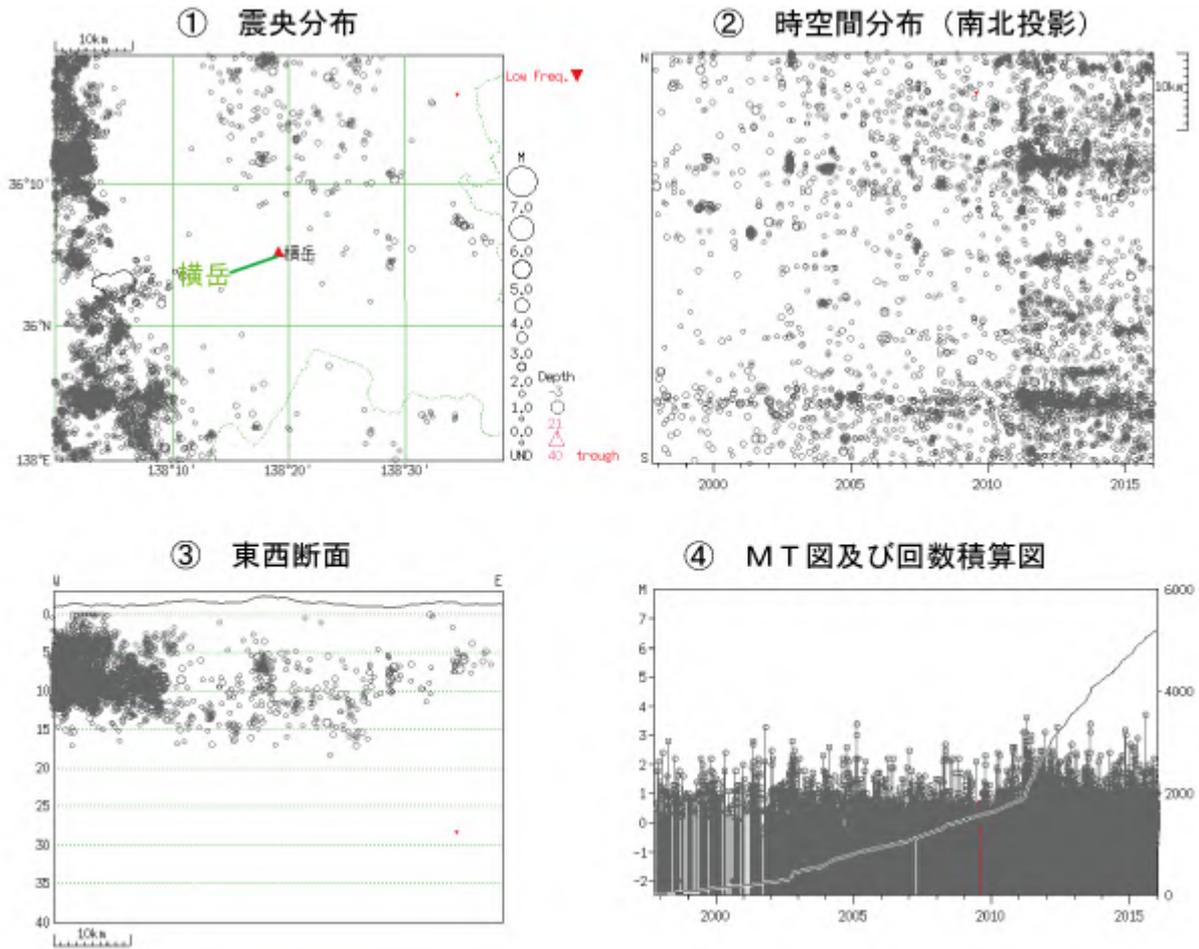
この図の作成にあたっては、国土地理院発行の数値地図 25000 を使用した。



第 2 図 横岳

一元化震源によるマグニチュード別度数分布図  
(第 3 図①震央分布図の範囲内)

この資料は気象庁のほか、東京大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成。



第 3 図 横岳 一元化震源による周辺の地震活動 (1997 年 10 月 1 日～2015 年 12 月 31 日)  
 注) 2002 年 10 月以降、Hi-net 追加により検知力向上  
 赤は低周波地震を示す。  
 この図の作成にあたっては、国土地理院発行の数値地図 25000 を使用した。

# アカンダナ山

(2015 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。  
 噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

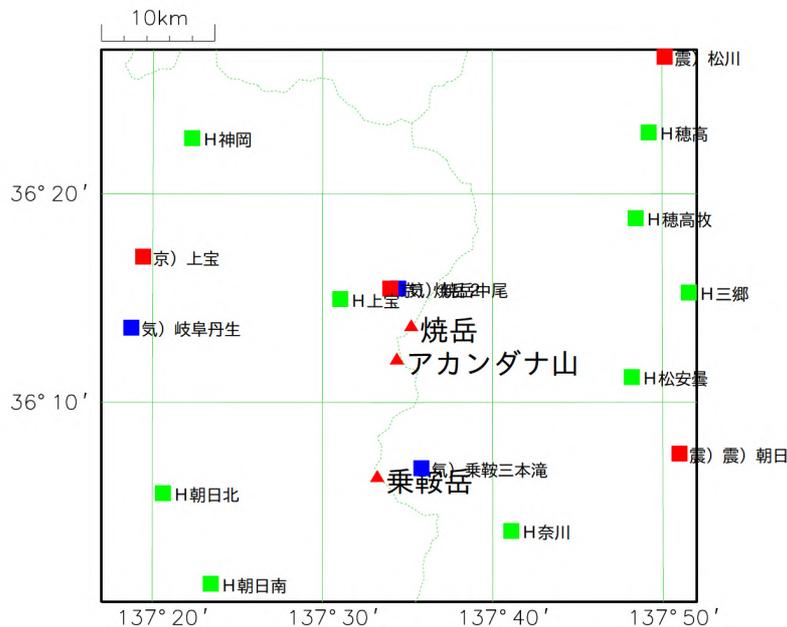
## ○ 概況（2015 年 2 月～2015 年 12 月 31 日）

### ・ 地震活動（第 3 図）

山体付近に発生する地震は少ない。周辺の地震活動は東北地方太平洋沖地震（2011 年 3 月 11 日）以降活発化したが、次第に低下している。

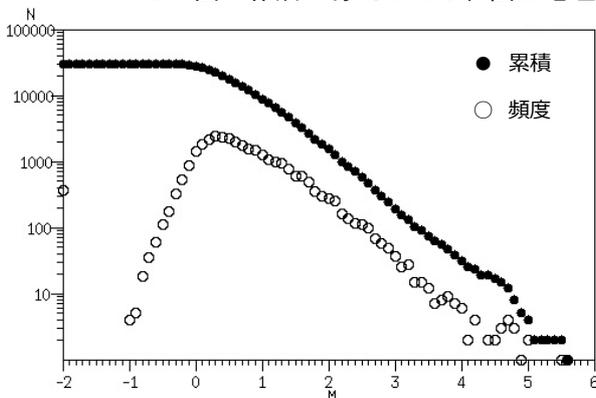
### ・ 噴気等の状況

噴気はなく、異常等に関する通報もない。



第 1 図 アカンダナ山 周辺の地震観測点

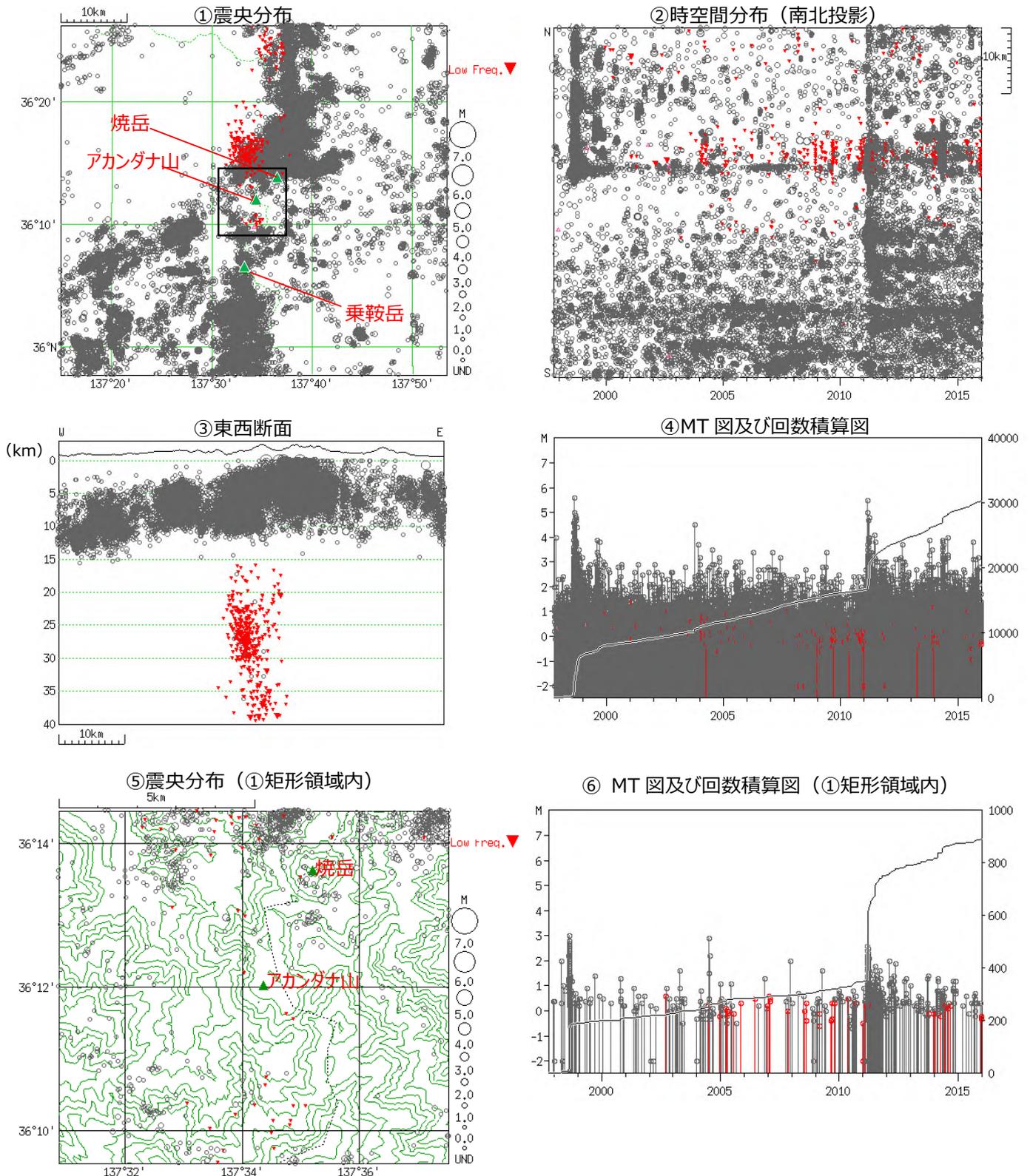
■(京)：京大観測点 ■(震)：東大震研観測点 ■(H)：防災科研観測点 ■(気)：気象庁観測点  
 この図の作成にあたっては、国土地理院発行の数値地図 25000 を使用した。



第 2 図 アカンダナ山

一元化震源によるマグニチュード別度数分布図  
 (第 3 図①震央分布図の範囲内)

この資料は気象庁のほか、東京大学、名古屋大学、京都大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成。



第 3 図 アカランダナ山 一元化震源による周辺の地震活動 (1997 年 10 月 1 日～2015 年 12 月 31 日)

注) 2002 年 10 月以降、Hi-net 追加により検知力向上

赤は低周波地震を示す。

この図の作成にあたっては、国土地理院発行の数値地図 50mメッシュ (標高) を使用した。

# 利 島

(2015 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。  
 噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

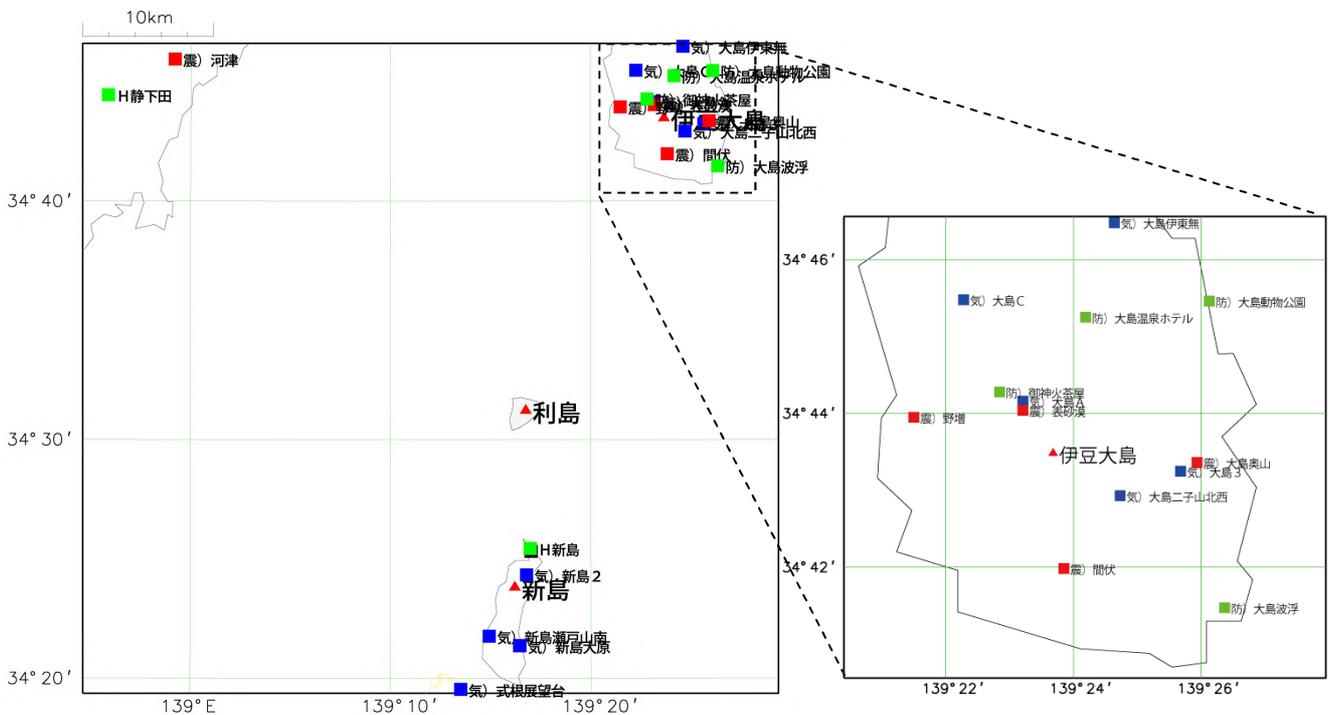
## ○ 概況（2015 年 2 月～2015 年 12 月 31 日）

### ・ 地震活動（第 3 図）

島内に発生する地震は少ない。周辺の地震活動は東北地方太平洋沖地震（2011 年 3 月 11 日）以降やや活発化した、その後すぐに低下した。

### ・ 噴気等の状況

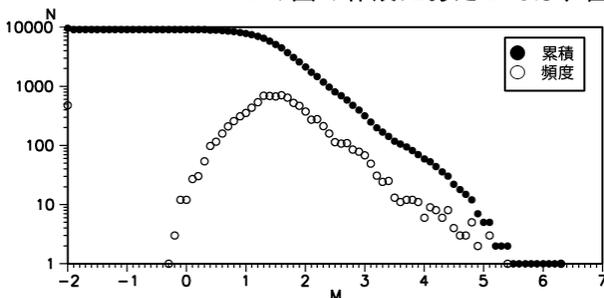
噴気はなく、異常等に関する通報もない。



第 1 図 利島 周辺の地震観測点

■(震)：東大震研観測点    ■(H)：防災科研観測点    ■(気)：気象庁観測点

この図の作成にあたっては、国土地理院発行の数値地図 25000 を使用した。

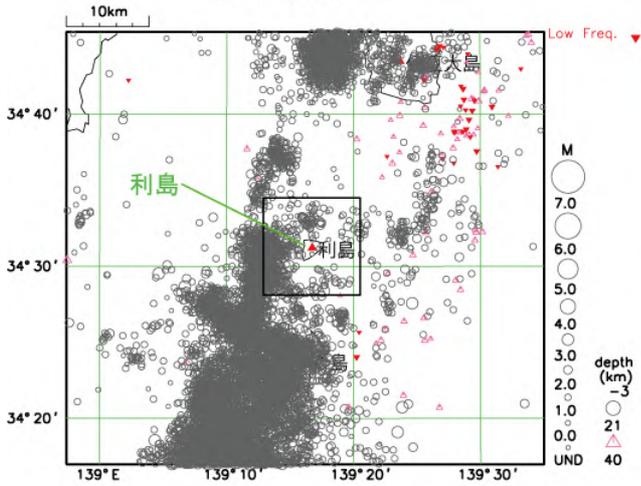


第 2 図 利島

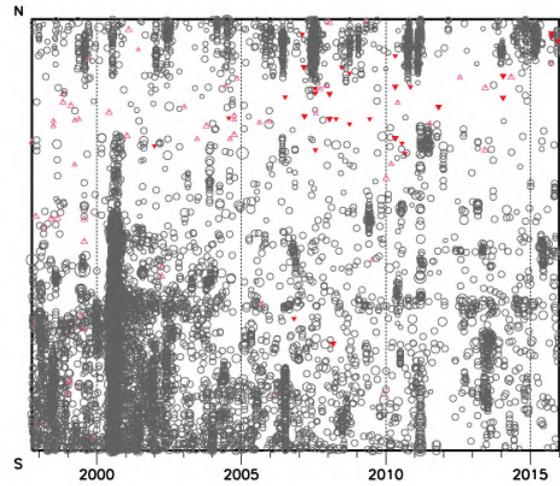
一元化震源によるマグニチュード別度数分布図  
(第 3 図①震央分布図の範囲内)

この資料は気象庁のほか、東京大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成。

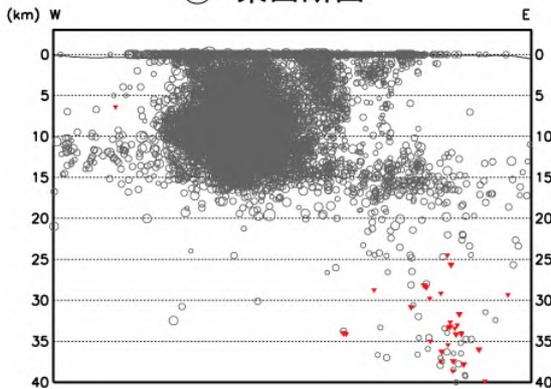
① 震央分布



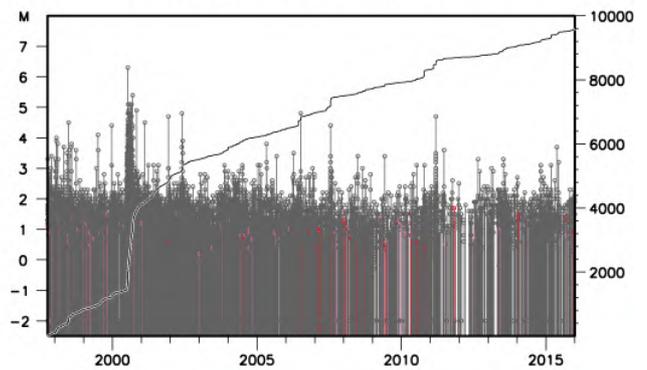
② 時空間分布 (南北投影)



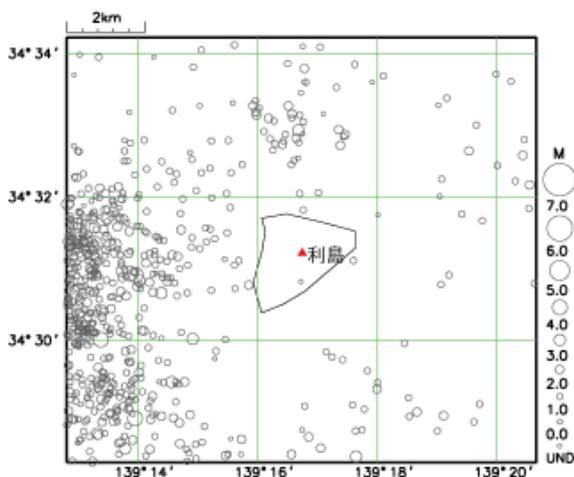
③ 東西断面



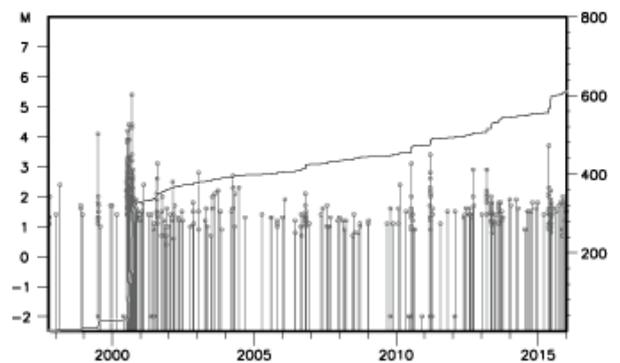
④ MT図及び回数積算図



⑤ 震央分布 (①矩形領域内)



⑥ MT図及び回数積算図 (①矩形領域内)



第 3 図 利島 一元化震源による周辺の地震活動 (1997 年 10 月 1 日~2015 年 12 月 31 日)

注) 2002 年 10 月以降、Hi-net 追加により検知力向上

赤は低周波地震を示す。

この図の作成にあたっては、国土地理院発行の数値地図 50mメッシュ (標高) を使用した。

# 御 蔵 島

(2015 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

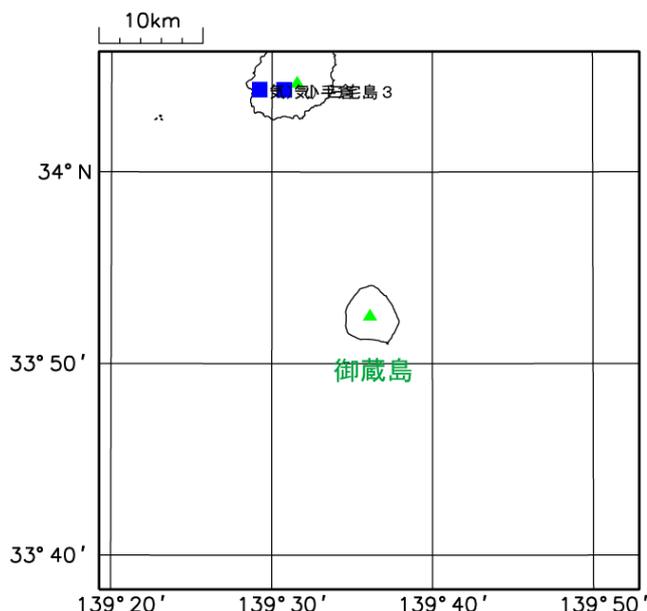
## ○ 概況（2015 年 2 月～2015 年 12 月 31 日）

### ・ 地震活動（第 3 図）

付近に発生する地震は少なく、周辺の地震活動にも特に変化は認められていない。

### ・ 噴気等の状況

噴気はなく、異常等に関する通報もない。

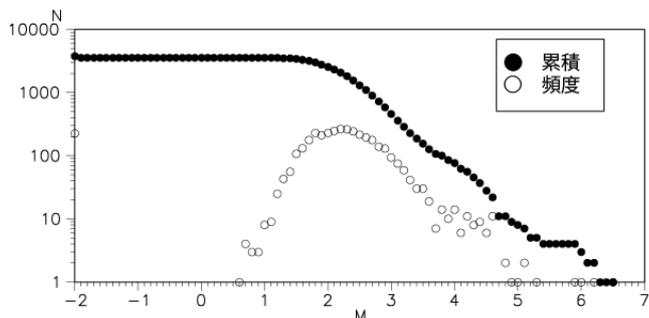


第 1 図 御蔵島 周辺の地震観測点

■ H) : 防災科研観測点    ■ 気) : 気象庁観測点

・ 三宅島 3 (気象庁) は 2011 年 11 月で観測終了

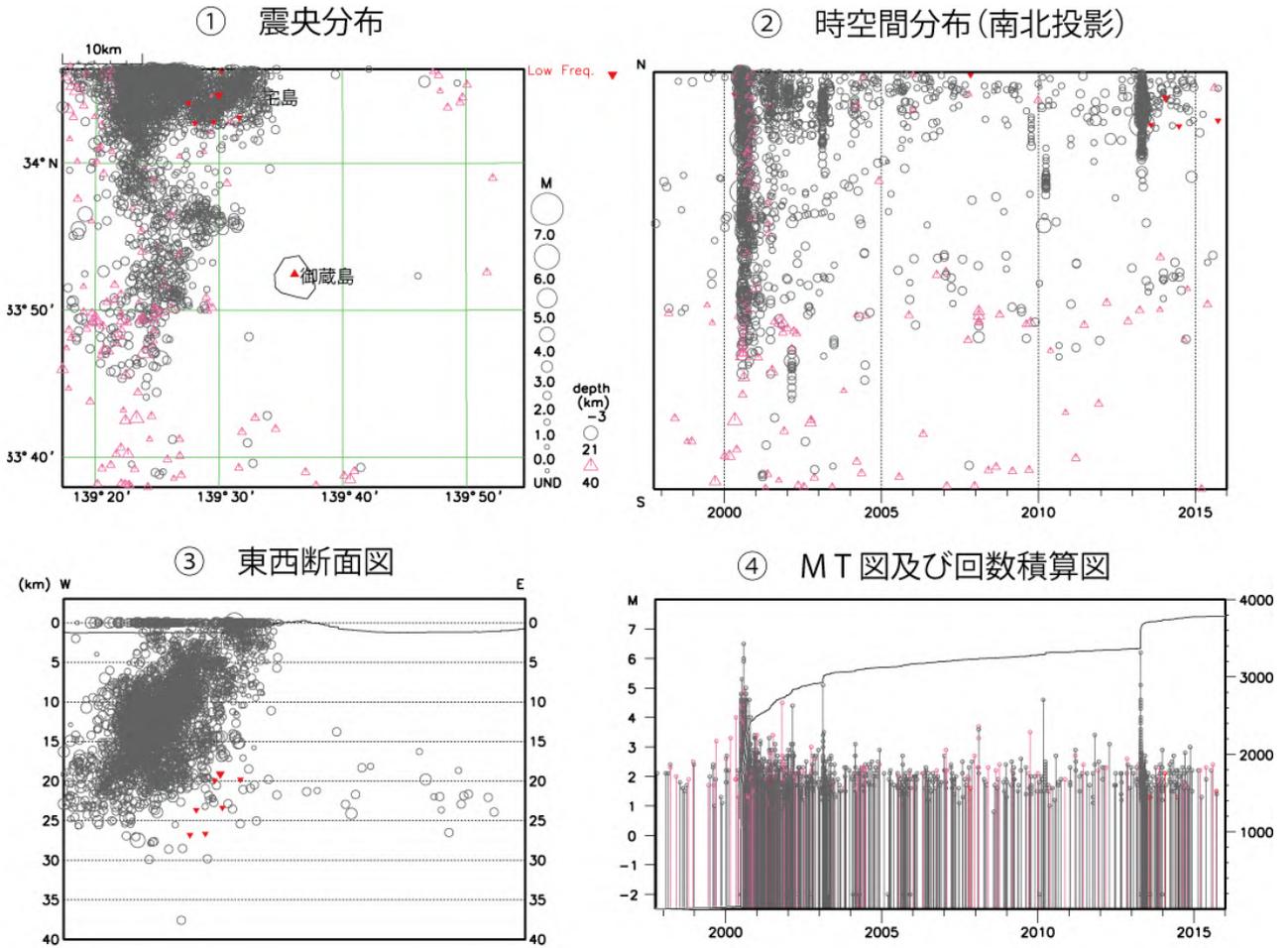
この図の作成にあたっては、国土地理院発行の数値地図 25000 を使用した。



第 2 図 御蔵島

一元化震源によるマグニチュード別度数分布図  
(第 3 図①震央分布図の範囲内)

この資料は気象庁のほか、国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成。



第 3 図 御蔵島 一元化震源による周辺の地震活動 (1997 年 10 月 1 日～2015 年 12 月 31 日)

注) 2002 年 10 月以降、Hi-net 追加により検知力向上

赤は低周波地震を示す。

この図の作成にあたっては、国土地理院発行の数値地図 25000 を使用した。

## ベヨネース列岩

(2015 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められない。  
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

### ○ 概況（2015 年 2 月～12 月 31 日）

今期間、特段の異常報告等はない。

周辺海域に影響を及ぼすような噴火の兆候は認められない。

## 須美寿島

(2015 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められない。  
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

### ○ 概況（2015 年 2 月～12 月 31 日）

海上保安庁の 2015 年 5 月 3 日の観測では、では、崩落の影響と思われる変色水域以外の火山性の特異事象は認められなかった。

同庁の 2015 年 10 月 13 日の観測では、須美寿島から北東方向に幅約 100m、長さ約 300m の帯状に分布する青白色の変色水域と、須美寿島から南東方向に幅約 100m、長さ約 500m の帯状に分布する青白色の変色水域が認められた。

その他、異常報告等はないことから、周辺海域に影響を及ぼすような噴火の兆候は認められない。



第 1 図 須美寿島の変色水域（2015 年 10 月 13 日 東方向より撮影・海上保安庁提供）

- ・須美寿島から北東方向に幅約 100m、長さ約 300m の帯状に分布する青白色の変色水域と、須美寿島から南東方向に幅約 100m、長さ約 500m の帯状に分布する青白色の変色水域が認められた。

## 伊豆鳥島

(2015 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められない。  
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

## ○ 概況（2015 年 2 月～12 月 31 日）

海上保安庁の 2015 年 10 月 13 日の観測では、硫黄山火口及び付近からの噴気・噴煙は確認されなかった。また、伊豆鳥島北岸の船見岬から東岸の涙ヶ浜の海岸線に沿って幅約 100～250m の青白色の変色水域が分布していた。

その他、異常報告等はないことから、火口周辺に影響を及ぼすような噴火の兆候は認められない。



第 1 図 硫黄山火口付近（2015 年 10 月 13 日  
東方向より撮影・海上保安庁提供）

- ・硫黄山火口及び付近からの噴気・噴煙は確認されなかった。



第 2 図 伊豆鳥島の変色水域（2015 年  
10 月 13 日 東方向より撮影・海上保安  
庁提供）

- ・伊豆鳥島北岸の船見岬から東岸の涙ヶ浜の海岸線に沿って幅約 100～250 m の青白色の変色水域が分布していた。

## 嬬 婦 岩

(2015 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められない。  
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

### ○ 概況（2015 年 2 月～12 月 31 日）

海上保安庁の 2015 年 10 月 13 日の観測では、変色水域等の特異事象は認められなかった。

その他、異常報告等はないことから、周辺海域に影響を及ぼすような噴火の兆候は認められない。

## 海 徳 海 山

(2015 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められない。  
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

### ○ 概況（2015 年 2 月～12 月 31 日）

海上自衛隊の 2015 年 3 月 3 日、並びに海上保安庁の 2015 年 8 月 17 日の観測では、変色水域等の特異事象は認められなかった。

その他、異常報告等はないことから、周辺海域に影響を及ぼすような噴火の兆候は認められない。

## 噴火浅根

(2015 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められない。  
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

### ○ 概況（2015 年 2 月～12 月 31 日）

海上保安庁の 2015 年 8 月 17 日の観測では、変色水域等の特異事象は認められなかった。

その他、異常報告等はないことから、周辺海域に影響を及ぼすような噴火の兆候は認められない。

## 北 福 徳 堆

(2015 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められない。  
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

### ○ 概況（2015 年 2 月～12 月 31 日）

海上保安庁の 2015 年 8 月 17 日の観測では、変色水域等の特異事象は認められなかった。

その他、異常報告等はないことから、周辺海域に影響を及ぼすような噴火の兆候は認められない。

## 海 形 海 山

(2015 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められない。  
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

### ○ 概況（2015 年 2 月～12 月 31 日）

海上保安庁の 2015 年 8 月 17 日の観測では、変色水域等の特異事象は認められなかった。

その他、異常報告等はないことから、周辺海域に影響を及ぼすような噴火の兆候は認められない。

## 南日吉海山

(2015 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められない。  
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

### ○ 概況（2015 年 2 月～12 月 31 日）

海上保安庁の 2015 年 8 月 17 日の観測では、変色水域等の特異事象は認められなかった。

その他、異常報告等はないことから、周辺海域に影響を及ぼすような噴火の兆候は認められない。

## 日光海山

(2015 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められない。  
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

### ○ 概況（2015 年 2 月～12 月 31 日）

海上保安庁の 2015 年 8 月 17 日の観測では、変色水域等の特異事象は認められなかった。

その他、異常報告等はないことから、周辺海域に影響を及ぼすような噴火の兆候は認められない。

# 三 瓶 山

(2015 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。  
 噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

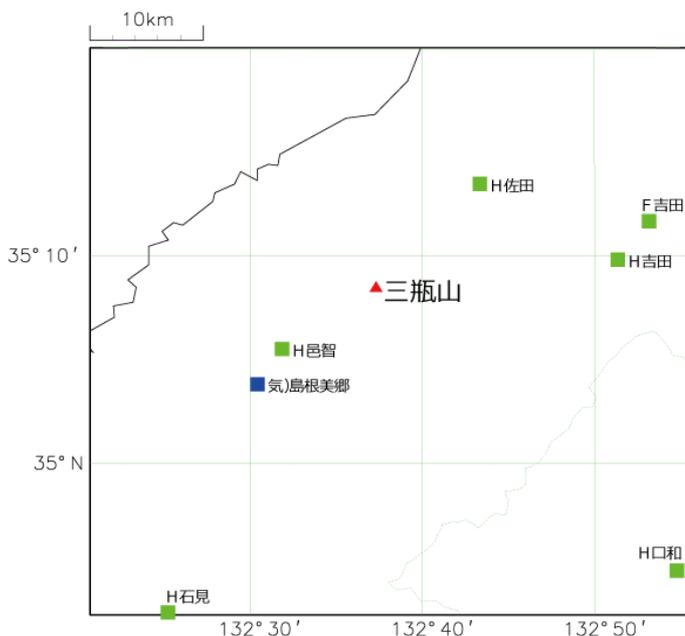
## ○ 概況（2015 年 2 月～2015 年 12 月 31 日）

### ・ 地震活動（第 3 図）

山体付近に発生する地震は少なく、周辺の地震活動にも特に変化はない。

### ・ 噴気等の状況

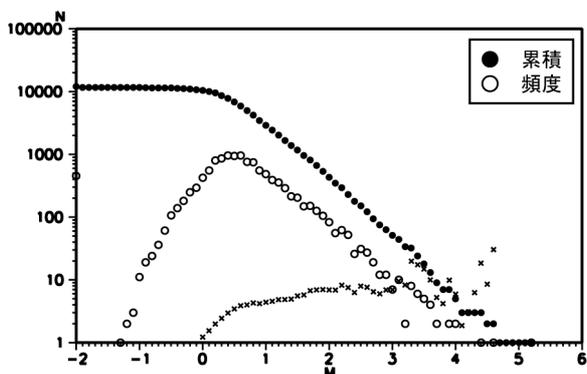
山頂部の室の内火口には鳥地獄と呼ばれる噴気孔があるが、噴気異常等に関する通報はない。



第 1 図 三瓶山 周辺の地震観測点

■ H) : 防災科観測点    ■ 気) : 気象庁観測点

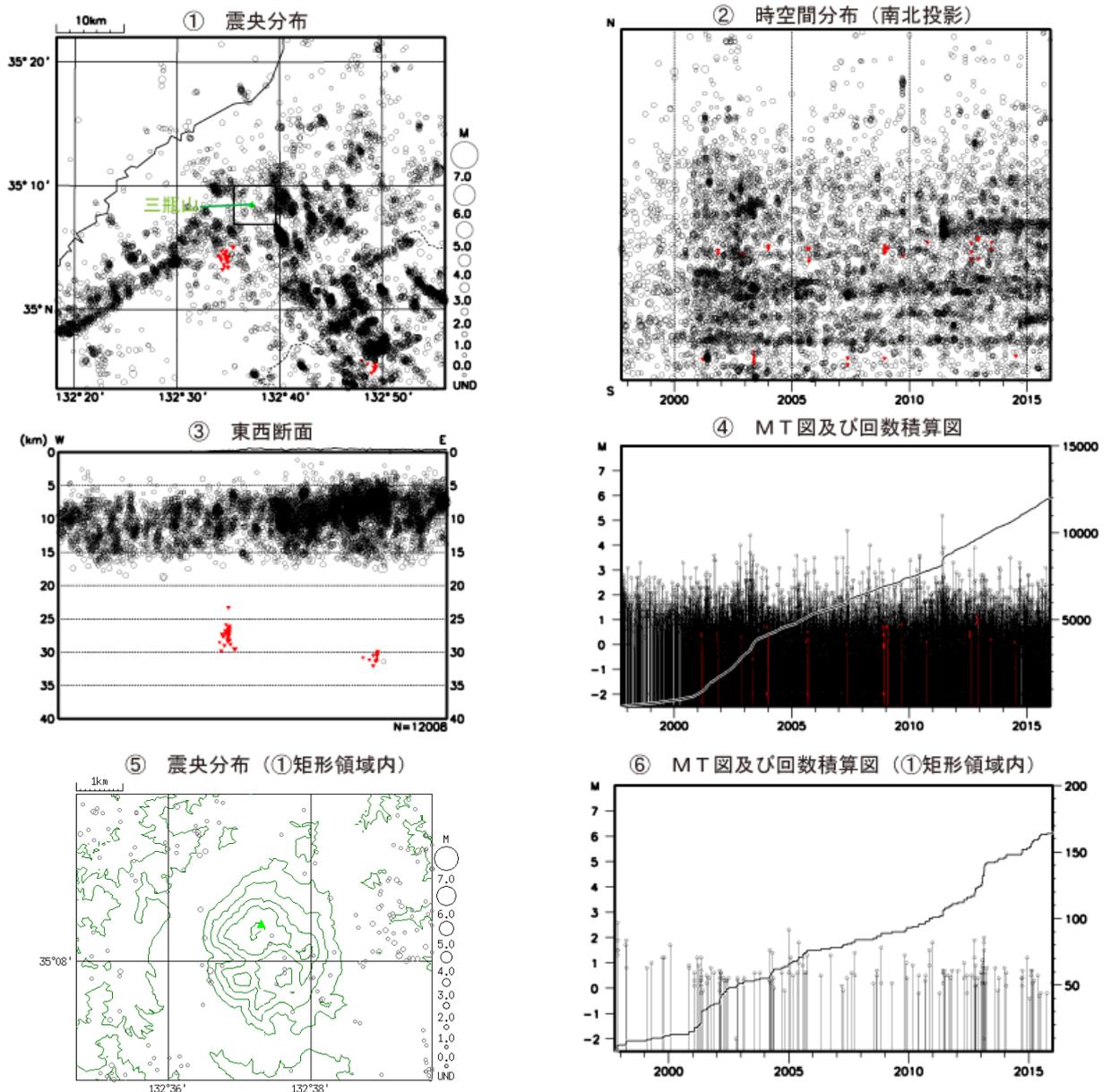
この図の作成にあたっては、国土地理院発行の数値地図 25000 を使用した。



第 2 図 三瓶山

一元化震源によるマグニチュード別度数分布図  
 (第 3 図①震央分布図の範囲内)

X この資料は気象庁のほか、国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成。



第 3 図 三瓶山 周辺の地震活動 (2014 年 1 月 1 日～2015 年 12 月 31 日)

注) 2002 年 10 月以降、Hi-net 追加により検知力向上

- : 2014 年 1 月 1 日～2015 年 1 月 31 日
  - : 2015 年 2 月 1 日～2015 年 12 月 31 日
- 赤は低周波地震を示す。

この図の作成にあたっては、国土地理院発行の数値地図 50mメッシュ (標高) を使用した。

## 開 聞 岳 (2015 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は見られない。  
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

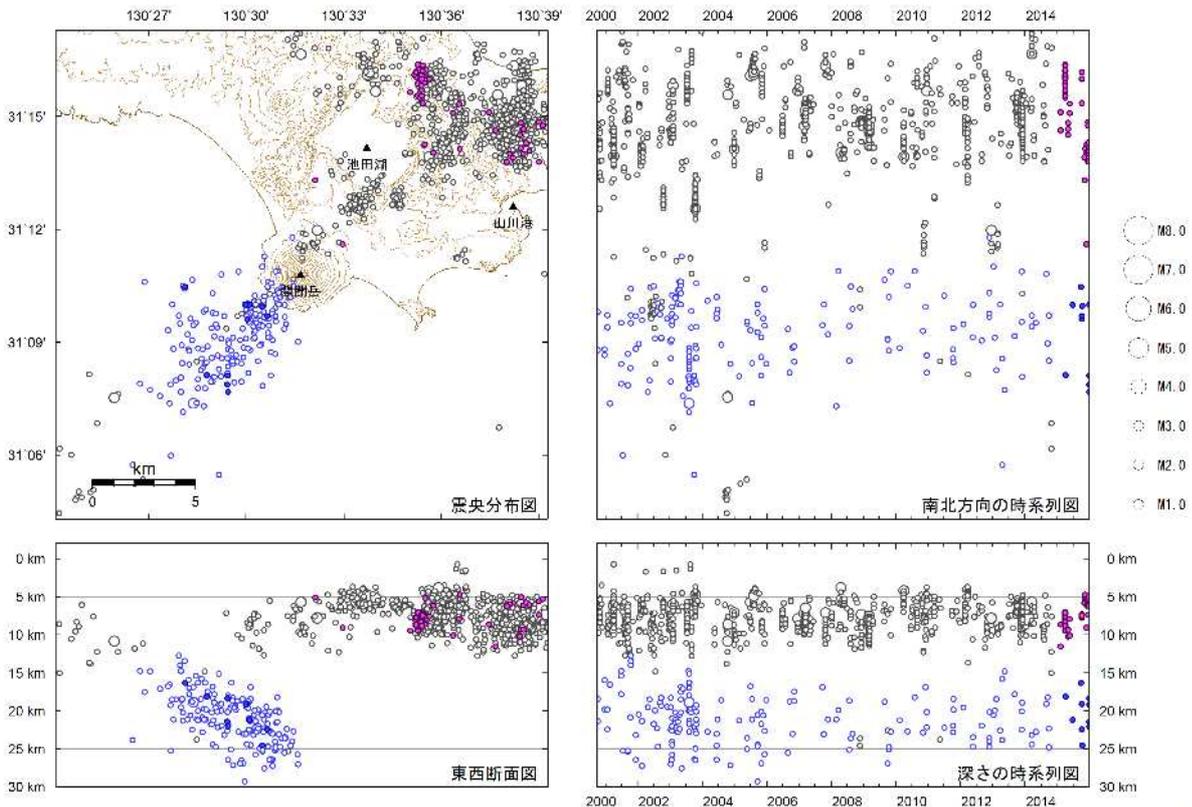
### 概況（2015 年 2 月～12 月 31 日）

- ・噴気等の状況（第 1 図）  
噴気活動は認められない。なお、噴気等の異常に関する通報はなかった。
- ・地震活動（第 2 図）  
山体で発生する地震は少なく、地震活動は静穏な状態で経過した。



第 1 図 開聞岳（2015 年 7 月 24 日撮影）

この資料は気象庁のほか、鹿児島大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成した。



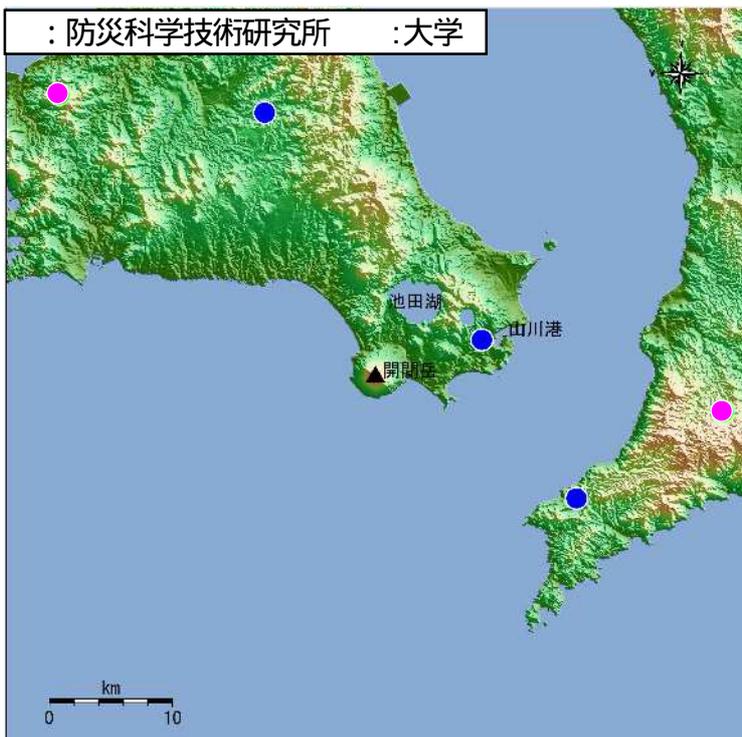
- : 2015年2月～12月の震源 (深部低周波地震)
- : 2000年10月～2015年1月の震源 (深部低周波地震)
- : 2015年2月～12月の震源
- : 2000年10月～2015年1月の震源

第 2 図 開聞岳 一元化震源による地震活動経過図 (2000年10月～2015年12月31日)

<2015年2月～2015年12月の状況>

山体で発生する地震は少なく、地震活動は静穏な状態で経過した。

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』を使用した。



第 3 図 開聞岳 周辺の地震観測点

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』を使用した。

## 中之島 (2015年12月31日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は見られない。噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

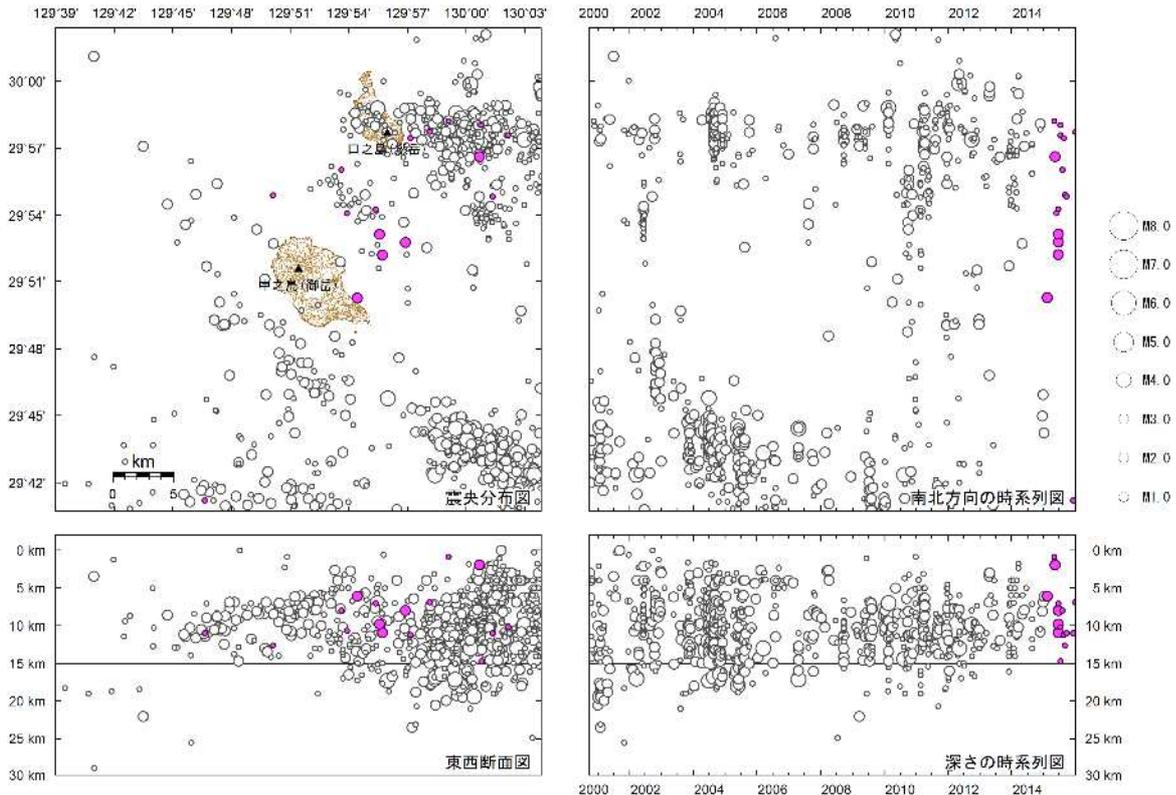
### 概況（2015年2月～12月31日）

- ・噴気等の状況（第1図）  
噴気等の異常に関する通報はなかった。
- ・地震活動（第2図）  
山体で発生する地震は少なく、地震活動は静穏な状態で経過した。



第1図 中之島（2015年1月28日 フェリーから撮影）

この資料は気象庁のほか、鹿児島大学のデータを利用して作成した。



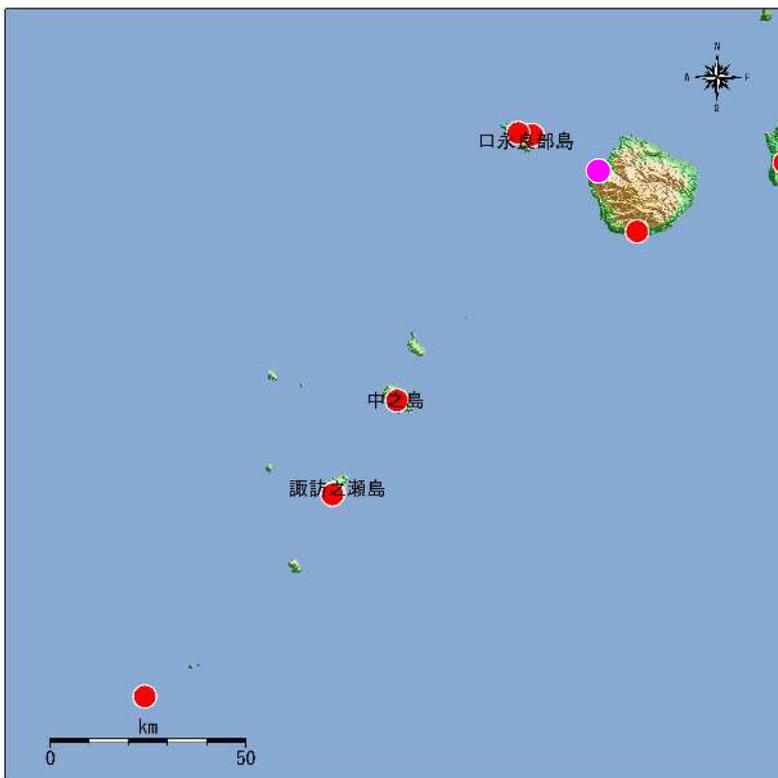
- : 2015 年 2 月 ~ 12 月の震源
- : 2000 年 10 月 ~ 2015 年 1 月の震源

第 2 図 中之島 一元化震源による地震活動経過図 (2000 年 10 月 ~ 2015 年 12 月 31 日)

<2015 年 2 月 ~ 12 月の状況>

山体で発生する地震は少なく、地震活動は静穏な状態で経過した。

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ (標高)』を使用した。



第 3 図 中之島 周辺の地震観測点

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ (標高)』を使用した。

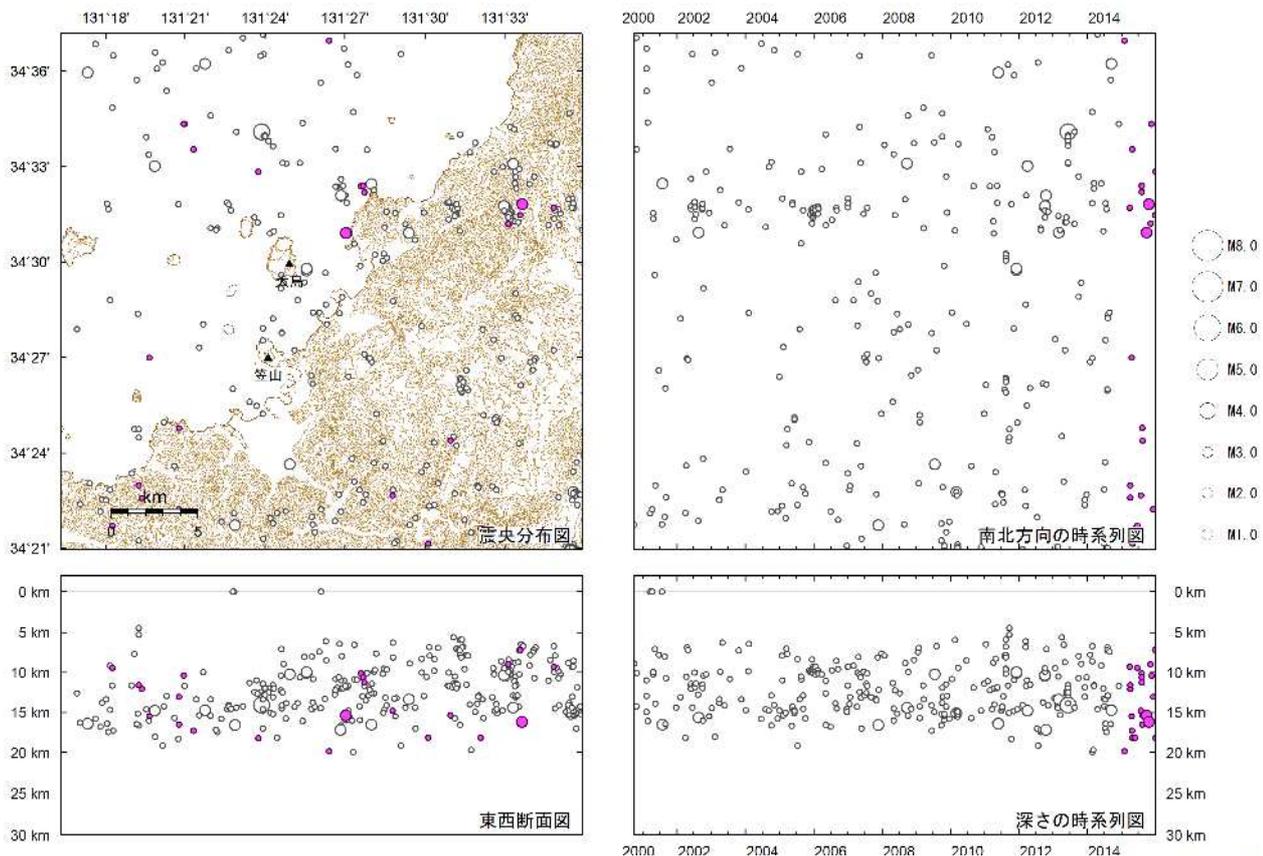
: 気象庁 : 大学

# 阿武火山群 (2015年12月31日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は見られない。  
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

## 概況 (2015年2月～12月31日)

- ・地震活動 (第1図)  
山体で発生する地震は少なく、地震活動は静穏な状態で経過した。
- ・噴気等の状況  
噴気等の異常に関する通報はなかった。



● : 2015年2月～12月の震源  
○ : 2000年10月～2015年1月の震源

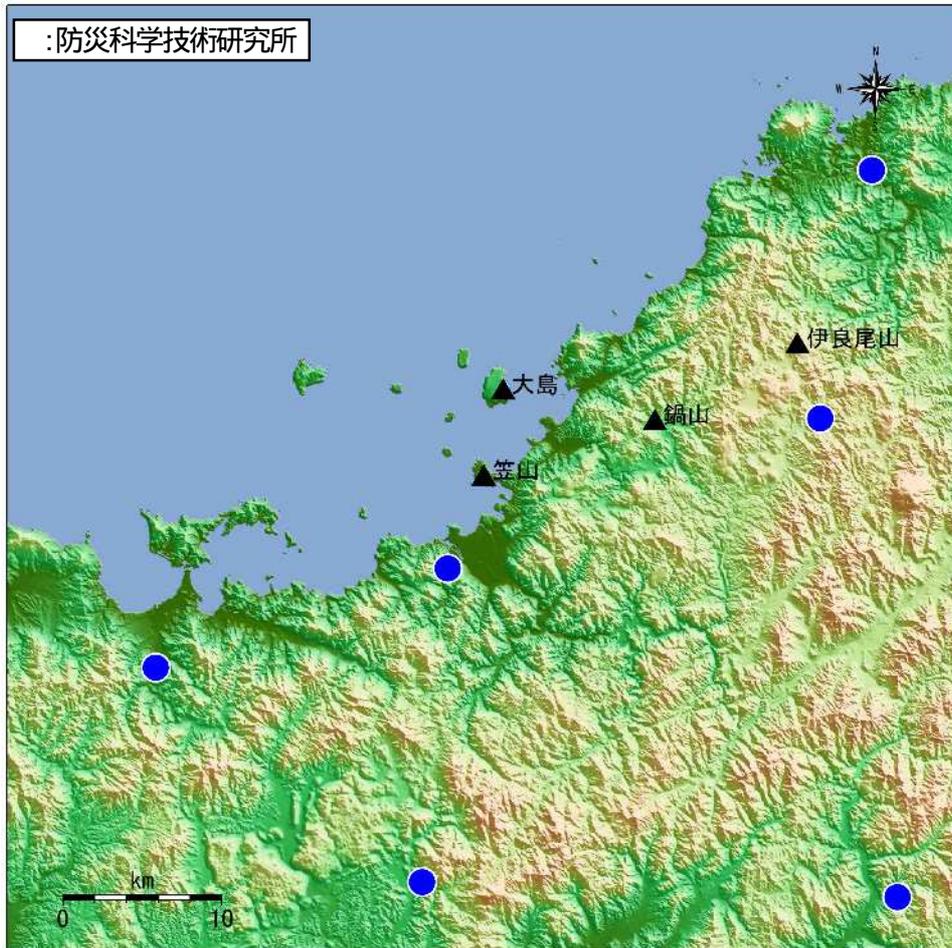
第1図 阿武火山群 一元化震源による地震活動経過図 (2000年10月～2015年12月31日)

<2015年2月～12月31日の状況>

山体で発生する地震は少なく、地震活動は静穏な状態で経過した。

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』を使用した。

この資料は気象庁のほか、国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成した。



第 2 図 阿武火山群 周辺の地震観測点

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ (標高)』を使用した。

## 由布岳 (2015年12月31日現在)

周辺の地震活動は活発だが、発生状況に特段の変化はない。その他の火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は見られない。噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

### 概況（2015年2月～12月31日）

#### ・地震活動（第2図）

周辺の地震活動は活発だが、山体付近の発生状況に特段の変化はなく経過した。

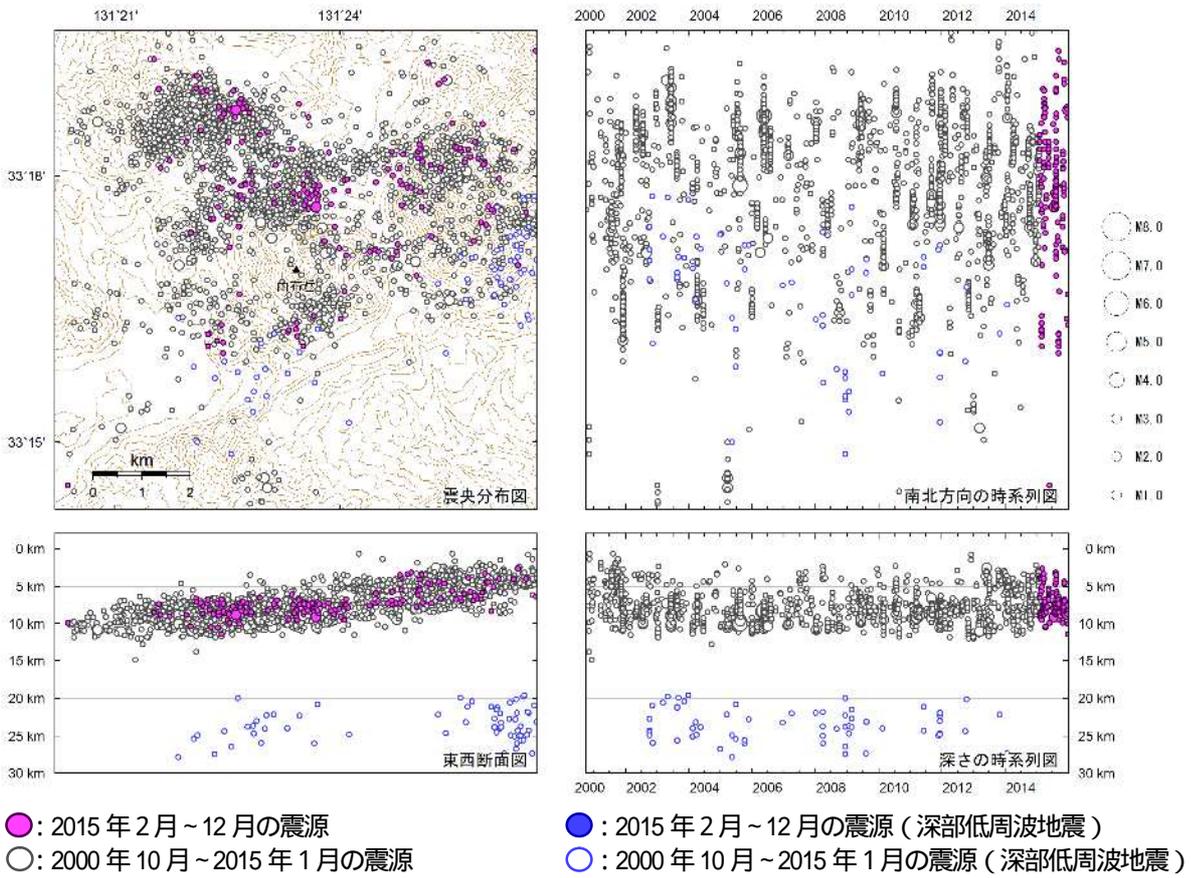
#### ・噴気等の状況（第1図、第4～9図）

3月5日～6日に実施した現地調査では、由布岳山頂付近及び山体周辺で熱異常域や噴気等は認められなかった。

噴気等の異常に関する通報はなかった。



第1図 由布岳（2015年3月5日）

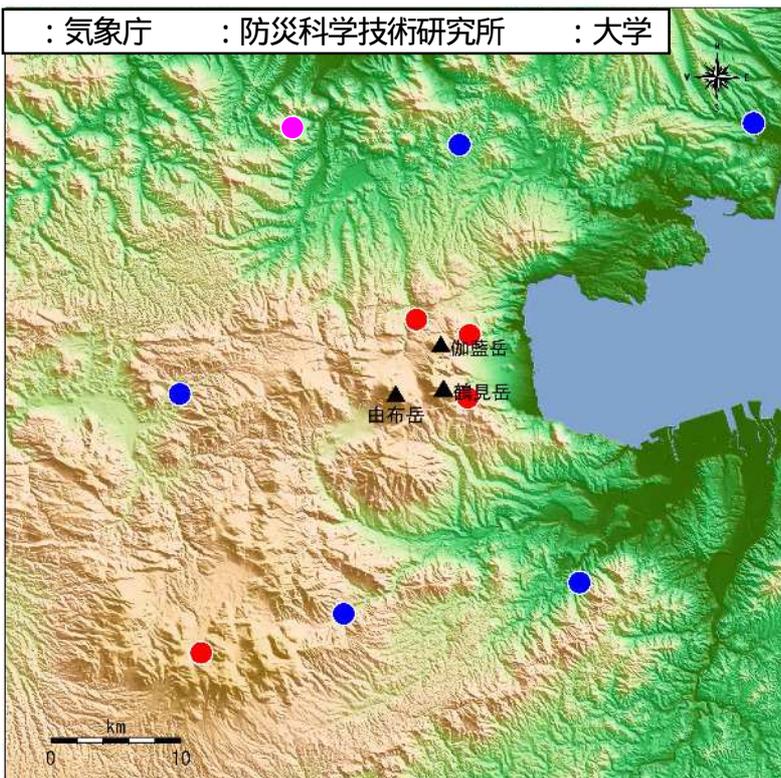


第 2 図 由布岳 一元化震源による地震活動経過図 (2000 年 10 月 ~ 2015 年 12 月 31 日)

< 2015 年 2 月 ~ 12 月の状況 >

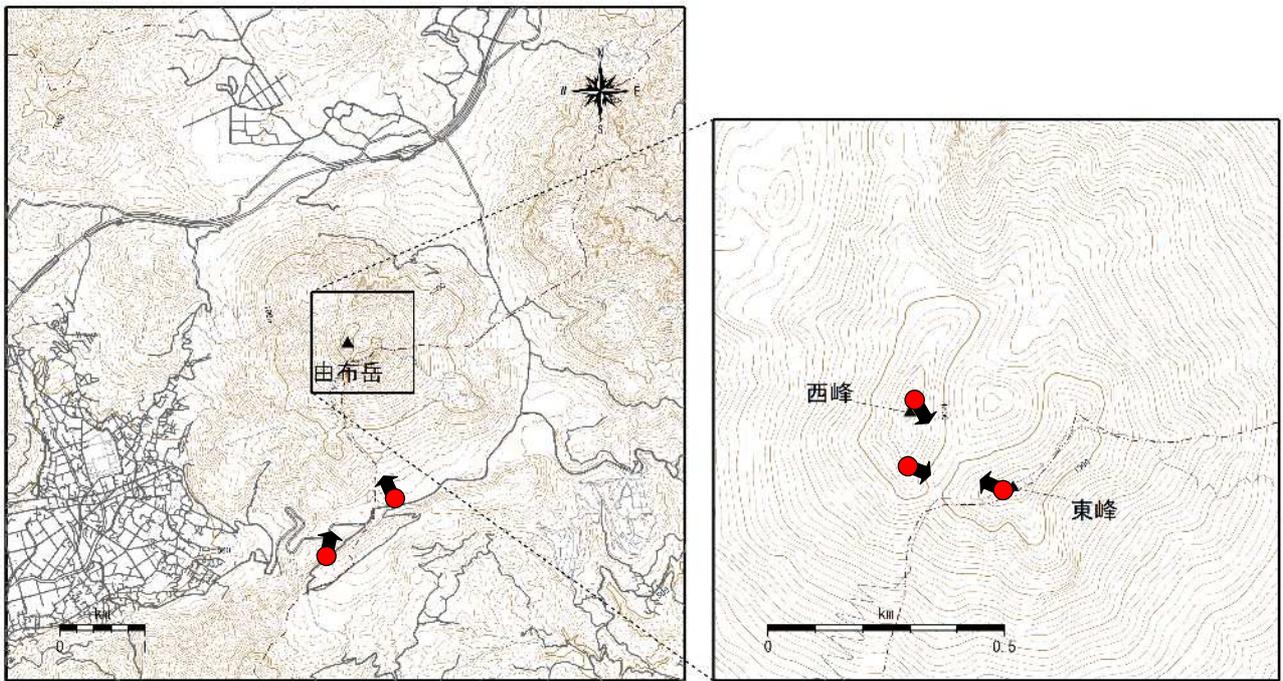
周辺の地震活動は活発であるが、山体付近の発生状況に特段の変化はなく経過した。

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ (標高)』を使用した。



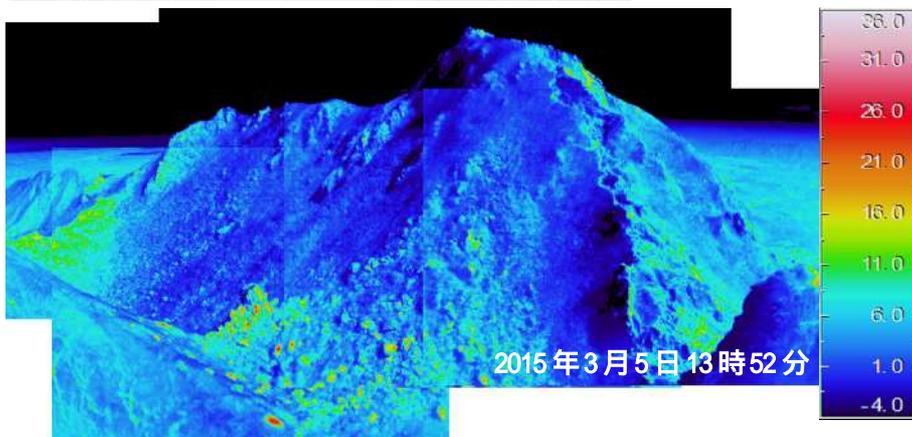
第 3 図 由布岳 周辺の地震観測点

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ (標高)』を使用した。



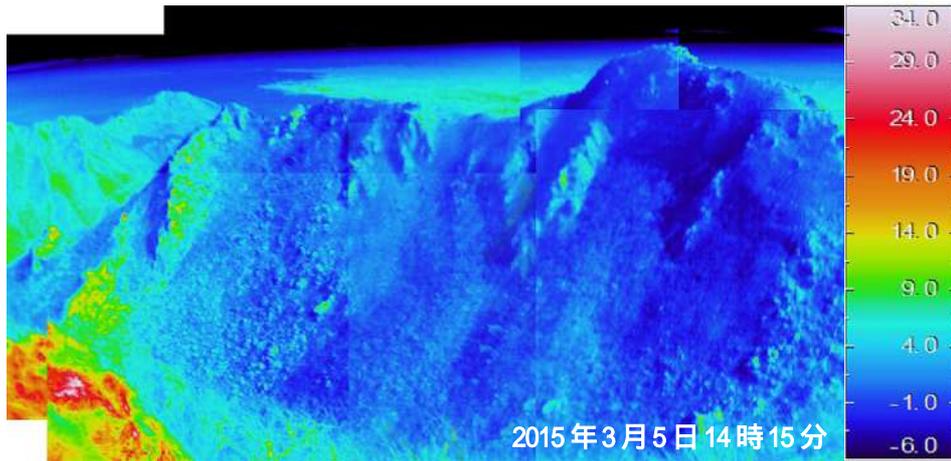
第 4 図 由布岳 目視・熱観測点の撮影位置

この地図の作成には、国土地理院発行の『基盤地図情報』『基盤地図情報(数値標高モデル)』を使用した。

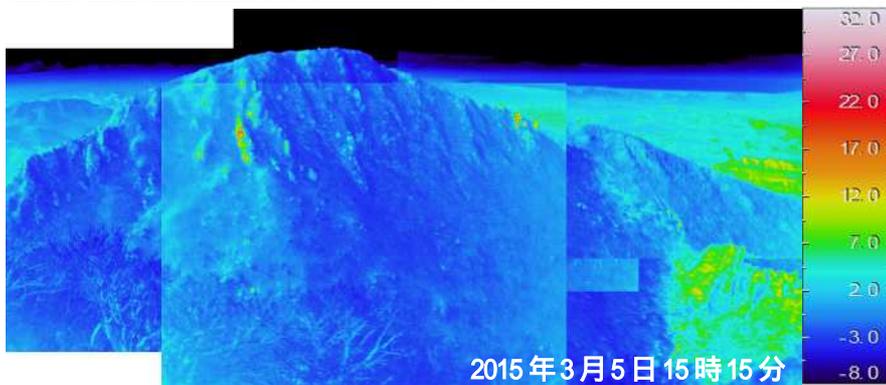


第 5 図 由布岳 東峰付近の状況 (第 4 図の から撮影)

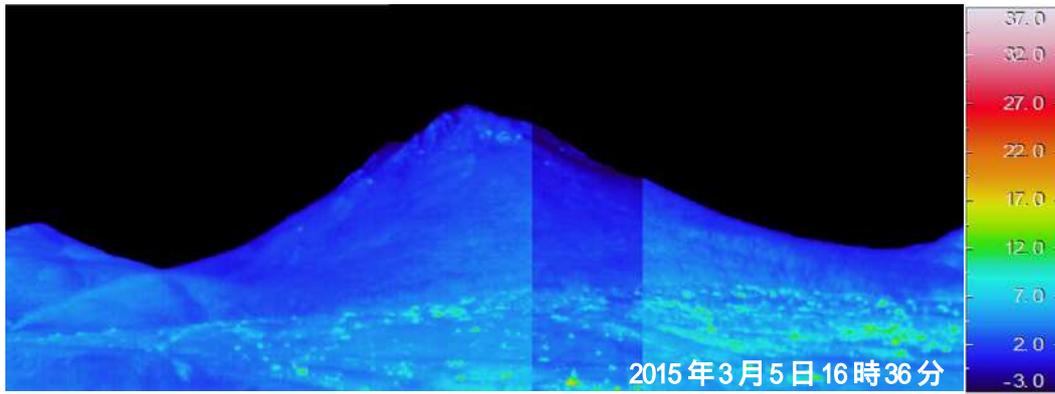
熱異常域や噴気などは認められない。



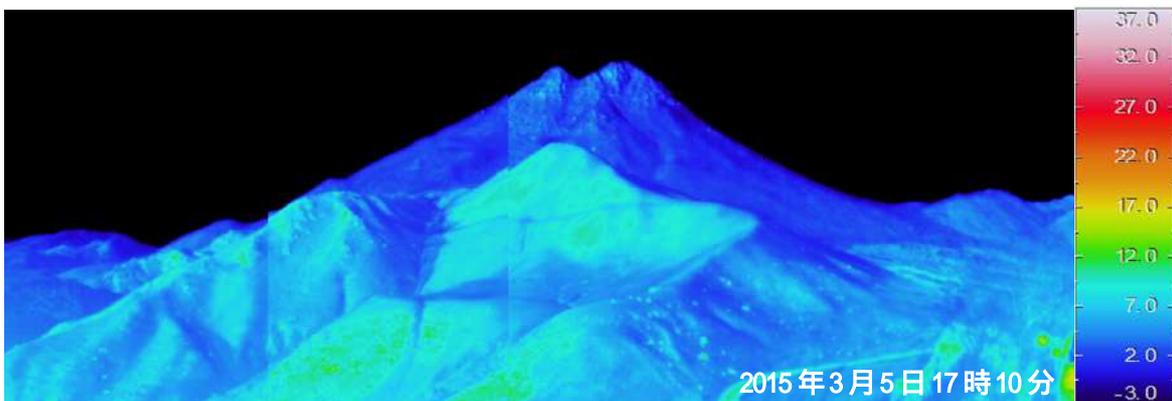
第6図 由布岳 東峰付近の状況(第4図の から撮影)  
熱異常域や噴気などは認められない。



第7図 由布岳 西峰付近の状況(第4図の から撮影)  
熱異常域や噴気などは認められない



第 8 図 由布岳 南側から見た由布岳の状況（第 4 図の から撮影）  
熱異常域や噴気などは認められない



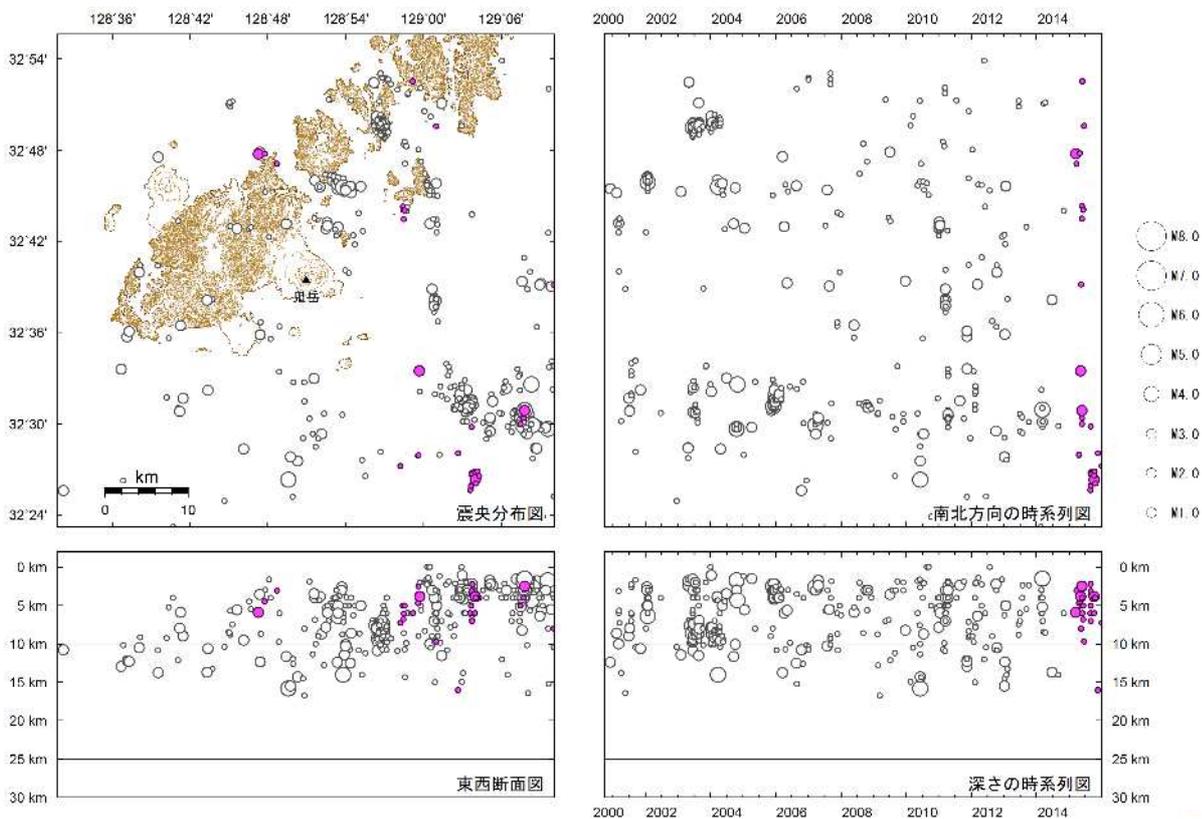
第 9 図 由布岳 南側から見た由布岳の状況（第 4 図の から撮影）  
熱異常域や噴気などは認められない

# 福江火山群 (2015年12月31日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は見られない。噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

## 概況 (2015年2月～12月31日)

- ・地震活動 (第1図)  
山体で発生する地震は少なく、地震活動は静穏な状態で経過した。
- ・噴気等の状況  
噴気等の異常に関する通報はなかった。



- : 2015年2月～12月の震源
- : 2000年10月～2015年1月の震源

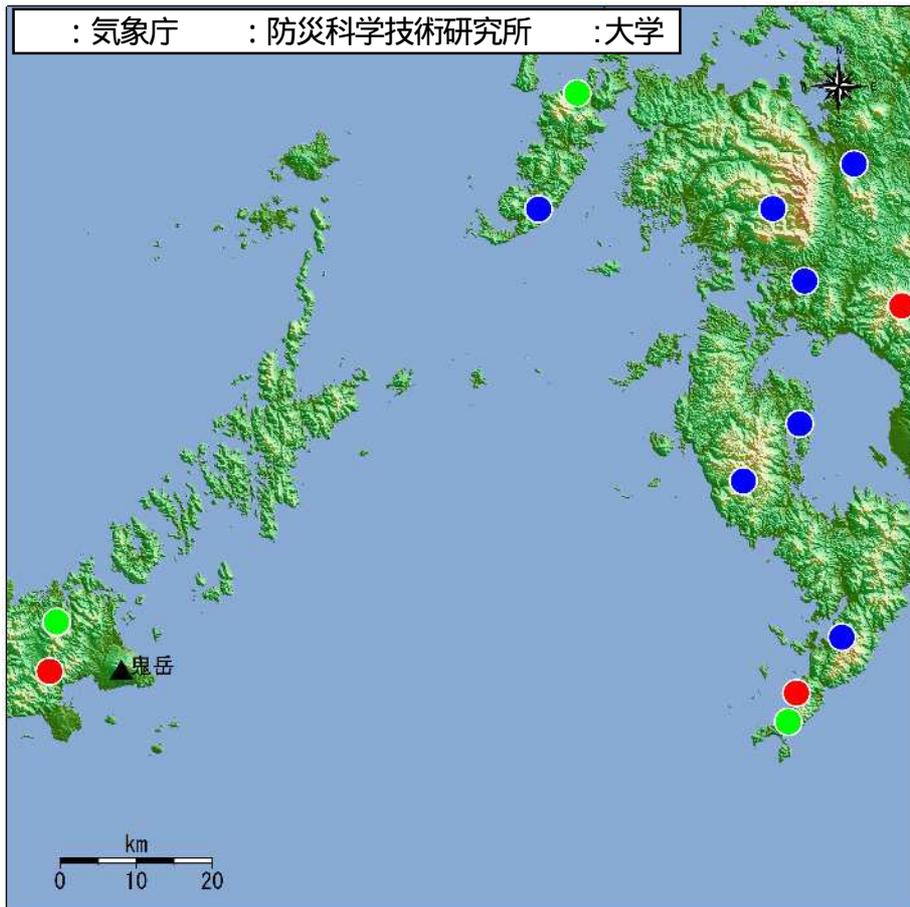
第1図 福江火山群 一元化震源による地震活動経過図 (2000年10月～2015年12月31日)

<2015年2月～12月の状況>

山体で発生する地震は少なく、地震活動は静穏な状態で経過した。

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』を使用した。

この資料は気象庁のほか、九州大学、独立行政法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成した。



第 2 図 福江火山群 周辺の地震観測点

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ (標高)』を使用した。

# 米丸・住吉池 (2015年12月31日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は見られない。噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

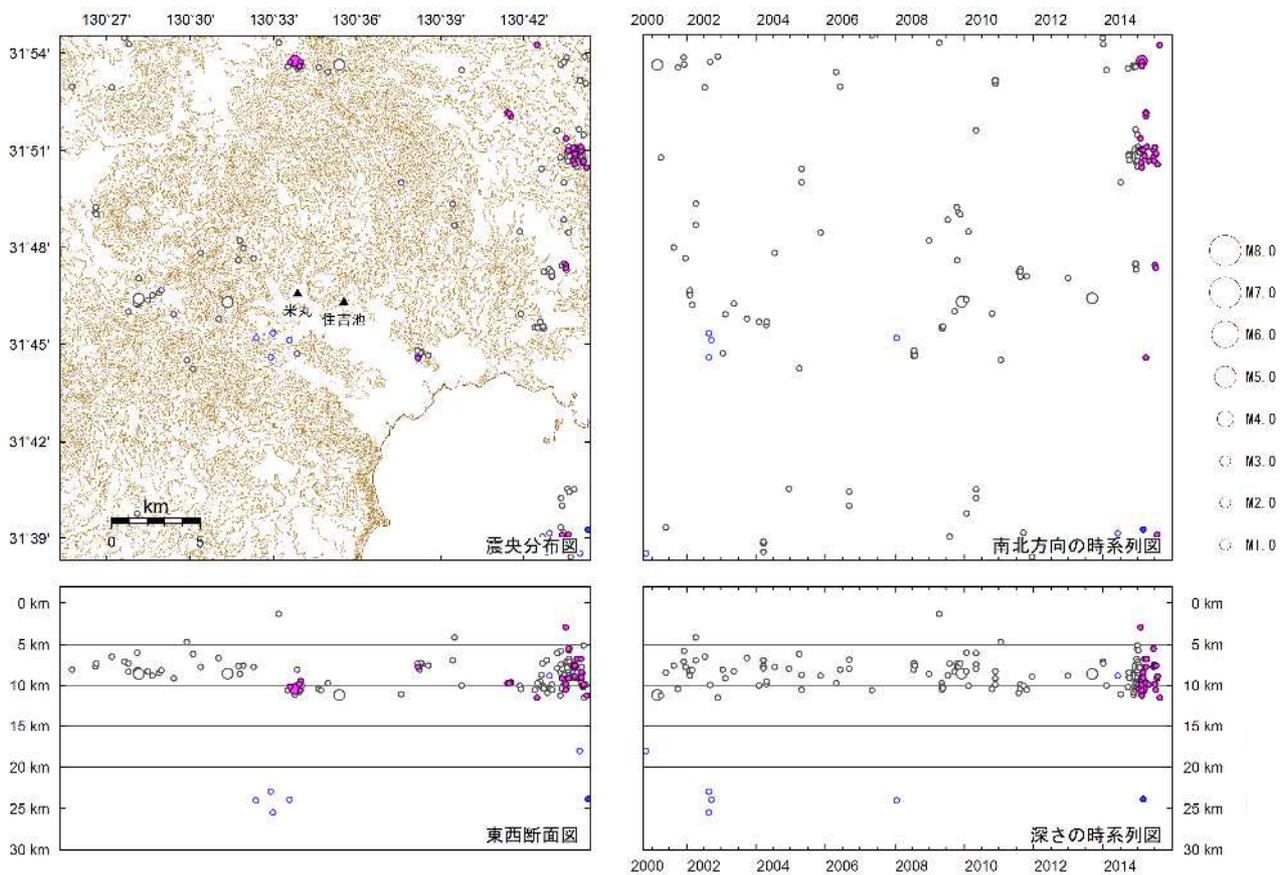
## 概況 (2015年2月～12月31日)

・地震活動 (第1図)

米丸・住吉池付近で発生する地震は観測されず、地震活動は静穏な状態で経過した。

・噴気等の状況

噴気等の異常に関する通報はなかった。



- : 2015年2月～12月の震源 (深部低周波地震)
- : 2000年10月～2015年1月の震源 (深部低周波地震)
- : 2015年2月～12月の震源
- : 2000年10月～2015年1月の震源

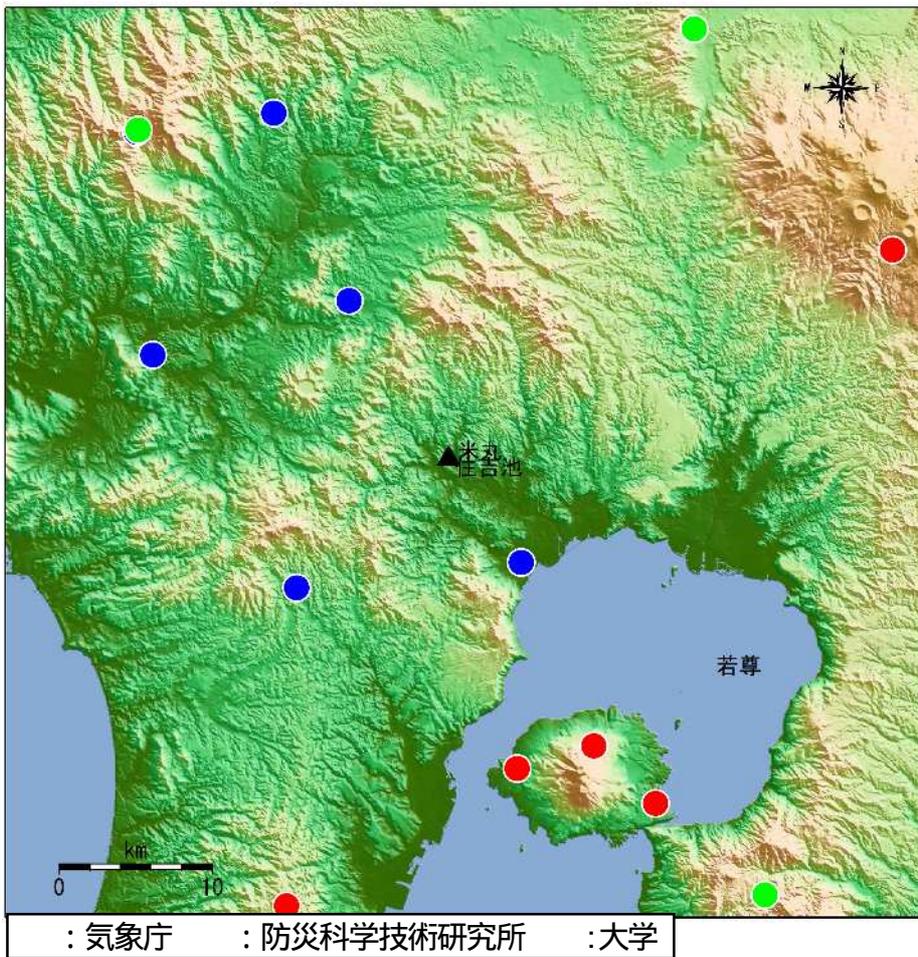
第1図 米丸・住吉池 一元化震源による地震活動経過図 (2000年10月～2015年12月31日)

<2015年2月～12月の状況>

米丸・住吉池付近で発生する地震はなく、地震活動は静穏な状態で経過した。

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』を使用した。

この資料は気象庁のほか、鹿児島大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成した。



第 2 図 米丸・住吉池 周辺の地震観測点

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ (標高)』を使用した。

# 若 尊 (2015 年 12 月 31 日現在)

周辺領域で時々地震はあるものの、発生状況に特段の変化はない。その他の火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は見られない。噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

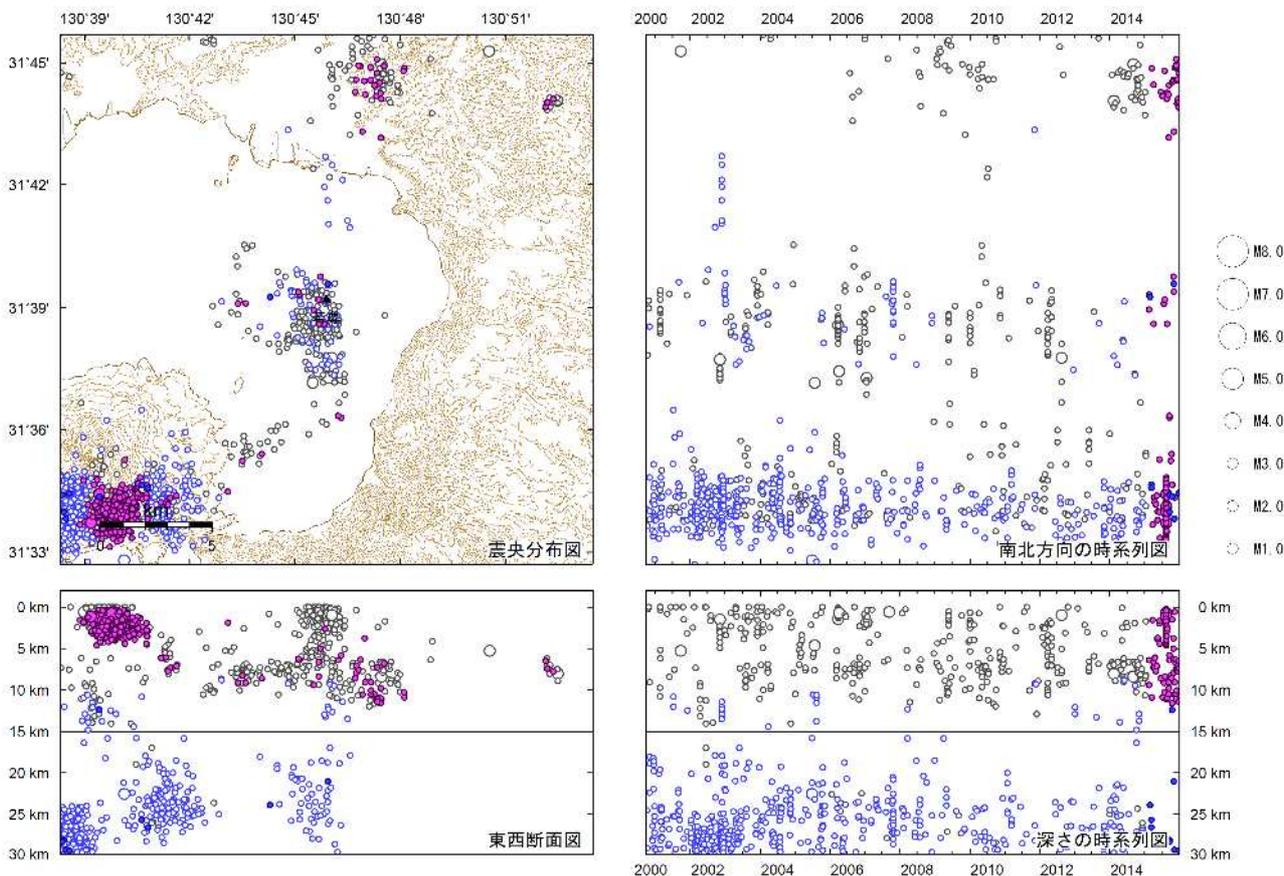
## 概況 (2015 年 2 月 ~ 12 月 31 日)

### ・地震活動 (第 1 図)

周辺領域で時々地震はあるものの、発生状況に特段の変化はなく経過した。

### ・噴気等の状況

海面に泡が湧出する現象（たぎり）について、異常に関する通報はなかった。



- : 2015 年 2 月 ~ 12 月の震源
- : 2000 年 10 月 ~ 2015 年 1 月の震源
- (blue) : 2015 年 2 月 ~ 12 月の震源 (深部低周波地震)
- (blue) : 2000 年 10 月 ~ 2015 年 1 月の震源 (深部低周波地震)

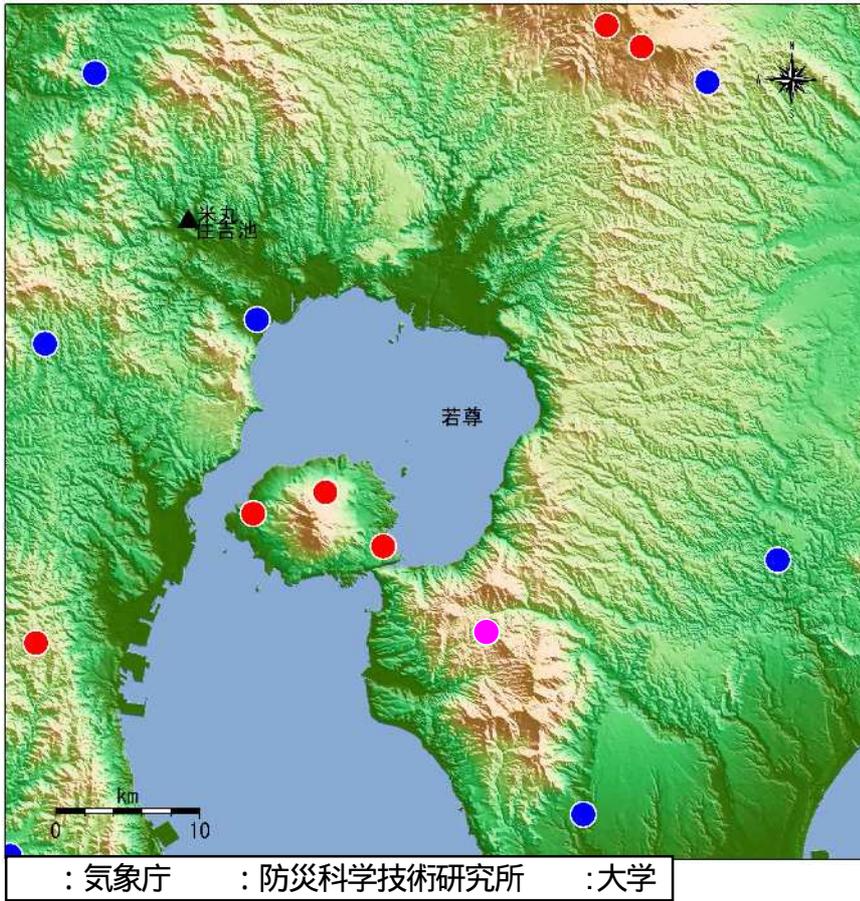
### 第 1 図 若尊 一元化震源による地震活動経過図 (2000 年 10 月 ~ 2015 年 12 月 31 日)

< 2015 年 2 月 ~ 12 月の状況 >

周辺領域で時々地震はあるものの、発生状況に特段の変化はなく経過した。

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ (標高)』を使用した。

この資料は気象庁のほか、鹿児島大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成した。



第 2 図 若尊 周辺の地震観測点

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ (標高)』を使用した。

## 池 田・山 川 (2015 年 12 月 31 日現在)

周辺領域で時々地震はあるものの、発生状況に特段の変化はない。その他の火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は見られない。噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

## 概況（2015 年 2 月～12 月 31 日）

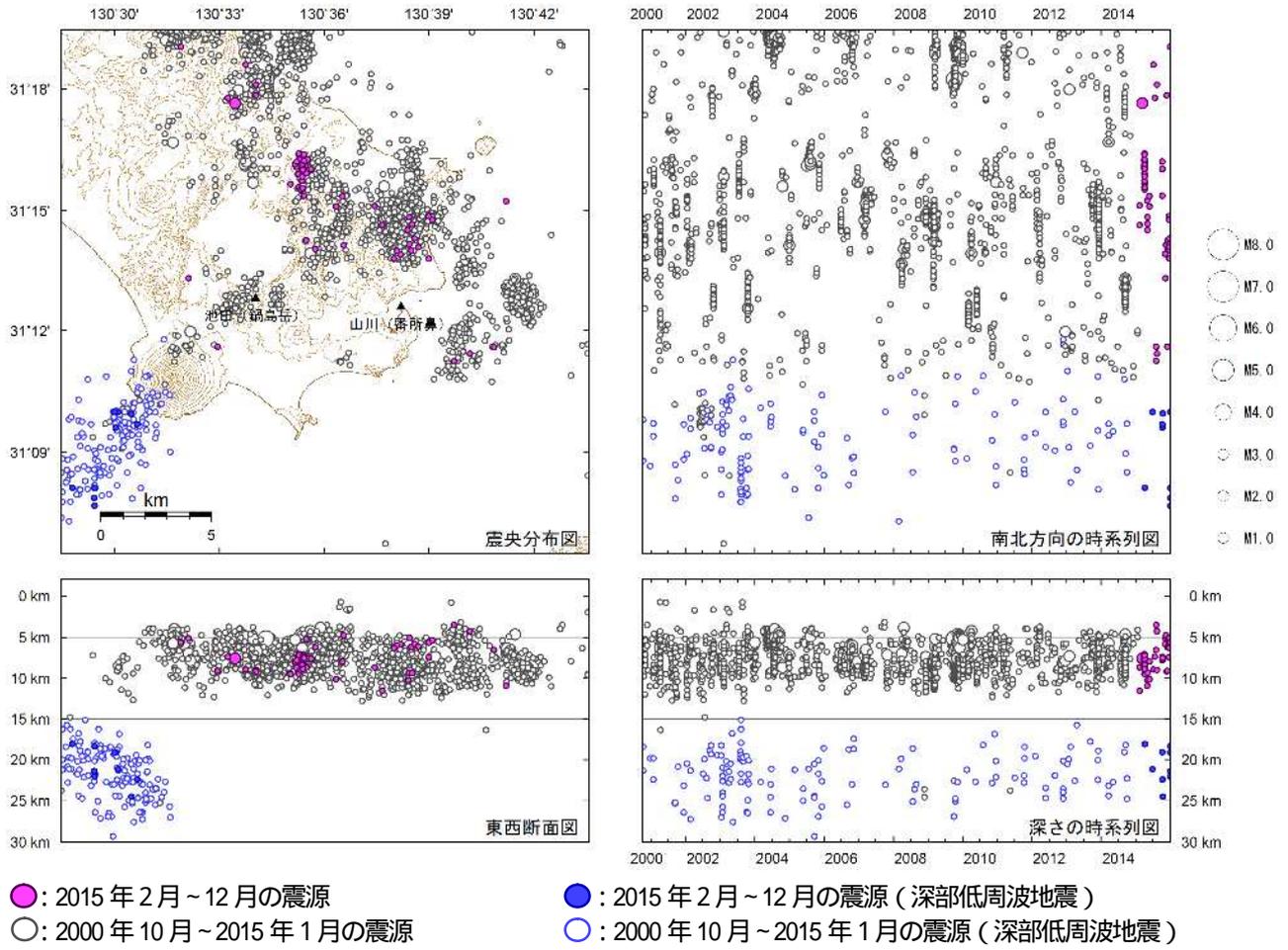
- ・噴気等の状況（第 1 図）  
噴気等の異常に関する通報はなかった。
- ・地震活動（第 2 図）  
周辺領域で時々地震はあるものの、発生状況に特段の変化はなく経過した。

国土交通省九州地方整備局 はるかぜから撮影



第 1 図 池田・山川（2015 年 7 月 24 日 山川港付近）

この資料は気象庁のほか、鹿児島大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成した。

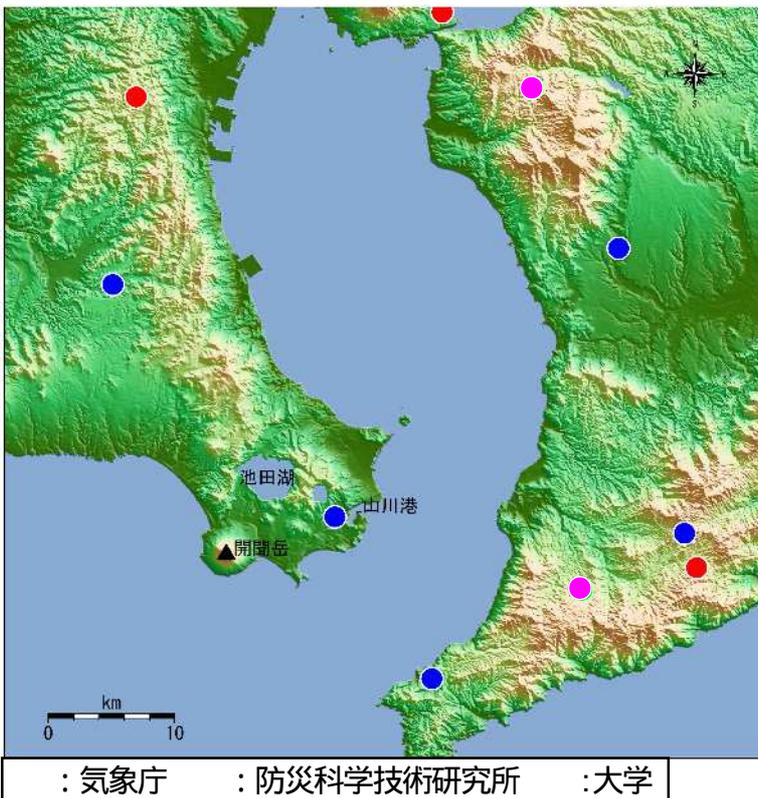


第 2 図 池田・山川 一元化震源による地震活動経過図 (2000 年 10 月 ~ 2015 年 12 月 31 日)

<2015 年 2 月 ~ 12 月の状況>

周辺領域で時々地震はあるものの、発生状況に特段の変化はなく経過した。

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ (標高)』を使用した。



第 3 図 池田・山川 周辺の地震観測点  
この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ (標高)』を使用した。

## 口之島 (2015年12月31日現在)

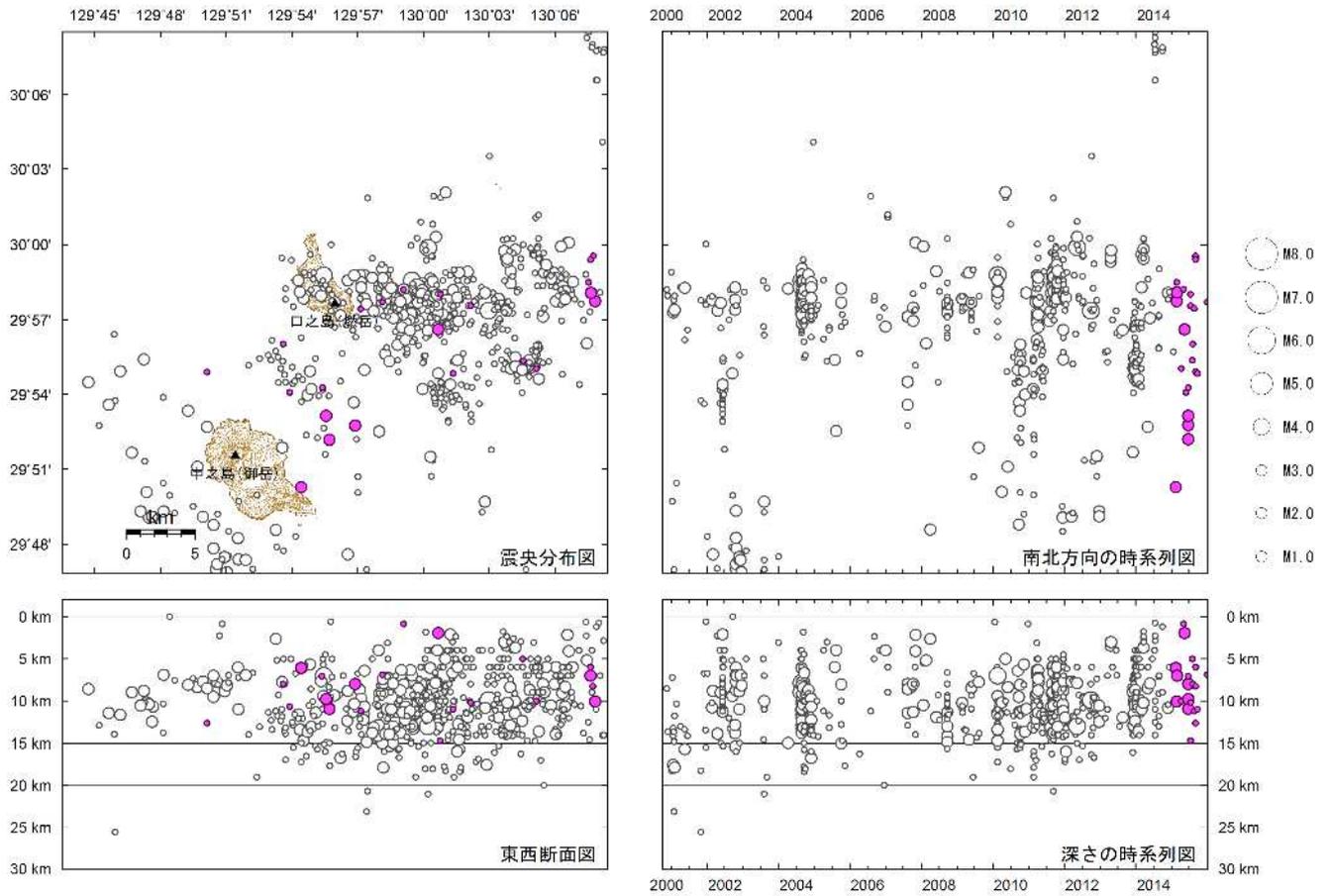
火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は見られない。噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

### 概況（2015年2月～12月31日）

- ・噴気等の状況（第1図）  
噴気等の異常に関する通報はなかった。
- ・地震活動（第2図）  
地震活動は静穏な状態で経過した。



第1図 口之島（2015年1月28日 フェリーから撮影）

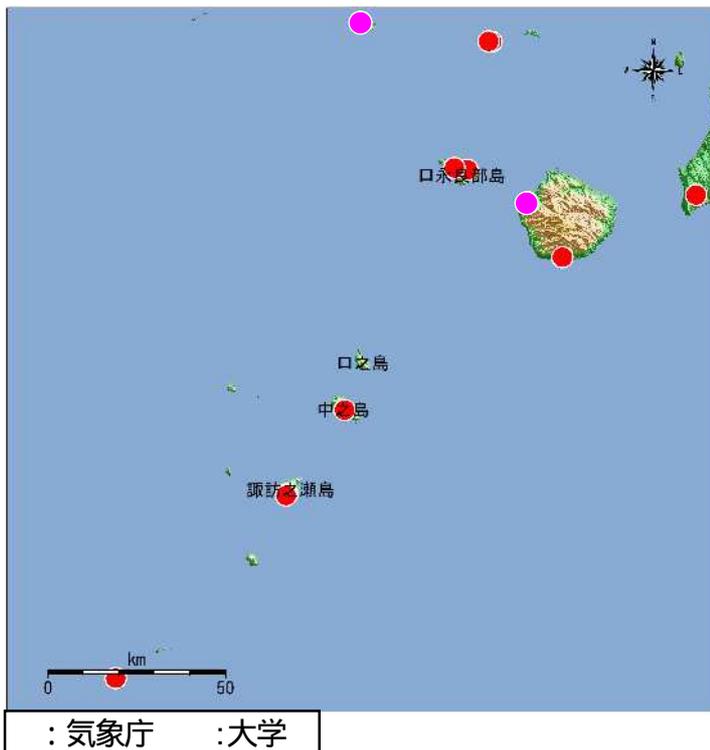


●: 2015年2月～12月の震源  
○: 2000年10月～2015年1月の震源

第 2 図 口之島 一元化震源による地震活動経過図 (2000年10月～2015年12月31日)

<2015年2月～12月31日の状況>  
地震活動は静穏な状態で経過した。

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』を使用した。



第 3 図 口之島 周辺の地震観測点

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』を使用した。

## 硫黄鳥島 (2015年12月31日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

### ○ 概況（2015年2月～2015年12月31日）

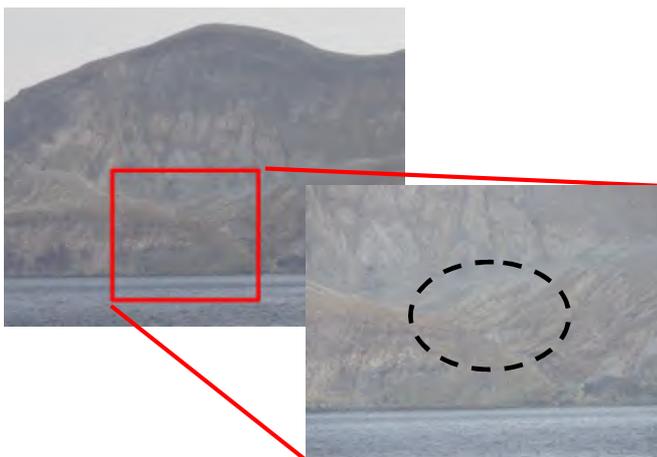
2015年4月、11月に気象庁地球環境・海洋部が実施した海上からの観測、7月に海上保安庁、2月、5月、6月、11月、12月に第十一管区海上保安本部が実施した上空からの観測では、島の北側に位置する硫黄岳火口及び中央部に位置するグスク火山火口で、従来より認められている少量の噴気が確認されたが、その状況に特段の変化は認められない。



第1図 硫黄鳥島 火口位置図

この図の作成には国土地理院発行の2万5千分の1地形図(硫黄鳥島)を複製した。

この資料は海上保安庁、第十一管区海上保安本部のデータを利用して作成している。

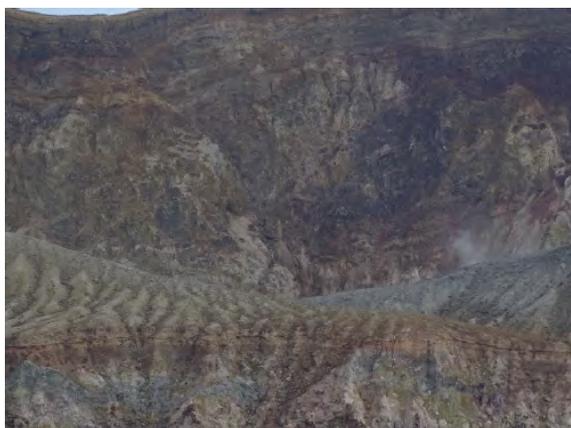


第 2 図 硫黄鳥島 硫黄岳火口の状況  
 (4月26日 火口南西側海上から撮影)



第 3 図 硫黄鳥島 グスク火山火口の状況  
 (4月26日 南東側海上から撮影)

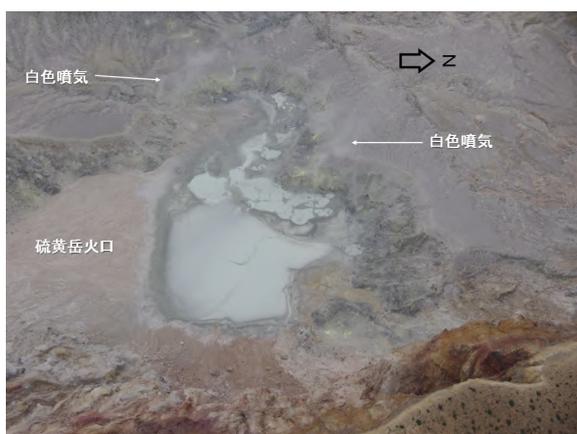
・第 2 図、第 3 図の黒丸内に白色の少量の噴気が認められた。



第 4 図 硫黄鳥島 硫黄岳火口の状況  
 (11月24日 火口南西側海上から撮影)



第 5 図 硫黄鳥島 グスク火山火口の状況  
 (11月24日 南東側海上から撮影)

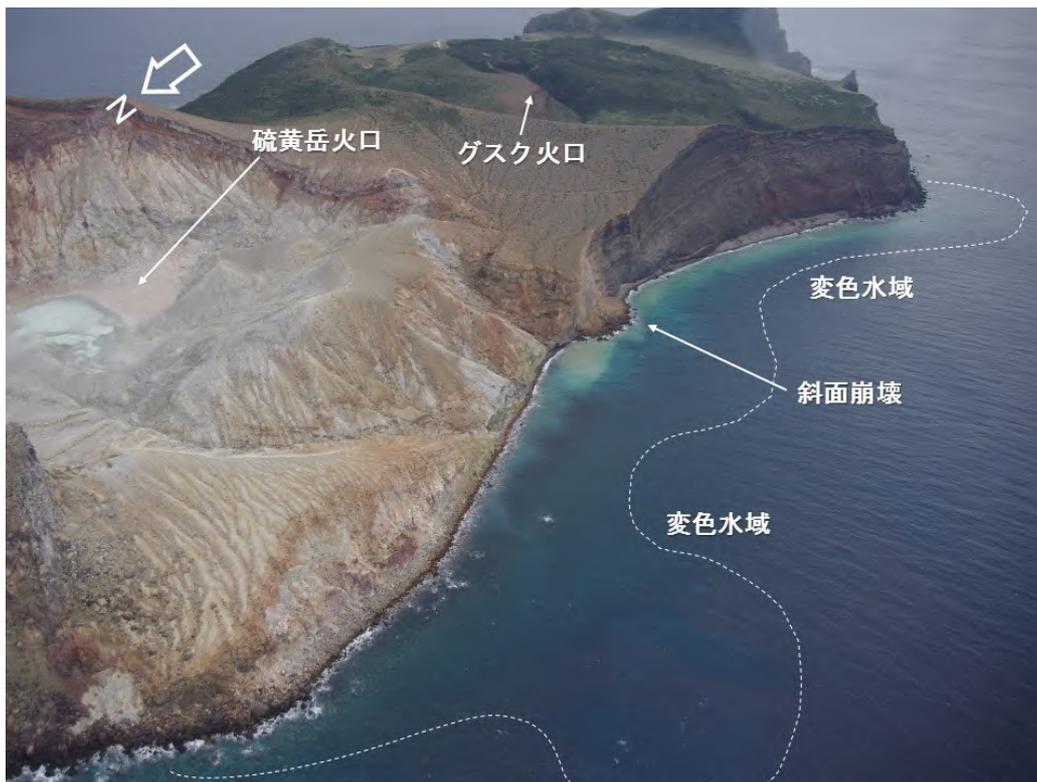


第 6 図 硫黄鳥島 硫黄岳火口の状況 (12月31日 東方向から撮影・第十一管区海上保安本部提供)



第 7 図 硫黄鳥島 グスク火山の北側火口壁及び火口内 (12月31日 西方向から撮影・第十一管区海上保安本部提供)

- ・硫黄岳の噴気帯で、白色の少量の噴気が認められた。
- ・グスク火山の北側火口壁及び火口内で白色の少量の噴気が認められた。



第 8 図 硫黄島 西側海岸線の変色水の状況 (12 月 31 日 北西方向より撮影・

第十一管区海上保安本部提供)

- ・硫黄岳からグスク火山の西側海岸線に沿って長さ約 1400m、幅約 150~300mの淡褐色~青白色の変色水が認められた。

## 西表島北北東海底火山

(2015 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められない。  
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

### ○ 概況（2015 年 2 月～12 月 31 日）

第十一管区海上保安本部の 2015 年 2 月 1 日、3 月 10 日、5 月 18 日、4 月 18 日、6 月 16 日、7 月 27 日、9 月 3 日、10 月 7 日、11 月 5 日、12 月 29 日の観測では、変色水域等の特異事象は認められなかった。

その他、異常報告等はないことから、周辺海域に影響を及ぼすような噴火の兆候は認められない。